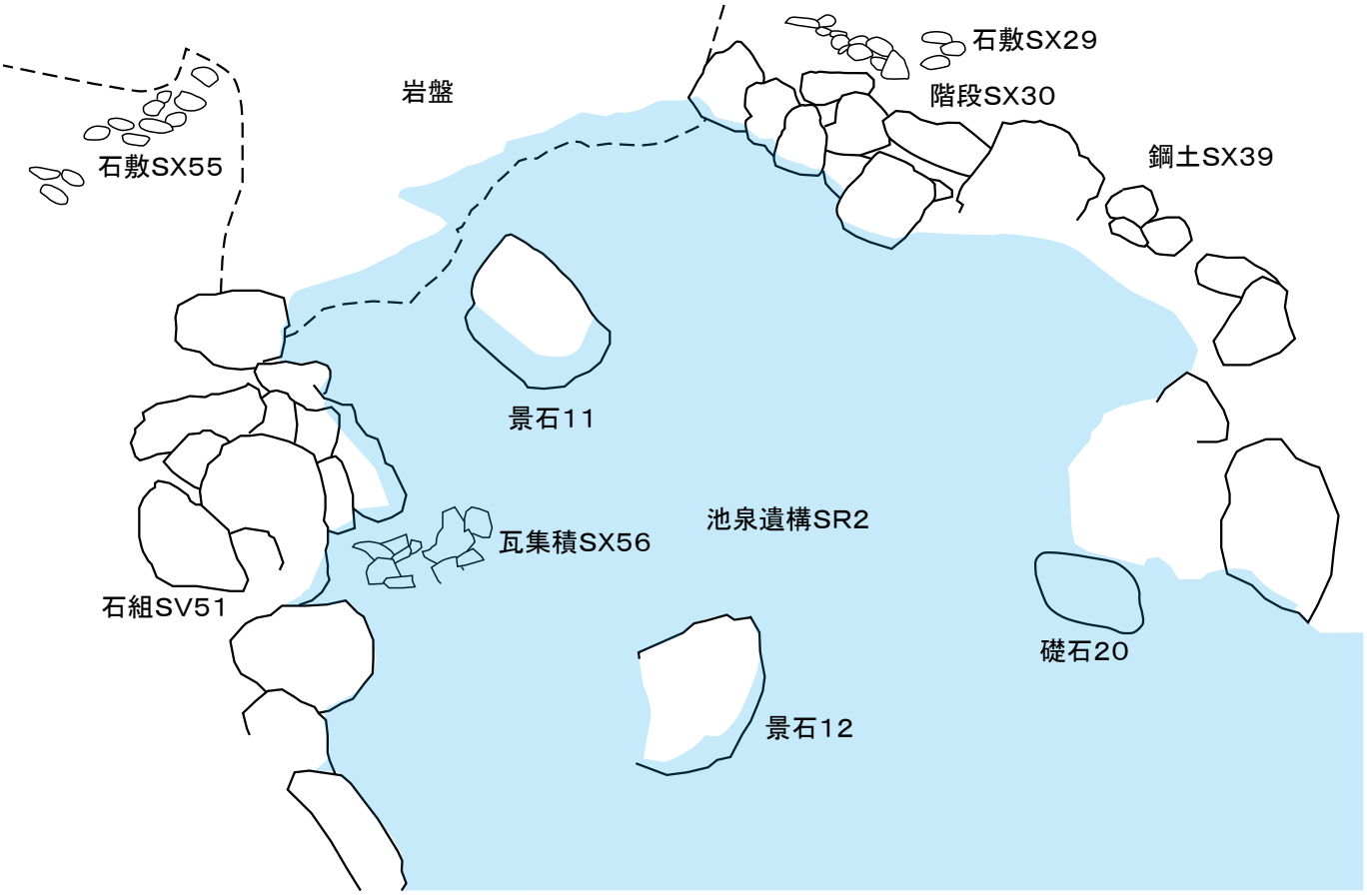
岐　阜　城　跡　４

－　織田信長居館伝承地の確認調査　－

２０１６

岐阜市教育委員会
（公財）岐阜市教育文化振興事業団

池泉遺構SR2（B20トレンチ）



巻頭図版2

池泉遺構SR3（C8トレンチ）

例　　言

１．本書は国史跡岐阜城跡及び岐阜城千畳敷遺跡に所在する埋蔵文化財の発掘調査の報告書である。

２．調査は遺跡の内容確認を目的としたもので、岐阜市教育委員会が実施した。そのうち発掘調査に関する業務の一部を（公財）岐阜市教育文化振興事業団に委託して実施した。

３．調査期間及び調査組織は以下のとおりである。

調査期間

現場調査	平成24年６月４日～平成25年３月14日
	平成26年７月18日～平成27年１月30日
整理・報告作業	平成27年４月１日～平成28年３月24日

指導組織

史跡岐阜城跡整備委員会（平成25年３月28日設置）

中井　均	（日本城郭史）	滋賀県立大学　教授
小和田哲男	（日本中世史）	静岡大学　名誉教授
丸山　宏	（庭園文化史）	名城大学　教授
坂井秀弥	（日本考古学）	奈良大学　教授
麓　和善	（日本建築史）	名古屋工業大学大学院　教授

史跡岐阜城跡整備専門委員会（平成25年３月28日設置）

仁木　宏	（日本中近世史）	大阪市立大学大学院　教授
髙木　洋	（日本考古学）	前岐阜市歴史博物館館長
中井　均	（日本城郭史）	滋賀県立大学　教授
山村亜希	（歴史地理学）	愛知県立大学　准教授
仲　隆裕	（日本庭園史）	京都造形芸術大学　教授
武田　純	（造園）	岐阜県立国際園芸アカデミー　客員教授

調査組織

岐阜市教育委員会

教育長	早川三根夫
事務局長	島塚英之（平成24年４月１日～）
	若山和明（平成26年４月１日～）
社会教育課長	内堀信雄
同　信長学・市史編さん係長	髙橋方紀
同　主査	井川祥子

(公財)岐阜市教育文化振興事業団

理事長	大見富美雄
埋蔵文化財調査事務所長	後藤敏朗（～平成25年３月31日）
	青山武彦（～平成27年３月31日）
	森田幸夫（平成27年４月１日～）
同　職員	恩田裕之・永井三郎・高見哲士、岩田直樹、下村嘉輝

４．調査参加者は下記の通りである。

調査補助員　青木小夜、川橋靖子、高木優子、横井聡子

作　業　員　安藤久子、伊藤キミヨ、伊藤憲二、岩城三枝、上田たかえ、臼井喜七、江崎隆己、

加藤久淳、加藤平和、河野靖夫、小澤和夫、後藤勝利、後藤公志、鷲見米子、高崎和夫
田中真美、辻　春美、土川　裕、林三千雄、平井典子、廣瀬孝一、堀田文夫、宮崎良雄
毛利　徹、安田浩美、柳原正木、山田秀雅、領家正己、渡辺貞子

５．発掘調査の進行は、内堀・髙橋・井川（社会教育課）の指導の下、恩田・永井・高見・岩田・下村（埋蔵文化財調査事務所）を中心に実施した。

６．遺構図版作成、遺物整理、遺物図版作成、写真図版作成は恩田が行った。

７．本書の執筆者は下記のとおりである。第５章の自然科学分析は冒頭に記した。全体の編集は恩田が行った。

『岐阜城跡３』から再掲（第１章）
髙橋方紀（第２章第１節）
恩田裕之（第２章第２・３節、第３・４章）

８．現地での測量作業は（株）イビソクに委託した。

９．自然科学分析は（株）パレオ・ラボに委託した。

10．遺物の写真撮影はアートフォト右文に委託した。

11．出土遺物について下記の方に御教示いただいた。

山茶碗・瀬戸美濃産陶器　　藤澤良祐（愛知学院大学教授）
輸入陶磁器　　尾野善裕（奈良文化財研究所）

12．現地調査及び整理作業の過程で下記の各氏及び各機関に多大なるご指導とご協力を賜った。深く感謝する次第である。

文化庁：市原富士夫、青木達司
岐阜県教育委員会：松野晶信
有識者：高屋麻里子

13．調査記録及び出土遺物は岐阜市教育委員会が保管している。

凡　　例

遺　構

１．図中の方位は真北を示し、座標は世界測地系に準拠した。

２．遺構図の縮尺は、１／50を基本とし、一部は１／60とした。

３．遺構の略号は下記の通り用いた。

ＳＫ：土坑　　ＳＶ：石垣・石積み・石組み　　ＳＶＸ：石列　　ＳＲ：池泉遺構
ＳＸ：石敷遺構・集石遺構・石組状遺構・瓦集積・景石の基礎？・平坦面

遺　物

１．遺物実測図の縮尺は、１／３を基本とし、銅製品の一部を１／２、石製品の一部を１／４とした。また瓦は１／４、銅銭は１／２とした。

２．遺物実測図中の一点鎖線は施釉範囲を示す。

３．土師器皿のトーンはタール痕を示す。また、ナデ調整は実線で示した。

４．遺物観察表の口径および底径については、括弧の値は復元値である。土師器皿における口径と器高の実数は、最大値と最少値の平均値である。

５．遺物集計表の集計値は接合後の破片点数である。

目　　次

第１章　岐阜城跡の地理的・歴史的環境
第１節　立地と環境・・・

挿図目次

第１図　周辺の遺跡・・・

別添図目次

別添図１　山麓居館跡地形測量図
別添図２　Ｂ地区全体図
別添図３　ＢⅢ区平面図
別添図４　Ｃ地区全体図
別添図５　Ｆ地区全体図

表目次

第１表　工程表・・・

写真図版目次

巻頭図版１　池泉遺構ＳＲ２
巻頭図版２　池泉遺構ＳＲ３

写真図版１　珪藻化石の顕微鏡写真・・・

第１章　岐阜城跡の地理的・歴史的環境

第１節　立地と環境（第１図）

岐阜市は岐阜県の中南部に位置する中核都市で、岐阜県の県庁所在地である。地勢は北側の美濃山地と南側の濃尾平野に大きく分けられ、その境界部分、長良川が形成した岐阜扇状地の左岸扇頂部付近にある金華山（標高 329m）に岐阜城は築かれている。

金華山周辺における旧石器時代～縄文時代の遺跡は、東方の日野・寺田遺跡（218・219）が挙げられる。瀬戸内技法のナイフ形石器の接合資料や縄文時代草創期の土器、尖頭器が確認されている。その他、縄文時代の遺物が確認されている周辺の遺跡としては鶯谷遺跡（182）、美殿町遺跡（188）、琴塚遺跡（282）等がある。

弥生時代では前期の遺物が長良川北岸の鷺山蝉遺跡（124）で散見されるが、明確な遺構が確認され、遺跡が増大するのは中期以降のことである。日野・寺田遺跡では周辺から木製鋤が発見されている他、掘立柱建物群が検出されている。金華山南方の梅林小学校遺跡（196）、華陽小学校遺跡（260）、荒田川流域の江東遺跡（251）等で遺物が確認されているが、いずれも本格的な調査は行われておらず、その実態はよくわかっていない。瑞龍寺山の南斜面では、享保年間に銅鐸が出土したと伝えられており、現在は上加納銅鐸として東京国立博物館の所蔵となっている。また金華山南方の瑞龍寺山頂遺跡（185）は弥生時代の墳墓であり、棺型に刳り抜かれた岩盤が現存する。ここでは舶載の「長宜子孫」銘内行花文鏡が弥生時代後期の遺物とともに出土している。

続く古墳時代には、金華山と周辺の山々に古墳が造られるようになる。瑞龍寺山周辺では上加納山古墳群（181）、権現山古墳群（180）、金華山東方では日野第１・２古墳群（200・201）等が築かれる。金華山でも千畳敷遺跡２次調査で横穴式石室（千畳敷古墳）が確認されており、周辺に古墳が点在していたと考えられる。この時期の集落跡は長良川南岸では明確に確認されていないが、北岸の鷺山周辺の遺跡や城之内遺跡（123）では弥生時代終末期から古墳時代にかけての住居跡等が多く検出されている。

７世紀後半になると、岐阜市域にもいくつかの古代寺院が建立される。厚見寺跡（193）は現在の瑞龍寺周辺にあったとされる古代寺院で、境内には長さ2.7mを測る大型の塔心礎（県史跡）が残されているほか、周辺から「厚見寺」「厚見中林寺」の文字を型押しした瓦も見つかっている。このほか、大宝廃寺（244）、鍵屋廃寺（173）、長良廃寺（城之内遺跡）の存在が知られている。古代には鷺山周辺に東山道ルートがあったと推定されているが、特に鷺山蝉遺跡では緑釉陶器や二彩陶器、銅製の巡方が出土していることから、周辺に方県郡の郡役所の存在が推定されている。金華山東方では平安時代後期の灰釉陶器を生産した日野窯跡群があるほか、千畳敷遺跡においても２・３次調査で土坑とそれに伴う土師器等が確認されている。

中世では金華山北東山腹の日野不動洞遺跡（278）において、14世紀末から15世紀前葉を中心に７基の中世墓が確認されており、蔵骨器として使用された古瀬戸四耳壺、瓶子が出土している。千畳敷遺跡でも鋳造関連の遺構や梵鐘の鋳型、「大寺」と書かれた墨書土器などが出土しており、中世段階の金華山西麓には伊奈波神社に関係する寺院施設があったと推定されている。長良川北岸では鷺山蝉遺跡で大規模な堀が確認されているが、この場所は戦国時代の蝉土手城館が築かれる位置とも重なっており、古代から引き続いて重要な地域であったとみられる。

15世紀後半以降になると守護所の存在が顕在化してくる。革手・加納（15世紀後半～16世紀初頭）、福光（16世紀初頭～前葉）、枝広（16世紀前葉）そして山県市の大桑（16世紀第２四半期頃）

と転々と場所を変えることが特徴である。革手・加納は史跡加納城跡（262）、下川手遺跡（263）、水主町遺跡（255）、東川手遺跡（265）が相当する。近世加納城の本丸の位置には、15 世紀後半の守護代・斎藤氏の居城である中世加納城が立地していたと推定されており、この段階の土塁を確認している。福光は鷺山市場遺跡（100）、鷺山仙道遺跡（122）、下土居北門遺跡（98）、正明寺城之前遺跡（95）、鷺山蝉遺跡が相当する。守護城下の地割を示す土地区画の溝が各所で確認されており、総合すると一辺 120mを一区画として碁盤目状に広がっていたと考えられている。鷺山蝉遺跡では同様の区画に沿った堀と土塁に囲まれた城館が確認されており、これが「蝉土手城館」と呼ばれる居館跡であったとみられている。枝広は城之内遺跡が相当する。城之内遺跡では城館の堀が検出されており、その規模は一辺 180m以上と推定される。埋土からは中国銭や中国製磁器等が納められた竹行李が２つ出土した。堀には砂が厚く堆積しており、洪水により廃絶したことを示唆している。

当報告書の調査対象地である金華山西麓の岐阜公園一帯は千畳敷・千畳敷下と呼ばれ、斎藤道三、織田信長等歴代城主の居館が在った場所であると伝えられている。また、史跡岐阜城跡周辺部山域の岐阜城周辺砦群（281）には、砦跡と推定される平坦地や石垣等の遺構が分布している。金華山西側の岐阜城下町遺跡（175）は中世から戦国にかけては稲葉山城・岐阜城の城下町として栄え、幕府直轄領を経て尾張藩領となった近世以後は商工業の町として発展する。城下町は、総構が周囲に巡らされ、その北側に接する長良川周辺には、水運の基点として川湊と尾張藩の川役所があった、中河原遺跡（280）がある。

関ヶ原合戦の前哨戦で岐阜城が廃城になった後は、南部に加納城（262）とその城下町が造られ、中山道の宿場町としても栄えた。現在の岐阜市域はこの加納城下町と岐阜城下町の、２つの町が核となって出来上がっている。

【参考文献】

岐阜市　1980『岐阜市史』通史編原始・古代・中世

岐阜市教育委員会　1987『寺田・日野Ⅰ』

（財）岐阜市教育文化振興事業団　2002『鷺山仙道遺跡』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2003『史跡加納城跡』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2003『平成13・14 年度岐阜市市内遺跡発掘調査報告書』

内堀信雄・鈴木正貴・仁木宏・三宅唯美　2006『守護所と戦国城下町』高志書院

岐阜市鷺山第二土地区画整理組合・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2007『鷺山蝉・鷺山仙道遺跡』

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2009『岐阜城跡』

95	正明寺城之前遺跡	古代～中世	176	岐阜奉行所跡	近世	200	日野第1古墳群	古墳	251	江東遺跡	弥生
98	下土居北門遺跡	古代～中世	177	岐阜城千畳敷遺跡	古代～戦国	201	日野第2古墳群	古墳	252	大野遺跡	弥生
99	鷺山古墳群	古墳	178	岐阜城跡	戦国	202	蝮塚古墳	古墳	253	茜部本郷A遺跡	古代～中世
100	鷺山市場遺跡	古代～戦国	179	北洞古墳群	古墳	203	岩戸山古墳	古墳	254	茜部本郷B遺跡	古代～戦国
116	福光東A遺跡	中世	180	権現山古墳群	古墳	204	二軒屋遺跡	弥生	255	水主遺跡	古代～戦国
117	福光東B遺跡	弥生	181	上加納山古墳群	古墳	205	北一色古墳群	古墳	257	溝旗町遺跡	弥生
119	長良天神遺跡	弥生	182	鶯谷遺跡	縄文	206	野一色古墳群	古墳	258	鶴田町遺跡	弥生
120	鷺山治郎丸遺跡	古代～戦国	183	水道山遺跡	弥生	207	北一色A遺跡	中世	259	竜田町遺跡	弥生
121	太田遺跡	古代～戦国	184	瑞龍寺山西遺跡	弥生	208	北一色B遺跡	古代～中世	260	華陽小学校遺跡	弥生
122	鷺山仙道遺跡	古代～戦国	185	瑞龍寺山頂遺跡	弥生	212	船伏山古墳群	古墳	261	祈年町遺跡	弥生
123	城之内遺跡	縄文～戦国	186	瑞龍寺山東遺跡	弥生	213	日野窯跡群	奈良	262	加納城跡	古代～近世
124	鷺山蝉遺跡	古代～戦国	187	岩戸古墳群	古墳	216	日野北石神遺跡	縄文	263	下川手遺跡	古代～戦国
125	福光花ノ木町遺跡	古代～戦国	188	美殿町遺跡	縄文	218	寺田遺跡	旧石器～弥生	264	上川手遺跡	中世
131	龍門寺遺跡	縄文	189	殿町遺跡	弥生	219	日野遺跡	旧石器～古墳	265	東川手遺跡	古代～戦国
132	龍門寺古墳群	古墳	190	瑞龍寺山第1古墳群	古墳	220	寺田轟遺跡	旧石器	266	平塚古墳群	古墳
133	長良窯跡群	奈良	191	瑞龍寺山第2古墳群	古墳	221	雨池遺跡	弥生	267	前一色古墳群	古墳
134	志段見第1古墳群	古墳	192	瑞龍寺山第3古墳群	古墳	222	雨池東遺跡	旧石器	268	前一色遺跡	縄文～弥生
135	志段見第2古墳群	古墳	193	厚見寺遺跡	古代	244	大宝廃寺	古代	269	長森岩地遺跡	古代～中世
136	長良志段見遺跡	古代～中世	194	篠ヶ谷遺跡	弥生	245	荒屋前遺跡	弥生	270	蔵前遺跡	中世
147	長良古津遺跡	古代～中世	195	金園町遺跡	弥生	246	六条北遺跡	古代～中世	271	高田遺跡	古代～中世
172	東島寺屋敷遺跡	中世～戦国	196	梅林小学校遺跡	弥生	247	六条南遺跡	古代～中世	278	日野不動洞遺跡	中世
173	鍵屋廃寺遺跡	古代	197	雄総第1古墳群	古墳	248	六条東遺跡	古代～中世	280	中河原遺跡	中世～近世
174	鍵屋古墳	古墳	198	雄総第2古墳群	古墳	249	加納梅田町遺跡	古代	281	岐阜城周辺砦群	中世～戦国
175	岐阜城下町遺跡	戦国～近世	199	護国之寺遺跡	古代	250	六条遺跡	古代～中世	282	琴塚遺跡	旧石器～中世

第１図　周辺の遺跡

第２節　岐阜城の歴史

永禄 10 年まで

岐阜城跡の範囲は、金華山の山域とほぼ同一であり、古くは稲葉山と呼ばれていた。この山の南に続き、美濃平野に面する瑞龍寺山には、弥生時代後期の墳墓、瑞龍寺山頂遺跡がある。

また古墳時代には、山尾根筋や山麓部に多数の古墳が築かれる。山麓居館跡の発掘調査でも、第２次調査において石室が発見された千畳敷古墳がある他、登山道沿いにおいても近年の分布調査によって新たな古墳が発見されている。古代では、山麓部の第２次調査において、灰釉陶器・ロクロ土師器を廃棄したと思われる土坑や地鎮遺構が検出されている。

続いて中世に入ると、第３次調査において発見された「大寺」墨書小皿や梵鐘鋳型、石積み、五輪塔、古瀬戸といった遺物・遺構などから、西側山麓部では寺院らしき宗教的施設の存在が推定される。その他、金華山の北東山腹に、多数の古瀬戸四耳壷・瓶子が出土した中世墓群、日野不動洞遺跡がある。以上により、この山域は古くからこの地域の人々にとって重要な墓域であった。

また、稲葉山の麓にある丸山は、伊奈波神社の旧社地であったとされている。一条兼良の紀行文『藤河の記』には、舟で因幡山の麓を過ぎ、この山は因幡社の縁起にある山である、と記している。この「因幡山」は、立地的に現在の伊奈波神社の付近ではなく、丸山ないしは金華山を指していると考えられ、伝承を裏付けるものと言える。前述の３次調査で検出された宗教遺構も、ここにあった旧伊奈波神社に関連した宗教施設である可能性がある。いずれにしても、古代・中世の人々にとって、この山は大きな信仰的な意味を持っていたことが分かる。

城郭利用については、建仁年間に二階堂山城守行政が初めて城を築いたとする伝承があるが（『美濃明細記』など）、確実に利用されていたと分かるのは大永５年（1525）である。このとき長井氏が主家の土岐頼武・斎藤利隆を追放した事件で、南麓の瑞龍寺が戦地となっているが、『朝倉家伝記』によれば、朝倉勢が守護方について、「稲場山ノ城」を攻撃している。

後の天文８年（1539）ごろ、斎藤道三によって伊奈波神社が丸山から現在の地へ移されたと伝えられ、この時までには稲葉山に築城が行われたと考えられる。道三は、同21年ころ守護・土岐頼芸を追放するなど、本格的に美濃を実効支配した。

天文23年（1554）、道三は息子の義龍に家督を譲るが、その２年後には義龍に討たれてしまう。義龍は国内の安定・整備に努めたが、尾張の織田信長との緊張が高まる中、同４年（1561）に病で急逝する。跡を義龍の子・龍興が継いだが、同７年（1564）、稲葉山城が竹中半兵衛重虎（重治）と安藤伊賀守守就に一時奪取された。

織田信長の入城 ～関ヶ原合戦まで

永禄10年（1567）、信長は稲葉山城を落し、龍興を追放して、小牧山から居城を移した。同年の９月から12月にかけて、信長は多くの禁制・安堵状を出して、戦乱で逃亡した百姓・町人の還住と新領地の治安回復に努めている。また、この頃から「天下布武」印を使用するようになり、町の名を井口から岐阜へと改めた。翌年の伊勢出兵に始まる対外戦や、足利義昭を西庄の立政寺に迎えて幕府再興の計画に着手するなど、軍事・政治的戦略が大きく展開していった。義昭の征夷大将軍への補任と二条の御所造営、伊勢長島攻め、延暦寺焼き討ち、義昭追放、朝倉・浅井氏の滅亡、本願寺攻撃、長篠合戦などは、岐阜在城時代の出来事である。

天正３年（1575）信長は家督を嫡子の信忠に譲って岐阜城主とし、翌４年（1576）に近江の安土城へ移った。天正10年（1582）信長・信忠父子が本能寺の変で死亡した後は、岐阜城主は秀吉による人事のもとに置かれることになるが、城主は転々と変わっている。

最後の城主・織田秀信は慶長５年（1600）の関ヶ原合戦の際に西軍に属した。そのため岐阜城は、合戦の前哨戦で東軍の標的となり、８月に落城した。

関ヶ原合戦以後 、近世の岐阜城跡

関ヶ原合戦に勝利した家康は、岐阜城を廃し、西国の守りとして、南方の平地に加納城を築いた。岐阜城の櫓・館の礎石・石垣などはこの時とり壊され、加納城建設のために使用されたといわれる。城を失った岐阜の町は、加納藩領ではなく、徳川蔵入地（直轄領）となった。慶長６年（1601）に大久保石見守長安が美濃国奉行となり、旧城の地を離れた南西、靭屋町・米屋町辺りに陣屋を置いた。元和元年（1615）木曽山及び木曽川・飛騨川流域の要地が尾張藩へ引き渡され、同５年（1619）に岐阜町は美濃国内 142箇村とともに同藩へ加増された。

金華山は尾張藩主の「御山」として一般の立ち入りが禁止され、奉行所に山廻り同心が置かれて普段の見回りに当った。歴代藩主の岐阜御成の際には、鵜飼見物とともに登山・鹿狩りなどが催された。『増補　岐阜志略』には、千畳敷を見た後、百曲から登山した安永６年（1777）、七曲口から登り百曲口へ下った後、千畳敷へ入った天保14年（1843）などの藩主視察の記録がある。江戸後期の様子を描いたと思われる『岐阜御山附近図』には、山と平地の間に柵がめぐらされ、所々に冠木門が描かれる。また伊奈波神社蔵の『稲葉山城趾之図』には、山頂の矩形階段状の石垣、尾根筋の施設を囲む石垣、山麓居館部分と思われる長方形の区画などが見える。現在残る地形と一致するところが多く、当時の、遺跡としての岐阜城跡の状況をよく表していると思われる。

しかし、江戸時代を通じて、山と山麓の城主居館があった部分、及びその前面の平地には、大規模な施設は建設されなかったと考えられる。

近現代の公園整備

明治に入り、金華山は官林となり、一転して土地利用が進むようになった。明治10年（1877）富茂登村に、岐阜中教院が開院した。岐阜公園内の北寄りで行われた第３次調査で「中教院」と記された染付坏が出土している。ここは板垣退助遭難の地として有名である。

山麓は近代都市公園として整備された。明治15年（1882）に公園設置の請願・認可がなされ、21年（1888）に開園式が行われ、26年（1893）に市に移管された。37年（1904）に名和昆虫研究所が京町から移転し、40年（1907）に記念昆虫館が竣工している。また、金華山の山頂には、43年（1910）に三層木造トタン葺きの模擬天守が建った。

大正期には再度岐阜公園の整備が行われ、大正３年（1914）に再度、開園式が行われた。その翌年に公園の西北長良川を渡る長良橋が鉄製橋に架け替えられたが、この廃材で大正６年（1917）三重塔が山腹に建立された。翌７年（1918）には中教院が公園から移転し、10年（1921）にかけて跡地に相撲場・運動場・庭園が造設され、板垣退助像が建立された。大正８年（1919）には名和昆虫博物館が開館している。

第二次世界大戦後は、公園開発が再び盛んになる。昭和30年（1955）に金華山ロープウェー建設されている。また明治期に建てられた模擬天守は、昭和18年（1943）失火により焼失してしまうが、戦後の天守復興気運の中、昭和31年（1956）に現在のコンクリート造の天守が再建されている。昭和38年（1963）には金華山ドライブウェーが建設されている。その他、昭和中期には県立図書館、水族館、児童科学館などの施設建設が相次いだが、これらは昭和末から平成にかけて、老朽化・機能移転により解体されている。現在まで続く文化施設としては、昭和60年（1985）に岐阜市歴史博物館が、平成３年（1991）に加藤栄三・東一記念美術館が開館し、現在へと至っている。しかし、これら開発のため、山麓居館や山上部の城があったと推定される場所は、その多くが公園・施設整備がなされ、地下の遺構は大きく影響を受けたと考えられる。

近年の発掘調査と岐阜城跡の重層的価値

昭和59年（1984）織田信長居館伝承地の西側山麓部において、第１次発掘調査が始まった。調査によって、信長は斎藤氏時代に造成された地形をベースとして利用しつつ、再造成と施設の建設を行ったことが推測された。調査に続く史跡整備事業では、検出された居館入口の通路を復元した。その後、公園整備に伴う２次・３次調査では、信長・斎藤氏段階の遺構、それ以前の宗教施設や古墳等が検出され、この場所が城郭として利用される前は、宗教施設として利用されていたことが確認できた。

平成19年度より、内容確認のための第４次調査が行われており、山麓居館に関する多数の石垣や庭園遺構、建物の礎石等が検出された。遺物としては、陶磁器の他、戦国期の瓦や焼けた壁土等が出土している。このような調査の進展により、調査成果に基づく遺構の状況と、ルイス・フロイスや山科言継などの訪問記録との対比がより出来るようになった。また、発掘調査と同時に、山林部の分布調査を実施したところ、山中の砦跡と思しき多数の遺構が確認された。その多くは「稲葉城趾之図」に描かれている砦跡と対応するもので、文献調査の成果と合わせ、山全体が城域であることが判明した。これらの成果を受け、岐阜城跡は平成 23 年に国史跡に指定されている。

岐阜城跡は、岩盤地形・植生・動物等、豊富な自然を有している。景勝地として古くより多数の歌に詠まれ、山上眺望など景観的な価値も高い。また、前述のように古くからの信仰価値の高い山でもある。その他、山麓部の岐阜公園は近代以降の公園整備の課程を色濃く残したもので、公園としての価値も高い。このように岐阜城跡は城郭の価値の他にも、多様な価値が混在した史跡であることが分かる。

【参考文献】

黒川真道編　1915『美濃国諸旧記 全　濃陽諸士伝記 全』 国史研究会

平塚正雄編　1937『濃州徇行記　濃陽志略』 一 信社出版部

平塚正雄編　1932『美濃明細記　美濃雑事記』 一信社出版部

平塚正雄編　1931『新選美濃志』一信社出版部

矢崎正治編　1934『尾濃栗見聞集・岐阜志略』大衆書房

松田毅一・川崎桃太訳　1978『日本史』 中央公論社

松田毅一監訳・東光博英訳　1998『十六・七世紀イエズス会日本報告集』第Ⅲ期第３巻　同朋舎出版

松田毅一監訳　1987『十六・七世紀イエズス会日本報告集』 第Ⅰ期第２巻　同朋舎出版

松田毅一監訳　1988『十六・七世紀イエズス会日本報告集』 第Ⅰ期第３巻　同朋舎出版

岐阜市教育委員会・（財）岐阜市教育文化振興事業団　2009『岐阜城跡』

岐阜市・岐阜市教育委員会 2012『史跡岐阜城跡　保存管理計画書』

第２章　発掘調査の経過

第１節　調査の経緯

岐阜市では、平成18年度に岐阜市総合計画、金華山・長良川まるごと博物館構想の下、岐阜城と岐阜城下町を含む地域である金華地区を対象として、『岐阜町発祥の地・まちなか歩き構想』を策定した。これは、岐阜の地に溶け込む魅力を掘り起し、心の豊かさを感じられるまちづくりの実現を目的としたものである。同時に策定された岐阜公園基本計画では、「信長の時代を語る岐阜公園」をテーマに公園整備を行う方針が示された。その中で岐阜城千畳敷遺跡（岐阜城跡山麓居館跡）については、発掘調査による内容確認の実施と、その効果的活用の検討を行うこととされている。合わせて調査の現状や成果を市民等に広く公開し、観光資源として活用することが方針に盛り込まれた。

上記の計画を受け、岐阜市教育委員会では、平成19年度からは館の全体像を明らかにするために４次調査を開始した。当初は遺跡の内容確認のためのトレンチ調査であったが、平成25年度からは史跡整備事業を推進するため調査を行っている。

調査主体は岐阜市教育委員会社会教育課であり、業務の一部を（公財）岐阜市教育文化振興事業団に委託して実施している。

４次調査期間中の平成22年１月に岐阜市教育委員会から文部科学大臣に史跡指定の意見具申が行われ、11月19日に国文化審議会の答申を受けた。平成23年２月７日付け文部科学省告示11号により、岐阜城千畳敷遺跡を含む金華山一帯（約209ヘクタール）が国史跡に指定された。

平成23年度には史跡岐阜城跡の保存管理方針や現行変更等の基準を示した『史跡岐阜城跡保存管理計画』、平成24年度に今後の史跡整備の基本的な方針及びその手法の概略、事業計画等をまとめた『史跡岐阜城跡整備基本構想』、平成25年度にサイン計画の基本的な方針等を定めた『史跡岐阜城跡サイン計画』、平成26年度には具体的な整備、公開、活用、体制に関する計画、今後の事業計画を示した『史跡岐阜城跡整備基本計画』を策定した。

平成19・20年度の調査成果は『岐阜城跡』、平成21～23年度の調査成果は『岐阜城跡２』、平成25年度の調査成果は『岐阜城跡３』として報告されている。本報告書では平成24・26年度の調査成果を報告する。

第２節　調査の方法

調査を行うにあたり、「史跡岐阜城跡整備委員会」および「史跡岐阜城跡調査専門委員会」を発足させ、検出された遺構の評価やその解釈、発掘調査の方針等について専門的見地から指導を受けながら実施している。両委員会は年３回程度開催し、さらに検出された遺構に応じて委員や有識者に個別に指導を求めた。また、文化庁文化財部記念物課、岐阜県教育委員会社会教育文化課にも方針についての指導を受けた。

掘削作業は人力により行った。基本的に戦国期上層面の１面のみの調査にとどめたが、一部サブトレンチを設定して下層遺構の確認を行っている。遺構埋土や遺構上面を覆う焼土層等については、保存の観点から半裁もしくは部分的な掘削にとどめている。埋戻しの際には遺構面上に不織布を敷いた上、埋め戻し、遺構の保護をはかっている。

図面は基本的に１／ 20 縮尺で作図した。一部の平面実測図及び土層断面図を手作業により行っているが、平面図、立面図、断面図とも写真測量等による作図を委託して実施した。

写真は中判カメラ（６×７）の白黒・ネガカラー、一眼デジタルカメラ、35㎜ネガカラー一眼カメ

ラにより撮影している。その他、調査進捗状況の映像記録として、月１回程度のペースでハイビジョンカメラによる撮影を行った。

測量に際しては、座席は世界測地系の平面直角座標系（第Ⅶ系）、水準は東京湾平均海面（T.P.＋値）を基準としている。土層の色調については『新版標準土色帳』を用いた。

また調査方針に基づき、発掘調査の過程や成果を広く市民に公開するため、現場周辺にのぼりや木製フェンスを設置し、見学しやすい雰囲気作りを行うとともに、現地事務所の一部を発掘調査案内所としてパネル展示や映像による紹介等を行った。

第３節　調査の経過

平成24年度の調査は、Ｆ地区から着手した。６月４日、機材の搬入をし、フェンスを設置、調査区の設定を行った。６月５・６日に重機掘削を行い、終了次第人力による掘削を開始した。７月４日、発掘調査専門委員会（平成25年度「整備専門員会」に名称変更）が開催され、委員の現場視察があった。７月10日、Ｆ４トレンチの写真撮影を行い、７月17日より埋め戻しを行った。

７月19日、Ｃ地区の調査区を設定した。７月24日にフェンスを設置し、25日から人力掘削を開始した。Ｃ８・Ｃ９トレンチとも、前年度まで像や碑が置かれていた場所で、最初はそれらによる撹乱の掘削から行った。Ｃ９トレンチはＣ地区へ至る通路の確認を目的としていたが、埋没深度が大きく、以降年度末まで拡張を繰り返して、調査を継続した。記録をとった後、平成25年３月５日より埋め戻しを開始し、３月13日に終了した。

Ｃ８トレンチは当初Ⅲ層上面を検出し、礫の崩落状況を確認した。９月４日、礫は巨大な土坑状の遺構に堆積していると見られ、池である可能性が浮上してきた。９月５日には礎石を検出し、礫層を掘り下げる方針を固めた。９月28日、池底には小円礫が残存する自然堆積層が堆積していることが判明する。10月中に自然堆積層上面の検出が終了し、11月２日、写真撮影を行った。11月８日、発掘調査専門委員会があり、委員の現場視察が行われた。11月12日、遺構の測量作業を行い、翌日から土層図等の実測を行った。11月24日には、Ｃ８区の現地説明会を実施し、500名ほどの見学者があった。埋め戻し作業は平成25年３月13日より行った。遺構面上に不織布を敷き、その上に土のうを並べ、重機を使用して現地表の高さまで排土で埋め戻した。翌３月14日には埋め戻しが終了した。

Ｂ20トレンチは11月27日より取りかかった。現代の造成土が多量に堆積しており、この掘削に多くの時間が割かれた。12月20日頃に現代の造成土を完掘し、Ⅱ層にあたる自然堆積層の掘り下げに移行した。平成25年１月16日、砂に極小の円礫が混じる池底の一部を確認した。以降、池底の検出と東斜面の確認を行い、２月25日に全景の写真撮影を行った。２月26～28日には測量作業を行った。委員会での指導を受け、緻密な等高線を作成するため、池底のみレーザー計測を実施している。３月１日より埋め戻し作業に取りかかった。遺構面上に不織布を敷き、その上に土のうを並べ、シートで覆った。３月19日に埋め戻しが終了し、機材の搬出を行い、３月22日、現場での全ての作業が終了した。

平成26年度の調査はＣ10トレンチから着手した。平成26年７月18日、フェンスの設置を行い、調査を開始した。８月１日整備専門委員会が開催され、現場の視察があった。８月30日、南半の掘削が概ね終了し、北半の掘削に取りかかった。９月28日、全景写真の撮影を行い、10月１日より実測作業に入った。11月７日、Ｃ11トレンチの設定をし、人力での掘削作業を開始した。12月８日、整備委員会が開催され、現場の視察が行われた。平成27年１月８日、全景の写真撮影を行い、１月17日一般向けの現地説明会を実施した。１月20日から測量、実測作業を行い、１月23日より埋め戻し作業を開始した。両トレンチは翌年度からの調査範囲内であることから、遺構面に不織布を敷き、土のうで埋め戻しを行い、シートを敷設した。１月30日、機材を搬出し、現場での作業は終了した。

F3
F4
加藤栄三・東一
記念美術館
美術館地区
ロープウェイ地区
ロープウェー
山麓駅
E地区
F地区
整備地区
A地区
C地区
C11
C10
C9
C8
B地区
谷川地区
B20
D地区
X=-62600
X=-62650
X=-62700
X=-62750
Y=-35650
Y=-35600
Y=-35550
Y=-35500
Y=-35450
Y=-35400
0
50m
平成 19･20 年度調査区『岐阜城跡』
平成 21 ～ 23 年度調査区『岐阜城跡2』
平成 25 年度調査区『岐阜城跡3』
平成 24･26 年度調査区（本報告）

第２図　トレンチ位置図

地区		トレンチ	面積	年度	19	20	21	22	23	24												25	26											
				月						4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
A地区		1	30		■																													
		2	4		■																													
		3	23			■																												
		4	16			■																												
		5	24			■																												
		6	12			■																												
		7	33			■																												
		8	15			■																												
		9	12						■																									
		10	33						■																									
		11	12						■																									
		12	8						■																									
		13	6						■																									
		全面	1500																			■												
B地区	BⅠ	2	12		■																													
		7	34			■																												
		13	30				■																											
		14	28				■																											
		17	12				■																											
		18	8				■																											
		19	180					■																										
	BⅡ	1	38		■																													
		3	20			■																												
		4	12			■																												
		5	30			■																												
		6	35			■																												
		12	14				■																											
		15	22				■																											
		16	12				■																											
	BⅢ	8	20				■																											
		9	20				■																											
		10	72				■	■																										
		11	12				■																											
		20	173															■	■	■	■													
C地区		1	22			■																												
		2	35			■																												
		3	24			■																												
		4	24			■																												
		5	12					■																										
		6	88					■																										
		7	30					■																										
		8	58										■	■	■	■	■	■																
		9	74										■	■	■	■	■	■	■	■	■													
		10	36																							■	■	■	■					
		11	42																											■	■	■		
D地区		1	24			■																												
		2	22			■																												
		3	10			■																												
		4	10			■																												
		5	16			■																												
		6	26			■																												
		7	16			■																												
		8	14			■																												
		9	39			■																												
E地区		1	8						■																									
		2	13						■																									
		3	12						■																									
		4	6						■																									
		5	32																			■												
F地区		1	8			■																												
		2	12			■																												
		3	13									■	■																					
		4	11									■	■																					

第１表　工程表

第３章　遺構

第１節　調査地区（平坦地）と遺構の概観（第５・６図）

山麓居館跡（岐阜城千畳敷遺跡）では永禄10年から慶長５年までに構築された平坦地の様相が、これまでの発掘調査によって明らかになりつつある。『岐阜城跡』においてその復元図が提示され、新たな成果により『岐阜城跡２』・『岐阜城跡３』で修正を行った。これに基づき、本報告に掲載する地区の立地を確認しておきたい。各平坦地の概要は下表のとおりである。

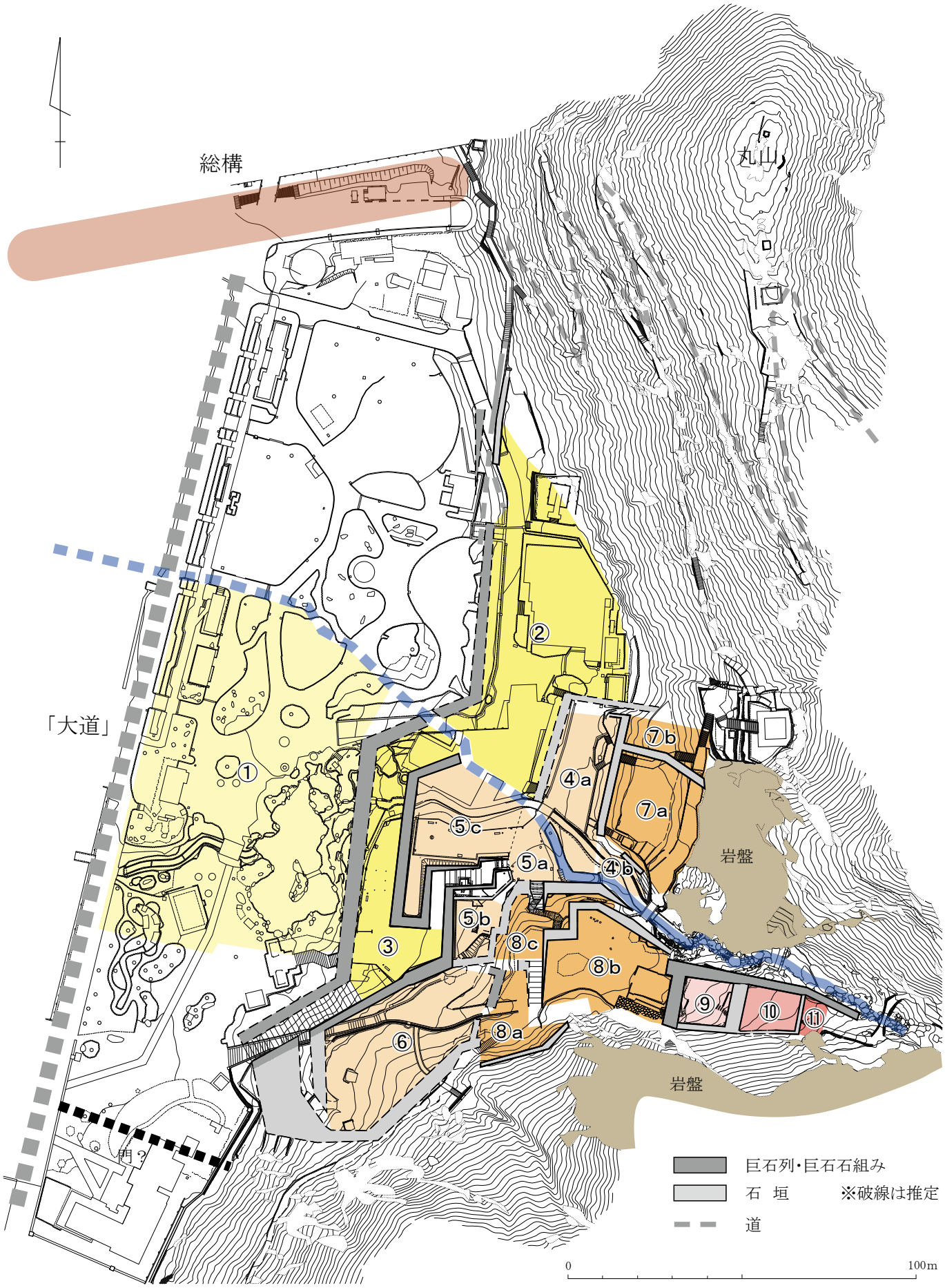
Ｂ20トレンチを設定したＢⅢ区は平坦地⑪（標高約47.0ｍ）とその東側の斜面に該当する。ＢⅢ区は山麓居館跡の最高所で、平坦地の推定の大きさは、南北、東西ともに約11ｍと小さく、平面形は台形状を呈する。そのうち東半分を池泉遺構ＳＲ２が占める。西半分は後世の撹乱や削平が著しく、ＢⅢ区全体で見てもＳＲ２の底と西岸周辺のみ当時の面が残存すると考えられる。Ｂ地区は、最下段のＢＩ区からＢⅢ区へと高くなる。ＢＩ区の標高は約39.5ｍ、ＢⅡ区は約45.0ｍを測り、ＢＩ区とＢⅡ区の高低差が5.5ｍあるのに対して、ＢⅡ区とＢⅢ区は2.0ｍ程度しかない。ＢⅡ区、ＢⅢ区ともに建物の痕跡を確認していること、境界を成す石垣に階段等の虎口施設が設けられていないこと、ＢⅢ地区は平坦部分が極めて狭小であることから推測して、両地区に跨って一体化した建物が構築されていた可能性が高い。

Ｃ地区は平坦地⑧にあたり、居館の中心的な建物があったと推定しているところである。その入り口部分には、高さが異なる平坦地⑧ａ・⑧ｃが配置され、複雑な構造を呈する。本書の調査においてもＣ９トレンチ、Ｃ10トレンチを設定したが、Ⅲ層の堆積が厚く、構造を明らかにすることができなかった。Ｃ８トレンチは平坦地⑧ｂの最奥、平坦地⑨との境界を成す巨石列の直前において池泉遺構ＳＲ３を検出した。Ｃ11トレンチは平坦地⑧ｂの北側斜面にあたり、Ａ地区で検出した虎口状遺構と対になる可能性がある遺構を確認した。

Ｆ地区は山麓居館跡の最下段に当たる。標高は約18.2～19.0ｍ、最高所とは約30ｍの高低差がある。Ｆ地区は公園整備の際の撹乱が著しく、上部が削平されていることが多いが、現公園に設けられた築山状の植え込み内に設定したＦ４トレンチでは、良好な残存状況が見られた。

平坦地番号	段	調査区	細分	標高(m)	推定面積(㎡)	主な出土遺構・遺物
①	第1段	F地区		18.2～19.0	6,000	井戸
②	第2段北	2次調査区周辺		24.0～25.0	2,400	州浜状遺構・竈
③	第2段南	1次調査区		22.5～23.5	850	巨石列・土塁
④	第3段北	E地区	a	27.5～28.5	600	礎石・桝状遺構
			b	29.1～29.4	100	集石遺構
⑤	第3段南	1次調査区	a	27.0	200	礎石
			b	27.5	200	
			c	25.5	600	
⑥	第3.5段	D地区		29.1～29.4	1,200	
⑦	第4段北	A地区	a	31.0～31.5	750	池泉遺構・礎石
			b	32.0～33.0	180	周辺で多量の遺物出土（→建物？）
⑧	第4段南	C地区	a	33.3～33.5	800	礎石・金箔貼り飾り瓦
			b	33.5～34.0	200	池泉遺構・礎石
			c	30.3	200	礎石
⑨	第5段	ＢＩ地区		39.2～39.5	200	半地下式建物
⑩	第6段	ＢⅡ地区		44.5～45.0	230	水路・礎石
⑪	第7段	ＢⅢ地区		47.0	120	池泉遺構

第２表　平坦地一覧表



第３図　山麓居館跡地形復元図

第２節　基本層位

１．基本層序

本報告書では、平成19～23・25年度の成果をまとめた報告書『岐阜城跡』・『岐阜城跡２』・『岐阜城跡３』に掲載した基本層位に準じて報告する。

岐阜城千畳敷遺跡では、現代までの長きにわたり、槻谷の谷川によって形成された扇状地を削平、盛土をして、人工的な段々の平坦地が造り出されている。過去の調査においても複数の整地層を確認しているが、戦国期（上層・下層）と近現代のものに大別できる。両者の間の自然堆積層や戦国期上層廃絶前後の時期、さらに戦国期を上層（上面が第１遺構面）と下層（上面が第２遺構面）に細分して、以下のとおりの基本層位とした。

Ⅰ層（近現代堆積層・公園造成土・表土）

近代以降と確定できる土層。成因は岐阜公園整備に伴う整地層や、山からの崖錐堆積物などによる自然堆積層である。

Ⅱ層（自然堆積層）

主に山からの崖錐堆積物により形成された自然堆積層、主な堆積時期は近世から近代と考えられる。

Ⅲ層（廃絶前後の堆積層）

戦国期上層遺構廃絶直後の堆積や、その後の片づけや整地によるとみられる層。遺構構築後、廃絶までの自然堆積層もこれに含んでいる。

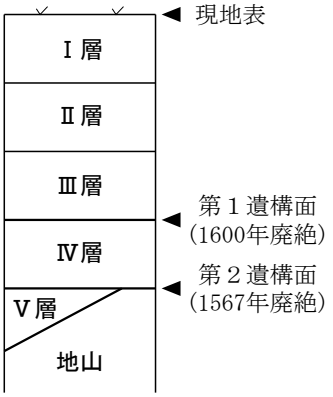
なお、平成27年度のＣ地区における発掘調査で、これまでⅢ層と認識していた層の一部が、上層段階における改修に伴う整地層（Ⅳ層）と判明した。よって『岐阜城跡２』掲載の土層解釈について修正があったが、詳細は後述する。

Ⅳ層（戦国期上層整地層）

第２遺構面廃絶後に形成された整地層で、第１遺構面の基盤となる層である。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｅ地区では上面に一部火災の跡がみられる。遺構面の存続期間は最長、永禄10年（1567）から慶長５年（1600）頃と推定している。

Ⅴ層（戦国期下層整地層）

第２遺構面の基盤となる層である。Ⅳ層直下が地山である箇所もあり、一部ではⅤ層が見られない。Ｄ地区では上面に被熱痕が見られる。Ａ地区では遺構面上面の被熱は確認できないが、Ⅳ層中に大量の焼土・炭化物が包含されることから、廃絶時に被熱している可能性は高い。廃絶時期は永禄10年頃と推定している。



第４図　基本層位柱状図

地山

Ａ地区平坦地北半や南端で確認できる砂礫層。北半は崖錘堆積物、南端は谷川による扇状地堆積物と考えられる。今までの調査では遺物が包含されておらず、地山と考えている。

以上は、遺跡全体を通しての基本層位であるが、以下に各地区の様相を記述する。

２．Ｂ地区

Ｂ地区は３段の平坦地に細分でき、下からＢⅠ～Ⅲ区（第３図⑨～⑪）に分けている。いずれの区においてもⅠ～Ⅳ層を検出しているが、Ⅴ層はＢⅡ区の断割トレンチのみの確認である。Ⅲ層の詳細は、遺構廃絶時の炭・焼土層、石垣崩落層、遺構廃絶までの自然堆積層の３層があるが、ＢⅠ区とＢ

Ⅱ区では全ての層が検出でき、ＢⅢ区では、遺構廃絶時の炭・焼土層のみが見られない。

３．Ｃ地区

Ｃ地区は大規模な改修が行われているが、改修前は３つの平坦地に細分されると考えられる（第３図⑧ａ～⑧ｃ）。⑧ａと⑧ｂのレベルに差はなく、⑧ｃから上る通路によって画される。⑧ｃは平坦地⑤と⑧ｂの中間的な高さに広がる平坦地と推定している。改修後は概ね一つの平坦地となる。

Ⅰ　層：現代盛土・表土・公園造成土

Ⅱ　層：自然堆積層

Ⅲ　層：遺構廃絶後の整地層・廃絶時の堆積層（炭・焼土・崩落礫）

Ⅳ１層：戦国上層整地層（改修第２工程）

Ⅳ２層：戦国上層整地層（改修第１工程）

Ⅳ３層：戦国上層整地層（当初）

Ⅴ　層：戦国下層整地層

Ｃ８トレンチでは、公園造成土及び撹乱によるⅠ層が堆積する下に、層厚約80cmの廃絶時の堆積Ⅲ層がある。巨石列の石材と考えられる巨石や崩落した裏込めと考えられる礫層から成り、その中にはＢ地区から流入したと考えられる大量の壁土が包含される。Ⅲ層は池泉遺構ＳＲ３全体を埋めるように堆積しており、特に東側が厚い。その下はＳＲ３の底を形成するⅣ層であるが、断割等を実施していないため、改修や戦国下層整地層の有無は不明である。

Ｃ９トレンチは『岐阜城跡２』に掲載されているＣ６トレンチの基本層位に準ずると当初は考えていたが、平成27年度の調査によって、新たな解釈が必要となった。『岐阜城跡２』では、Ⅲ層を上からⅢ-1(上)、Ⅲ-1(下)、Ⅲ-3、Ⅲ-4の４層に分けているが、Ⅲ-1(下)以下の３層は全てⅣ層の一部であることが分かった。つまり戦国期上層段階で改修を行っている可能性が極めて高い。よってⅣ層の最初の整地層をⅣ３層、改修整地層をⅣ２層、Ⅳ１層とする。Ⅳ２層は１次ＳＶ６の下部を埋め、上面が硬く締まる。また、ＳＶ６を取り壊した石材や裏込め礫が直上に堆積することから、改修の第１工程の整地層と考えている。Ⅳ３層は１次ＳＶ６の前面及びＣ６トレンチ内のみでの確認である。Ｃ６トレンチで検出したⅣ３層は上面が被熱し赤化しており、大量の炭と共に遺物が多く出土している。さらに下には、第２遺構面の基盤層となるⅤ層と、それに伴う南北方向の石積み遺構ＳＶ23が検出された。Ⅴ層上面は非常に硬く締まる。

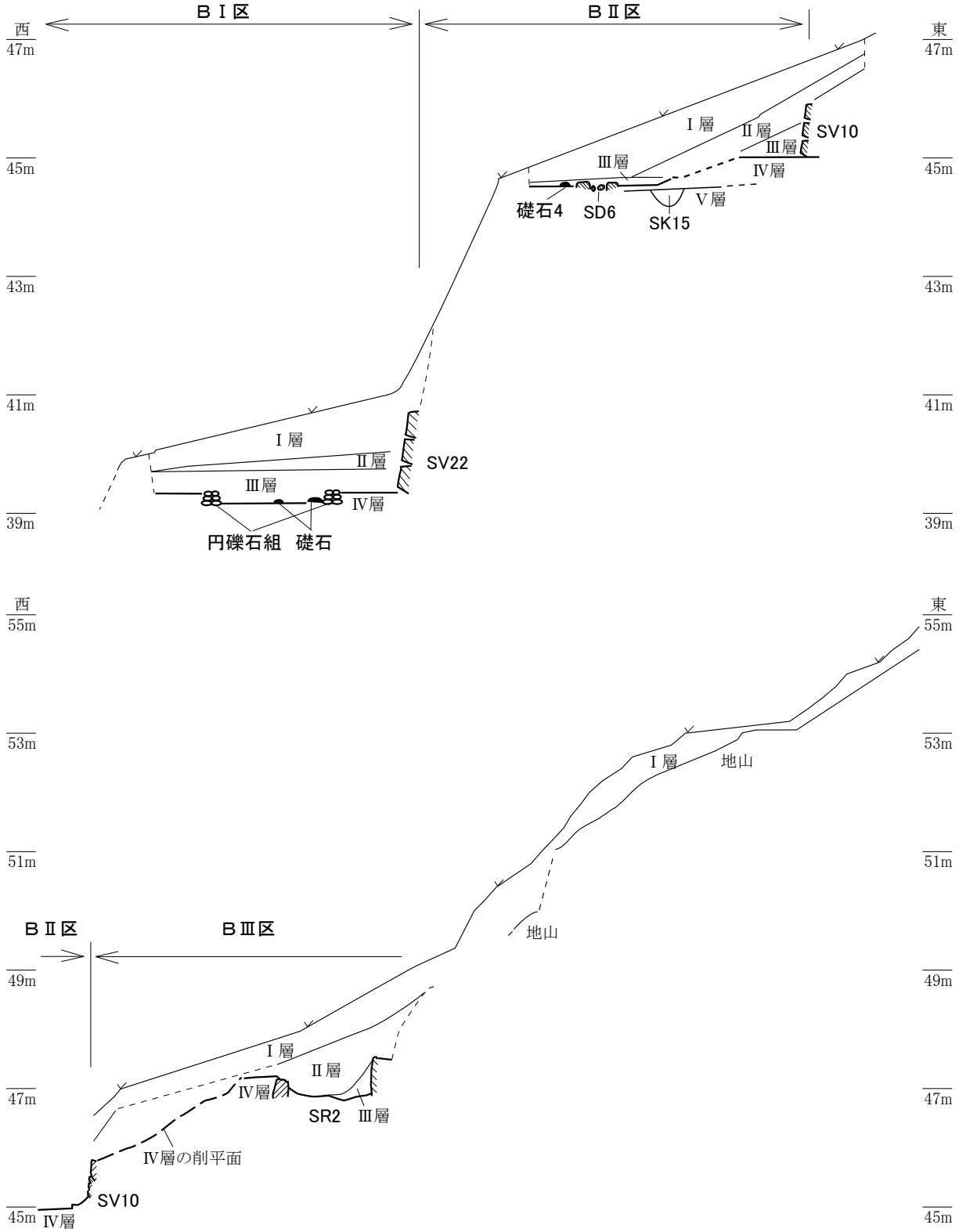
Ｃ10トレンチは『岐阜城跡』に掲載されるＤ７トレンチの層序に準ずる。表土などのⅠ層、近世以降と考えられる自然堆積層のⅡ層、石垣あるいは巨石列の石材及び裏込め礫の崩落による礫層であるⅢ層、戦国上層整地層のⅣ層である。上部のＣ地区平坦地を形成する整地層と下部のＤ地区平坦地を形成する整地層が検出されている。

Ｃ11トレンチは、Ｃ10トレンチの基本層位とほぼ同様で、表土などのⅠ層、近世以降と考えられる自然堆積層のⅡ層、石垣の石材及び裏込め礫の崩落による礫層のⅢ層を検出した。千畳敷１次調査で検出された水路ＳＤ１の続きの底には、自然堆積と見られる砂が確認でき、これもⅢ層に含めた。Ⅳ層は平坦面ＳＸ54を形成する整地層などである。

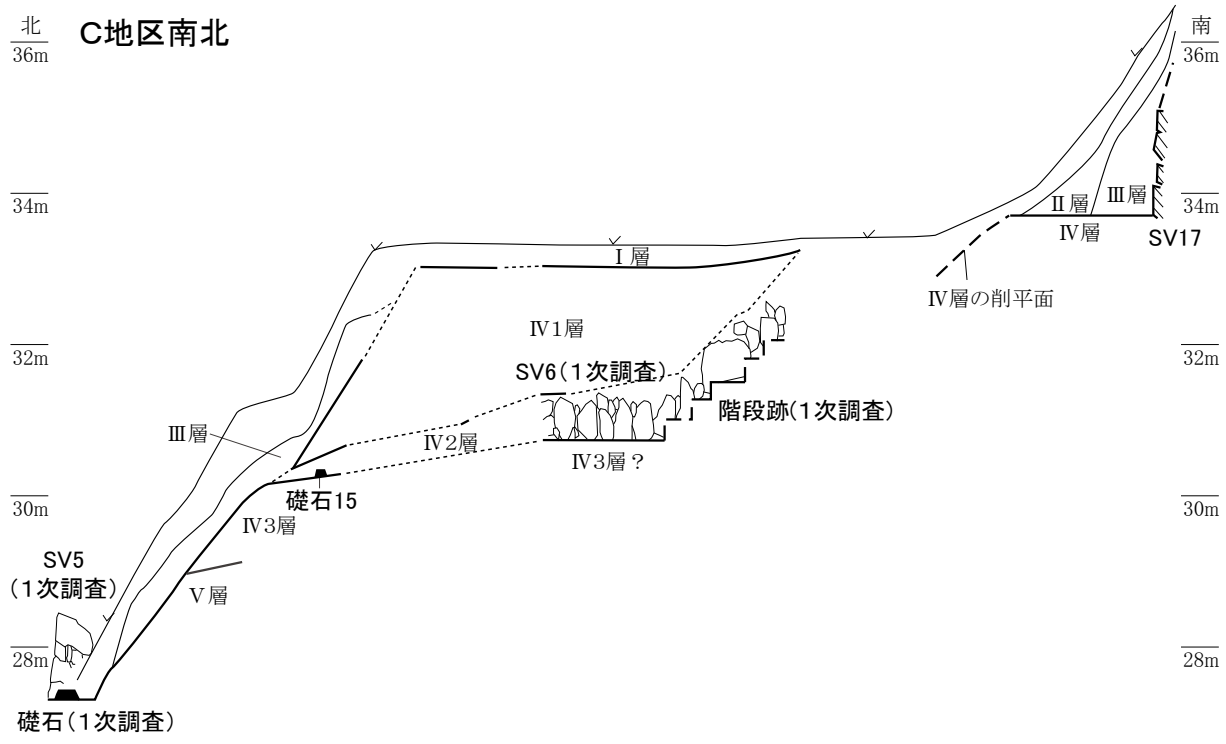
４．Ｆ地区

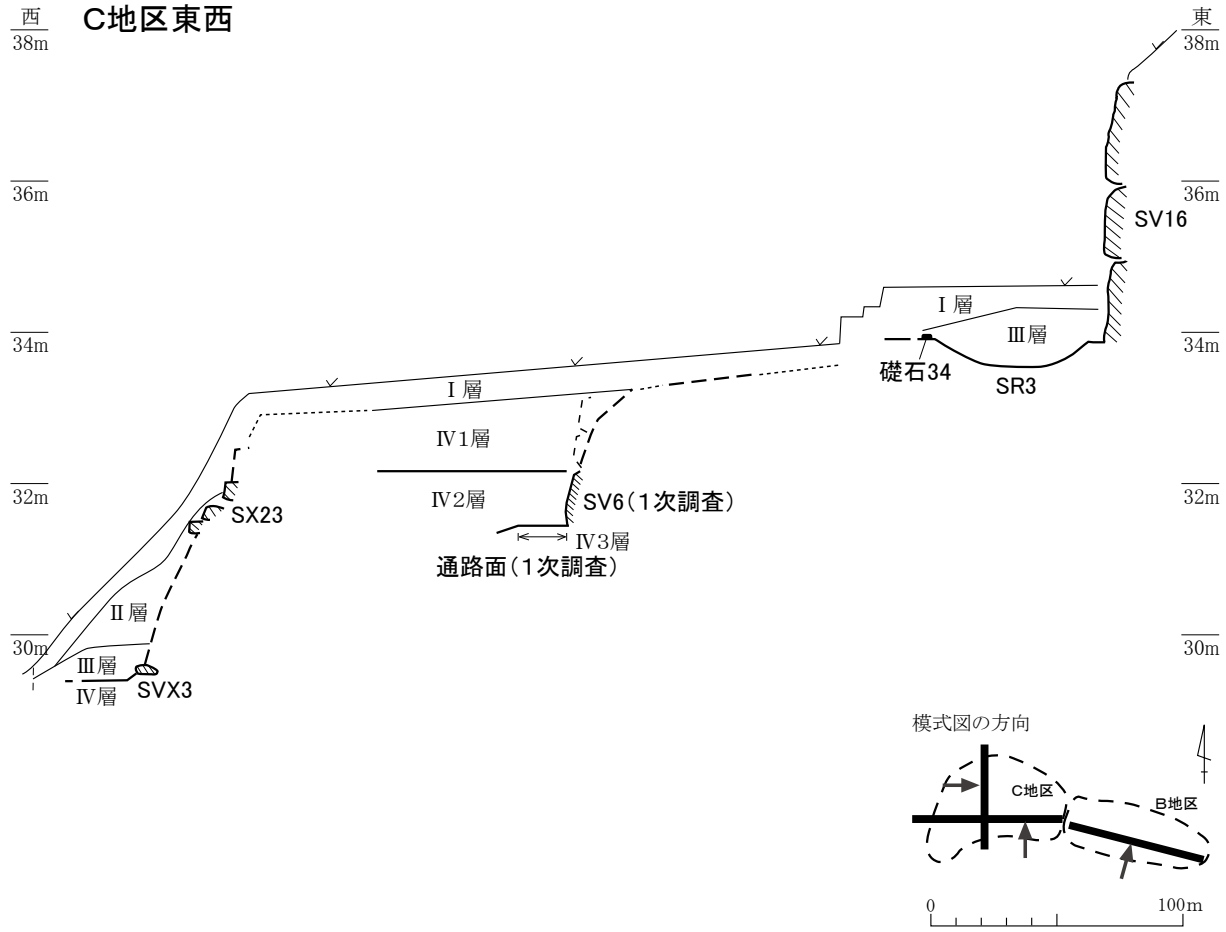
Ｆ地区は公園整備に伴う撹乱が多く、これまでの調査においてもⅣ・Ⅴ層が確認できるのはあまり例がない。本報告のＦ３トレンチはこの事例である。ところが、Ｆ４トレンチは公園の築山状の植え込みに設定したところ、良好な残存状況であった。サブトレンチを設定して、断割調査を行ったところ、Ⅰ～Ⅴ層の層序が基本層位どおりに確認することができた。

B地区東西



第５図　土層模式図（Ｂ地区）





第６図　土層模式図（Ｃ地区）

第３節　検出遺構

１．Ｂ20トレンチ（平成24年度調査）

（１）トレンチの概要

ＢⅢ区はＢ地区の中でも最上段に位置し、ＢⅡ区とは石垣ＳＶ10によって区画されている。南辺は岩盤、北辺は谷川に接し、谷川との境界には巨石石組みＳＶ28が構築されている。平成22年度の調査で検出した池泉遺構ＳＲ２の全体及びその東側の状況を確認するため、南北12m、東西24mの調査区を設定した。その結果、ＳＲ２は北東部分を除き、ほぼ全体の様子が判明した。またＳＲ２の東側は自然堆積層による斜面で、地形を改変するような人工的な遺構は見られないことがわかった。

（２）検出遺構

池泉遺構ＳＲ２（第７～８図）

南北8.0m以上、東西4.6m以上を測る池泉遺構である。ＳＲ２内で原位置を保つ景石２箇所、東辺の護岸施設である石組ＳＶ51、西辺に階段ＳＸ30、またＳＶ51前で瓦集積ＳＸ56を検出した。

西辺の中央部で、岬状に東方向へ突出する部分があり、括れた平面形状を呈する。遺構内にはチャートが散乱して出土しており、東岸と西岸はこれらを石材とした護岸が施されていた可能性が高い。南岸は直立した岩盤が露出し、一体化した構造をしている。また、池西半を中心として円礫も多数出土しており、西岸は州浜が形成されていた可能性が高い。

西半の断面形状は緩やかに立ち上がる皿形、東半は石組で直立する形状を呈し、深さは約35cmである。池底には極小の円礫が混じる川砂が敷き詰められている。この砂は、周辺の谷ではなく長良川から採取したことが自然科学分析で判明しており、さらに白色のものを選別しているようである（『岐阜城跡２』）。砂層の断割調査を行っていないため明確ではないが、ピンポールで砂の厚さを計測したところ、砂を敷く前の池底には一段深く落ち込んでいる部分が推定される。さらにこの部分には瓦集積ＳＸ56が検出され、落ち水を緩衝する施設の可能性が考えられることから、底の落ち込みは、水の流入により深くなった可能性が高い。それ以外には魚溜まりとして意図的に深い部分を設置した可能性も考えられる。廃絶後の埋土の珪藻分析により、滞水ではなく流水環境の池であった可能性が高い（第５章第１節）。

出土遺物は少なく、瓦のほか、少数の大窯製品、土師器皿、景石の砕片（緑色片岩）がある。池自体被熱している様子は見られないが、瓦の製作技法より永禄10年以降のⅣ層に伴う遺構の可能性が高い。また、礎石とみられる石材が出土しており、池の西側の平坦部あるいは池の一部を覆うような建物が存在した可能性が高い。

ＳＲ２に南接する岩盤は、高さ30m以上に及んで屹立するものである。ＳＲ２は単独で鑑賞するものではなく、背後の岩盤や谷川を借景として取り入れたものと考えられる。

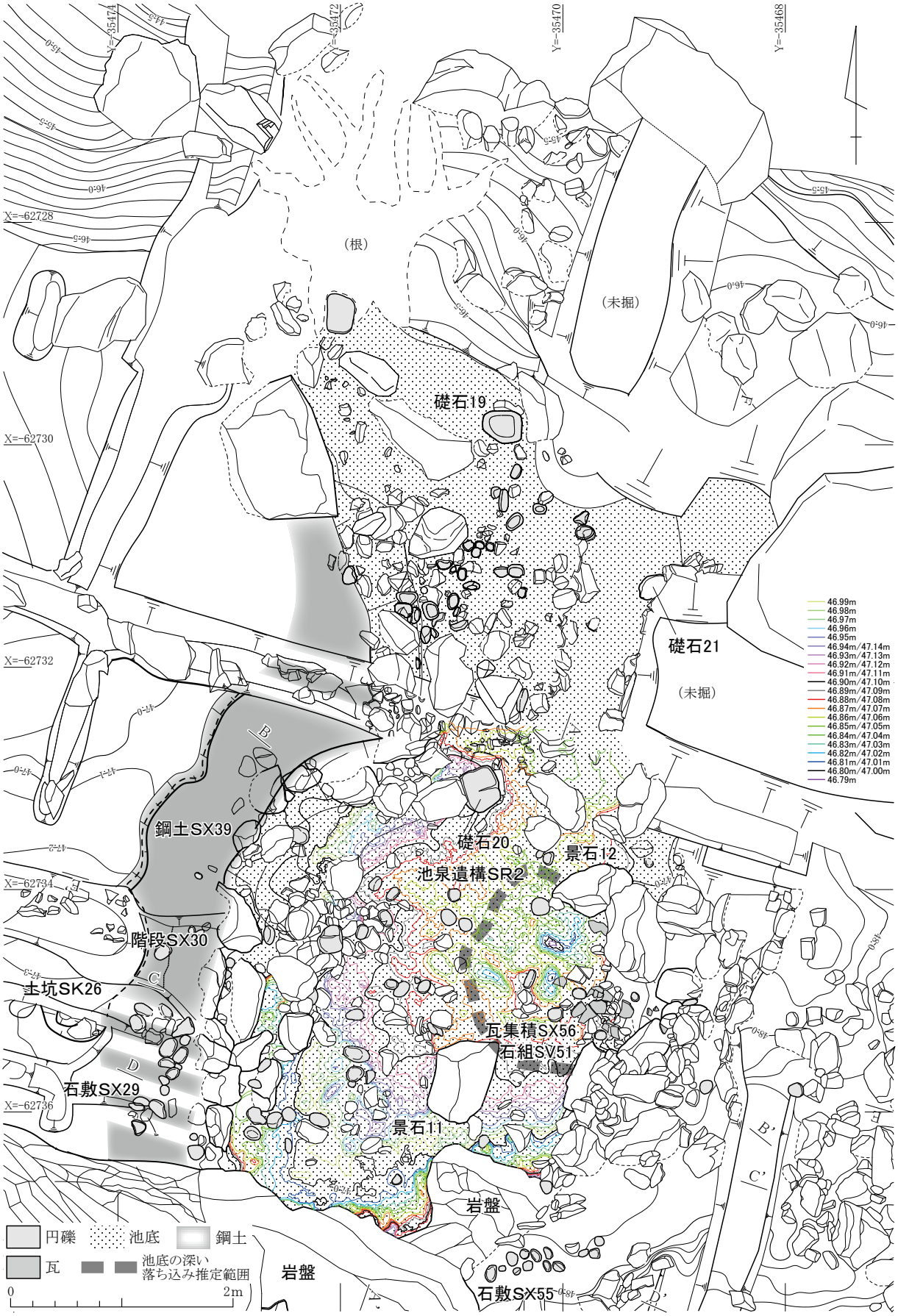
【階段ＳＸ30】（第７～８図）

ＳＲ２西辺最南端に設置された階段状施設で、鋼土ＳＸ39と一体で造られている。幅0.9m、長さ1.2m、３段のチャートが設置され、池の中へ下りられるようになっている。

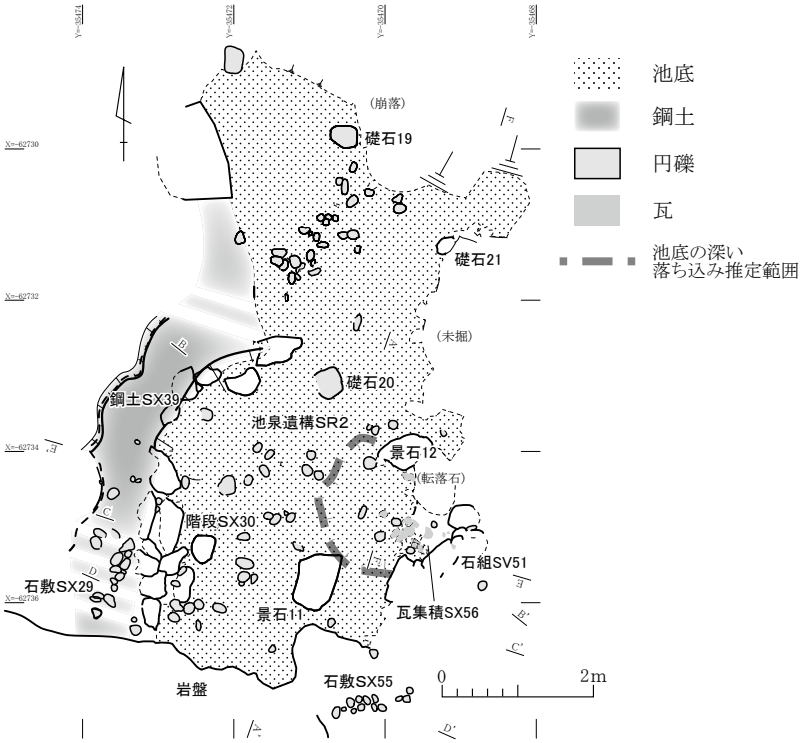
方形の平らな石が２段確認でき、レベルは１段目が46.3m、２段目46.1mで東に向かって降りる形状をとる。階段の北脇には立石がある。

【景石11・12】（第７～８図）

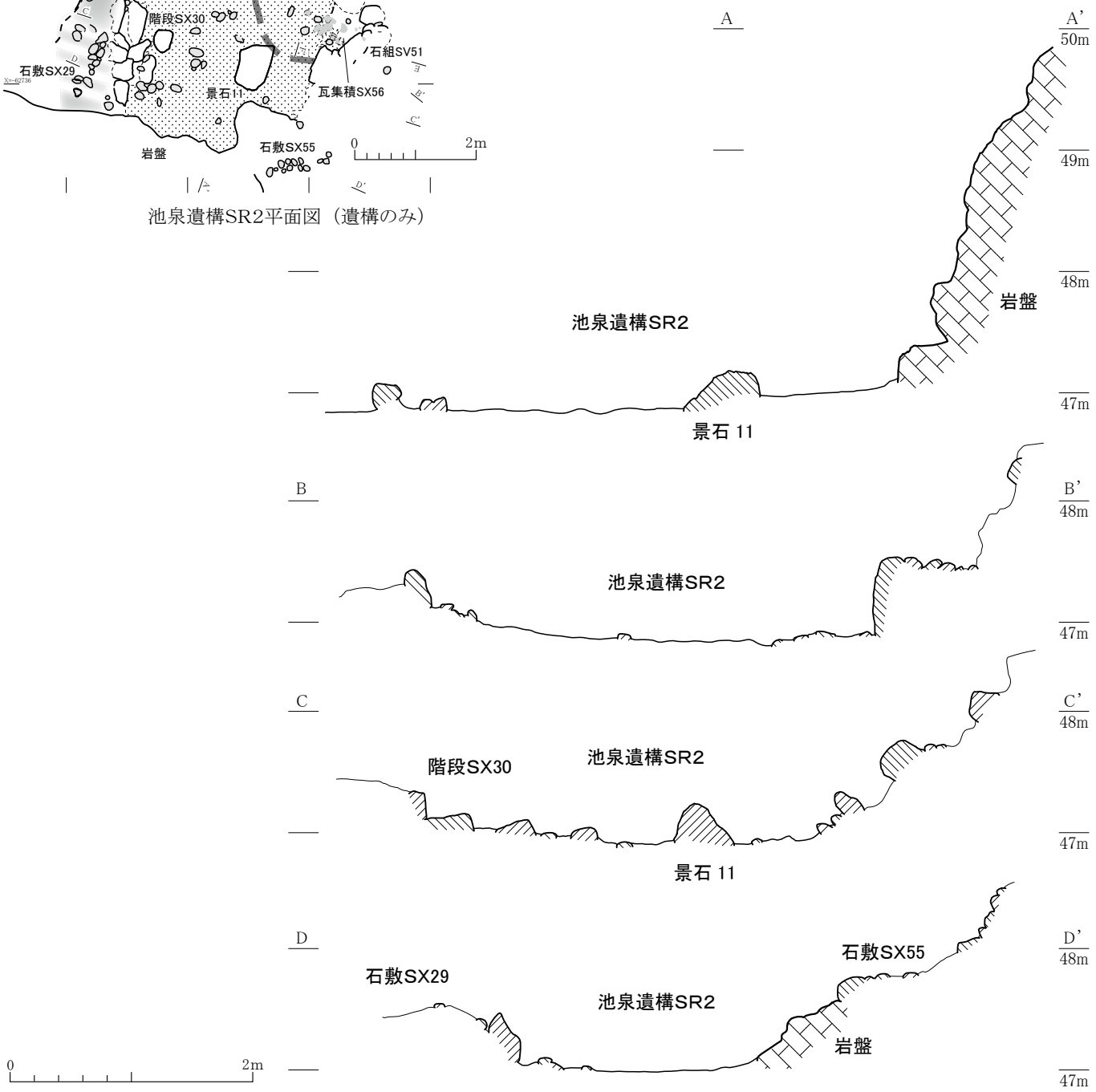
ＳＲ２の底に設置されたチャートの景石である。景石11はＳＲ３全体の南半のほぼ中央、景石12は東岸に接するように配置されている。ともに角の取れたチャートを使用しており、谷川から採取されていると推測される。



第７図　池泉遺構ＳＲ２平面図



池泉遺構SR2平面図（遺構のみ）



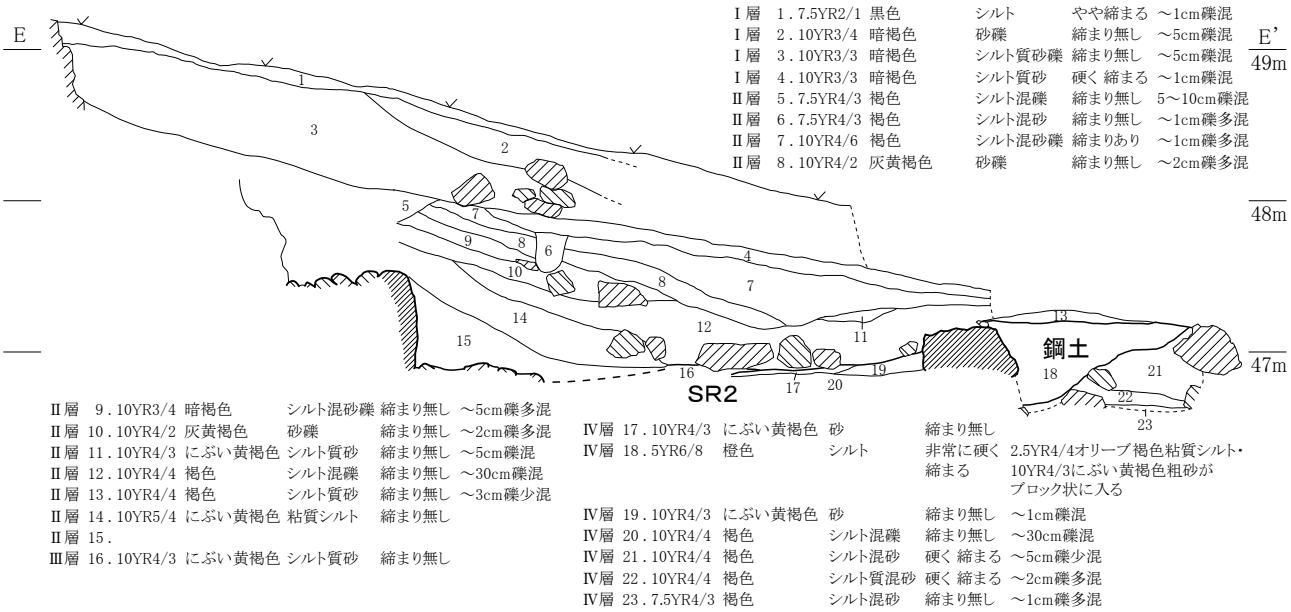
第８図　池泉遺構ＳＲ２断面図

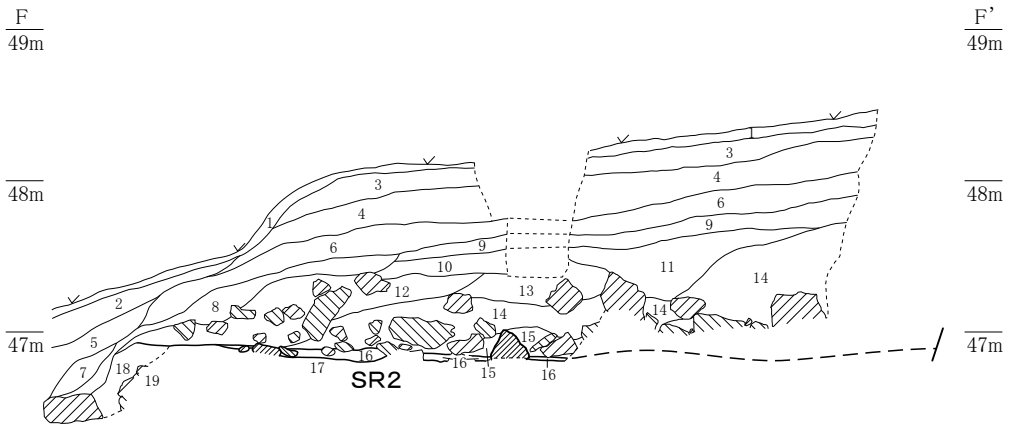
景石11の大きさは長さ79cm、幅52cm、景石12は長さ72cm、幅46cmを測り、ともに設置された状態での断面形が三角形を呈する。景石12は、池底の砂との関係で景石と判断したが、転落石の可能性も残す。

【石組ＳＶ51】（第７～８図）

ＳＲ２東岸の石組遺構である。立石を中心に半円形状にチャートを配置した石組施設。石組で囲まれた池底には瓦集積ＳＸ56がある。南側には小振りなチャートを石積状に設置されており、岩盤に至る。北側は残存状況が悪く明らかでないが、転落石と見られる石材が池底から出土したことから、石組あるいは石積状のものが構築されていた可能性が高い。

ＳＶ51は滝状の池への導水施設と推測され、砂の堆積により明らかでないが、この部分の池底は深く落ち込んでいるようである。





第９図　池泉遺構ＳＲ２土層図

【瓦集積ＳＸ56】（第７～８図）

石組ＳＶ51の直前で検出した瓦集積である。ＳＲ２埋土からは比較的多くの瓦が出土したが、この箇所の密集度は高い。ＳＶ51が滝状の導水施設の可能性を考えると、ＳＸ56は水受け施設の可能性も考えられる。

【石敷遺構ＳＸ55】（第７～８図）

ＳＲ２の南東角で検出した円礫の石敷遺構である。長径10cm前後の大きさの円礫13個が検出できた。ＳＲ２内に張り出した岩盤の上部を平坦に整地した上に敷設されている。石組ＳＶ51の上部が崩壊しているため、範囲は明らかでないが、直下に転落した円礫が少ないことから、残存部周辺のみの敷設であった可能性がある。

【鋼土ＳＸ39】（第７～８図）

池の西側全体に帯状に確認できる、非常に硬く締まる橙色のシルトである。遺構面に露出している範囲は東西幅約1.0m、南北長約5.0mを測る。池の水を下へ透さない不透水層を設ける役割で入れられたと考えられる。確認はできていないが、鋼土は池底まで及んでいると思われる。周囲の整地土と同時に入れていることから、池泉遺構は造成の段階で計画的に構築されたといえる。

石敷遺構ＳＸ29（第７～８図）

階段遺構の南側にある川原石の石敷遺構で、鋼土の上面に敷き詰められている。直径約10cmの扁平な川原石を敷いたものであるが、残存している石は20個程度で残存状況は悪い。石敷き上面の標高は46.5mを測る。池の周辺に石敷きが広がっていた可能性がある。

礎石19・20・21（第７～８図）

礎石19・20は礎石として使用されていたとみられる石材である。ともに上部が平坦な川原石であるが、原位置は保っておらず、池底から浮いた状態で出土している。礎石19はＳＲ２の北端で出土し、大きさは35cm×35cm、礎石20は中央部で出土し、大きさは40cm×35cmを測る。

礎石21はＳＲ２の北東部で確認したチャートである。池の底部に埋まった状態で検出されており、原位置を保っている可能性が高い。検出長は20cmを測る。

２．Ｃ８トレンチ（平成24年度調査）

（１）トレンチの概要

Ｃ８トレンチの位置は、Ｃ地区の最東、「明治大帝像」が立てられていた場所で、基壇状に周囲より0.7m程高くなっている。南北８m、東西９mの調査区を設定し、表層より手掘りによって掘削を行い、調査を実施した。その結果、調査区ほぼ全体を占める範囲で、池泉遺構ＳＲ３を検出した。ＳＲ３の西側では礎石も検出でき、当時の地面の標高が約33.8～33.9mであることがわかった。現地表面がおよそ33.9～34.0mであることから、後世の削平がＣ地区半分以上の広範囲に及んでいることが判明した。

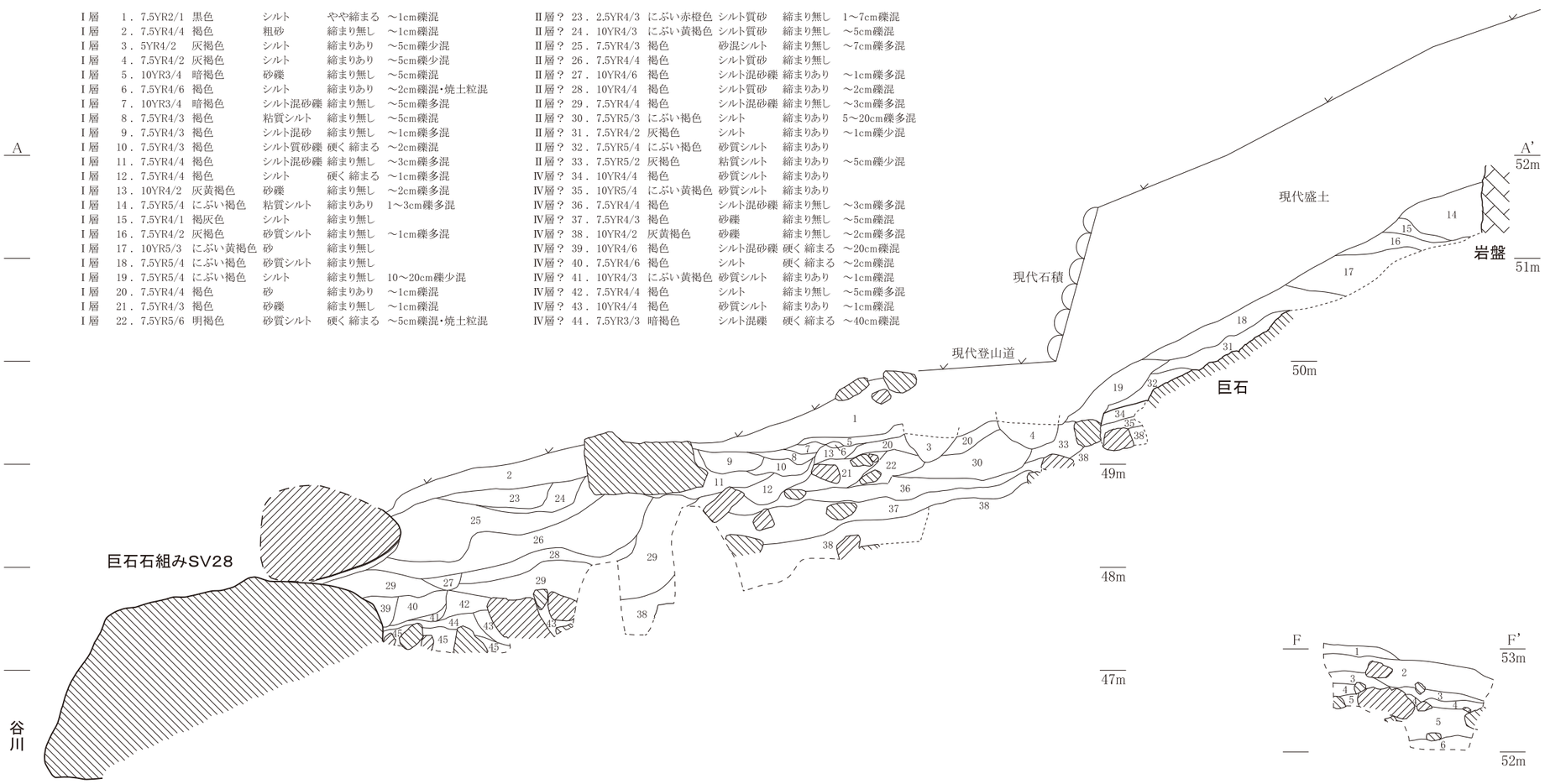
（２）検出遺構

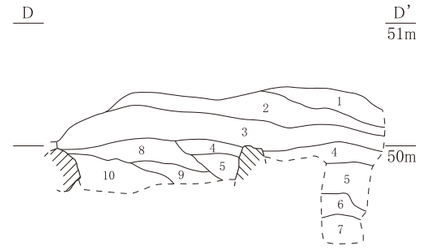
池泉遺構ＳＲ３（第11～12図）

池状遺構の大きさは、南北7.5m以上、東西6.1m以上を測り、北・西の端は確認できたものの、東端は一部のみ確認、南端は未確認である。平面形状は、検出範囲内において、南北に長い楕円形を呈する。ＳＲ３の西は礎石を伴う整地面（標高33.8～33.9m）、東は巨石列ＳＶ16の基礎（標高33.9～34.0m）を検出し、池底最深部の標高が33.5mであるため、深さ最大約50cmを測る。断面形状は緩やかに立ち上がる皿形を呈する。東のＳＶ16の基礎にあたる整地面は、幅約1.4mのテラス状の平坦部であるが、その上面にも景石や円礫が配されており、広い意味での池の中といえる。

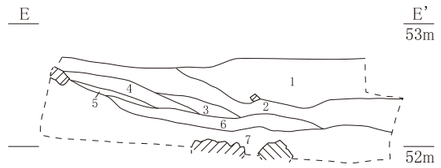
Ⅰ層	1.	7.5YR2/1	黒色	シルト	やや締まる	～1cm礫混
Ⅰ層	2.	7.5YR4/4	褐色	粗砂	締まり無し	～1cm礫混
Ⅰ層	3.	5YR4/2	灰褐色	シルト	締まりあり	～5cm礫少混
Ⅰ層	4.	7.5YR4/2	灰褐色	シルト	締まりあり	～5cm礫少混
Ⅰ層	5.	10YR3/4	暗褐色	砂礫	締まり無し	～5cm礫混
Ⅰ層	6.	7.5YR4/6	褐色	シルト	締まりあり	～2cm礫混・焼土粒混
Ⅰ層	7.	10YR3/4	暗褐色	シルト混砂礫	締まり無し	～5cm礫多混
Ⅰ層	8.	7.5YR4/3	褐色	粘質シルト	締まり無し	～5cm礫混
Ⅰ層	9.	7.5YR4/3	褐色	シルト混砂	締まり無し	～1cm礫多混
Ⅰ層	10.	7.5YR4/3	褐色	シルト質砂礫	硬く 締まる	～2cm礫混
Ⅰ層	11.	7.5YR4/4	褐色	シルト混砂礫	締まり無し	～3cm礫多混
Ⅰ層	12.	7.5YR4/4	褐色	シルト	硬く 締まる	～1cm礫多混
Ⅰ層	13.	10YR4/2	灰黄褐色	砂礫	締まり無し	～2cm礫多混
Ⅰ層	14.	7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質シルト	締まりあり	1～3cm礫多混
Ⅰ層	15.	7.5YR4/1	褐灰色	シルト	締まり無し	
Ⅰ層	16.	7.5YR4/2	灰褐色	砂質シルト	締まり無し	～1cm礫多混
Ⅰ層	17.	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂	締まり無し	
Ⅰ層	18.	7.5YR5/4	にぶい褐色	砂質シルト	締まり無し	
Ⅰ層	19.	7.5YR5/4	にぶい褐色	シルト	締まり無し	10～20cm礫少混
Ⅰ層	20.	7.5YR4/4	褐色	砂	締まりあり	～1cm礫混
Ⅰ層	21.	7.5YR4/3	褐色	砂礫	締まり無し	～1cm礫混
Ⅰ層	22.	7.5YR5/6	明褐色	砂質シルト	硬く 締まる	～5cm礫混・焼土粒混

Ⅱ層？	23.	2.5YR4/3	にぶい赤橙色	シルト質砂	締まり無し	1～7cm礫混
Ⅱ層？	24.	10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト質砂	締まり無し	～5cm礫混
Ⅱ層？	25.	7.5YR4/3	褐色	砂混シルト	締まり無し	～7cm礫多混
Ⅱ層？	26.	7.5YR4/4	褐色	シルト質砂	締まり無し	
Ⅱ層？	27.	10YR4/6	褐色	シルト混砂礫	締まりあり	～1cm礫多混
Ⅱ層？	28.	10YR4/4	褐色	シルト質砂	締まりあり	～2cm礫混
Ⅱ層？	29.	7.5YR4/4	褐色	シルト混砂礫	締まり無し	～3cm礫多混
Ⅱ層？	30.	7.5YR5/3	にぶい褐色	シルト	締まりあり	5～20cm礫多混
Ⅱ層？	31.	7.5YR4/2	灰褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫少混
Ⅱ層？	32.	7.5YR5/4	にぶい褐色	砂質シルト	締まりあり	
Ⅱ層？	33.	7.5YR5/2	灰褐色	粘質シルト	締まりあり	～5cm礫少混
Ⅳ層？	34.	10YR4/4	褐色	砂質シルト	締まりあり	
Ⅳ層？	35.	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりあり	
Ⅳ層？	36.	7.5YR4/4	褐色	シルト混砂礫	締まり無し	～3cm礫多混
Ⅳ層？	37.	7.5YR4/3	褐色	砂礫	締まり無し	～5cm礫混
Ⅳ層？	38.	10YR4/2	灰黄褐色	砂礫	締まり無し	～2cm礫多混
Ⅳ層？	39.	10YR4/6	褐色	シルト混砂礫	硬く 締まる	～20cm礫混
Ⅳ層？	40.	7.5YR4/6	褐色	シルト	硬く 締まる	～2cm礫混
Ⅳ層？	41.	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりあり	～1cm礫混
Ⅳ層？	42.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まり無し	～5cm礫多混
Ⅳ層？	43.	10YR4/4	褐色	砂質シルト	締まりあり	～1cm礫混
Ⅳ層？	44.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト混礫	硬く 締まる	～40cm礫混



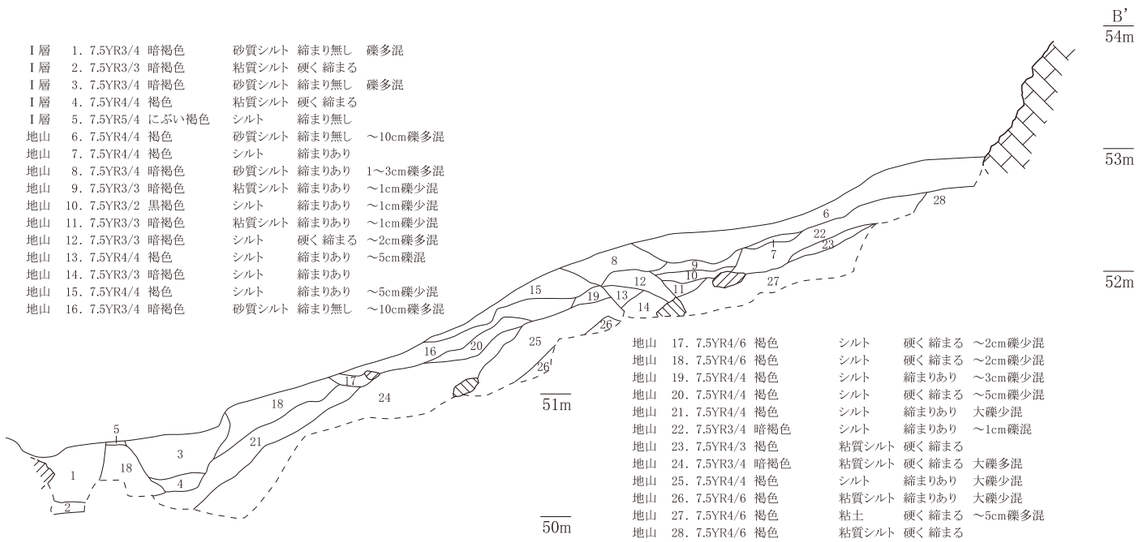


Ⅱ層？	1.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まり無し	～1cm礫混
Ⅱ層？	2.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まり無し	～1cm礫混
Ⅱ層？	3.	7.5YR4/6	褐色	シルト	締まりあり	～2cm礫多混
Ⅱ層？	4.	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	締まりあり	～2cm礫多混
Ⅱ層？	5.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫少混
Ⅱ層？	6.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫多混
Ⅱ層？	7.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質シルト	締まり無し	～2cm礫多混
Ⅱ層？	8.	7.5YR3/3	暗褐色	砂質シルト	締まりあり	～2cm礫少混
Ⅱ層？	9.	7.5YR4/3	褐色	粘質シルト	締まりあり	
地山	10.	7.5YR3/3	暗褐色	粘質シルト	締まりあり	大礫多混



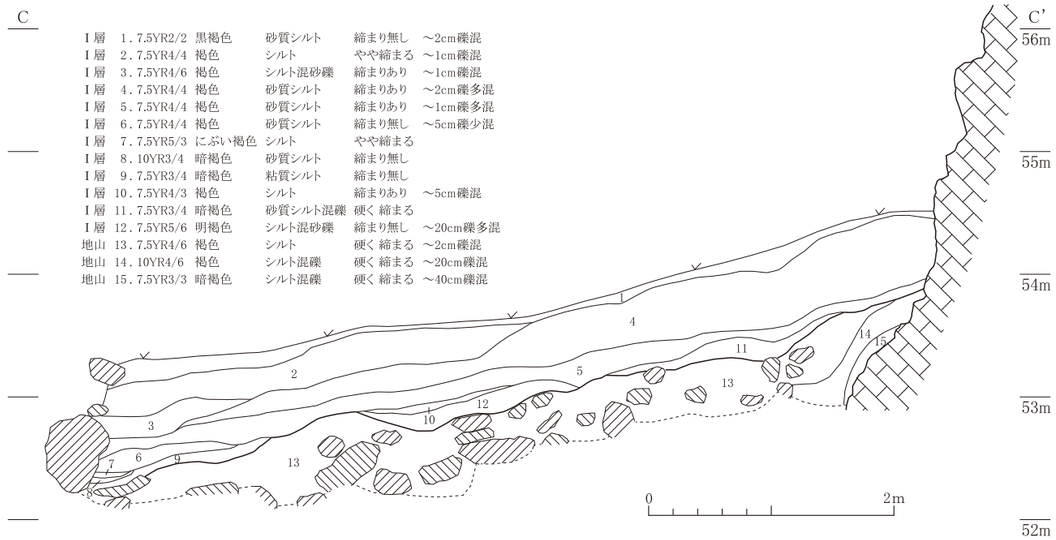
地山	1.	7.5YR5/3	にぶい褐色	砂質シルト	締まりあり	1～5cm礫多混
地山	2.	7.5YR5/2	灰褐色	粘質シルト	締まりあり	～1cm礫多混
地山	3.	7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質シルト	締まりあり	～1cm礫多混
地山	4.	7.5YR4/2	灰褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫混
地山	5.	10YR7/4	にぶい黄橙色	シルト	締まりあり	～1cm礫混
地山	6.	10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質シルト	締まりあり	～1cm礫混
地山	7.	10YR7/3	にぶい黄橙色	粘質シルト	締まりあり	1cm～礫多混

地山	1.	10YR5/6	黄褐色	砂質シルト	締まりあり	
地山	2.	10YR5/3	にぶい黄褐色	砂質シルト	締まりあり	～20cm礫多混
地山	3.	7.5YR6/2	灰褐色	砂	締まりあり	～2cm礫少混
地山	4.	7.5YR6/8	橙色	砂質シルト	硬く 締まる	
地山	5.	10YR6/3	にぶい黄橙色	砂質シルト	締まりあり	～10cm礫多混
地山	6.	10YR6/4	にぶい黄橙色	砂	締まりあり	～5cm礫少混



Ⅰ層	1.	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	締まり無し	礫多混
Ⅰ層	2.	7.5YR3/3	暗褐色	粘質シルト	硬く 締まる	
Ⅰ層	3.	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	締まり無し	礫多混
Ⅰ層	4.	7.5YR4/4	褐色	粘質シルト	硬く 締まる	
Ⅰ層	5.	7.5YR5/4	にぶい褐色	シルト	締まり無し	
地山	6.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まり無し	～10cm礫多混
地山	7.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	
地山	8.	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	締まりあり	1～3cm礫多混
地山	9.	7.5YR3/3	暗褐色	粘質シルト	締まりあり	～1cm礫少混
地山	10.	7.5YR3/2	黒褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫少混
地山	11.	7.5YR3/3	暗褐色	粘質シルト	締まりあり	～1cm礫少混
地山	12.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	硬く 締まる	～2cm礫多混
地山	13.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	～5cm礫混
地山	14.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト	締まりあり	
地山	15.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	～5cm礫少混
地山	16.	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト	締まり無し	～10cm礫多混

地山	17.	7.5YR4/6	褐色	シルト	硬く 締まる	～2cm礫少混
地山	18.	7.5YR4/6	褐色	シルト	硬く 締まる	～2cm礫少混
地山	19.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	～3cm礫少混
地山	20.	7.5YR4/4	褐色	シルト	硬く 締まる	～5cm礫少混
地山	21.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	大礫少混
地山	22.	7.5YR3/4	暗褐色	シルト	締まりあり	～1cm礫混
地山	23.	7.5YR4/3	褐色	粘質シルト	硬く 締まる	
地山	24.	7.5YR3/4	暗褐色	粘質シルト	硬く 締まる	大礫多混
地山	25.	7.5YR4/4	褐色	シルト	締まりあり	大礫少混
地山	26.	7.5YR4/6	褐色	粘質シルト	締まりあり	大礫少混
地山	27.	7.5YR4/6	褐色	粘土	硬く 締まる	～5cm礫多混
地山	28.	7.5YR4/6	褐色	粘質シルト	硬く 締まる	



Ⅰ層	1.	7.5YR2/2	黒褐色	砂質シルト	締まり無し	～2cm礫混
Ⅰ層	2.	7.5YR4/4	褐色	シルト	やや締まる	～1cm礫混
Ⅰ層	3.	7.5YR4/6	褐色	シルト混砂礫	締まりあり	～1cm礫混
Ⅰ層	4.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まりあり	～2cm礫多混
Ⅰ層	5.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まりあり	～1cm礫多混
Ⅰ層	6.	7.5YR4/4	褐色	砂質シルト	締まり無し	～5cm礫少混
Ⅰ層	7.	7.5YR5/3	にぶい褐色	シルト	やや締まる	
Ⅰ層	8.	10YR3/4	暗褐色	砂質シルト	締まり無し	
Ⅰ層	9.	7.5YR3/4	暗褐色	粘質シルト	締まり無し	
Ⅰ層	10.	7.5YR4/3	褐色	シルト	締まりあり	～5cm礫混
Ⅰ層	11.	7.5YR3/4	暗褐色	砂質シルト混礫	硬く 締まる	
Ⅰ層	12.	7.5YR5/6	明褐色	シルト混砂礫	締まり無し	～20cm礫多混
地山	13.	7.5YR4/6	褐色	シルト	硬く 締まる	～2cm礫混
地山	14.	10YR4/6	褐色	シルト混礫	硬く 締まる	～20cm礫混
地山	15.	7.5YR3/3	暗褐色	シルト混礫	硬く 締まる	～40cm礫混

第10図　B20トレンチ土層図

ＳＲ３の内部では、景石抜き取り痕５箇所、景石（既調査範囲）１箇所を確認した。底には小円礫による石敷があり、調査区北端では景石の基礎の可能性が考えられる黄色土の範囲も確認した。また北東角から中央北辺にかけて扇状に広がる炭の堆積を検出した。

埋土であるⅢ層は東（Ｂ地区）から崩落した礫層が主体で、中には石材とみられる巨大な礫も含まれる。廃城時に巨石列の一部を破壊したことによって、崩れた裏込め礫が堆積したものと考えられる。

出土遺物は、少量の大窯製品や土師器皿、花崗岩製蹲踞（手水鉢）、景石の砕石（緑色片岩・泥岩）、大量の壁土（埋土中・Ｂ区から崩れ落ちたもの）がある。壁土はほとんどがⅢ層中に包含されており、Ｂ地区の建物が焼失、崩れた壁土がＳＲ３内に流れ込んだものと考えられる。ＳＲ３の廃絶は火災を伴うこと、巨石列と一体化した構造であることから上層遺構（永禄10年以降）の可能性が高い。

【景石１】（Ｃ８トレンチ・第11図）

ＳＲ３の北東角、巨石列ＳＶ15と16がクランク状に折れ曲がる入角部に位置する。石材の大きさは、長径推定53cm、短径36cmを測る。石材は緑色片岩で、石の大部分が埋め込まれているようである。池底では最高所にあたり、この部分で水を取り入れている可能性が高い。また、池底で検出した炭の範囲も、景石１を要として扇状に西へ広がっており、水の取り入れ施設である可能性を高める。その場合、景石１は、滝等上方から落水させる際の水分け石である可能性が高く、巨石列がクランクする意味づけも可能となる。

【景石２・土坑ＳＫ29】（第11図）

ＳＲ３中央西寄りで検出した緑色片岩の景石とその周囲で検出した土坑。景石の大きさは東西51cm、南北29cmを測る。高さは池底からわずかに露出する程度と見られる。割られたような痕跡も見ることができなかったため、景石１と大差はない、小振りなものと考えられる。土坑は景石を設置するための据え付け穴と考えられる。

【景石の基礎？ＳＸ51】（第11図）

ＳＲ３北辺で東西1.3m、南北検出長1.1mの範囲で検出した黄色土。黄色土は、池底で検出した円礫や炭層の下へ潜行することを確認しており、元来は盛り上がった部分を後に削平した痕跡と理解した。その場合、景石の基礎、池の中に設けられた中島や岬などが想定できるが、炭の範囲が黄色土の北側へも広がる可能性が高いことから、景石の基礎あるいは独立した島状の部分と考えた。島状遺構の場合、黄色土自体高まりは見られず、Ⅲ層が直上に堆積していることから、池構築時に設けられた中島を廃城までの期間内に改修、削平されたものと考えられる。

礎石34・35（第11図）

ＳＲ３の西岸に接して位置する。礎石34は長径38cm、短径29cm、礎石35は同31cm×25cm、上面のレベルは２石とも約33.9m、間隔は約1.7mを測る。Ｃ地区の現地表面（公園造成土上面）がおよそ33.9～34.0mであり、後世の削平がＣ地区半分以上の広範囲に及んでいることが判明した。

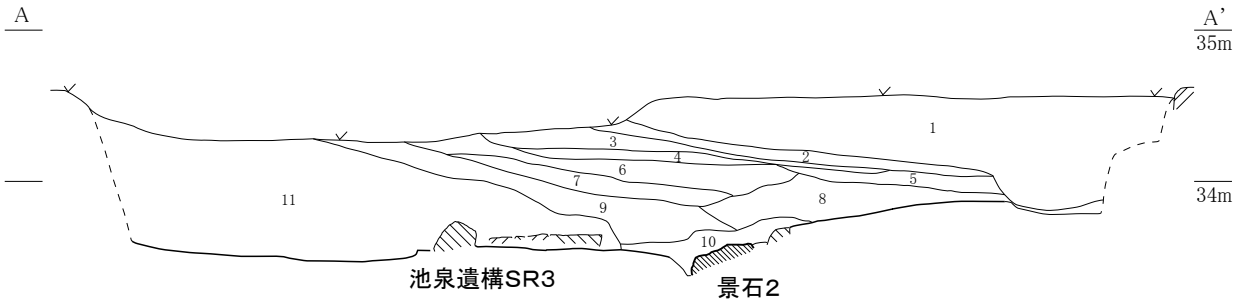
３．Ｃ９トレンチ（平成24年度調査）

（１）トレンチの概要

Ｃ地区の平坦部分の西半、南北15m、東西13mの範囲に７箇所の調査区を設定した。うち４箇所は１次調査範囲内で、土層観察を中心に再検討を行った。表層より手掘りによって掘削を行い、調査を実施した。

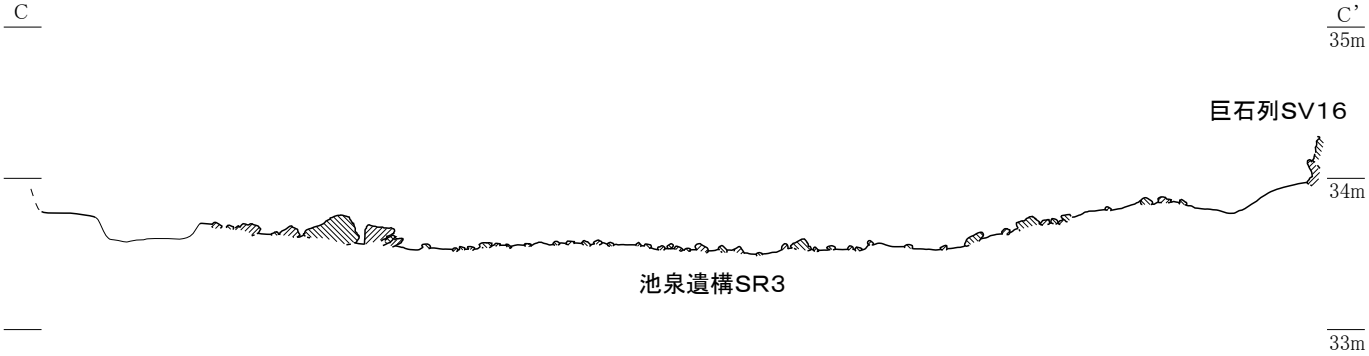
基本層位は次のⅠ・Ⅳ層の２層に大別でき、さらにⅣ層はⅣ１～３層の３層に分けられる。Ⅰ層は

第 11 図　Ｃ８トレンチ平面図

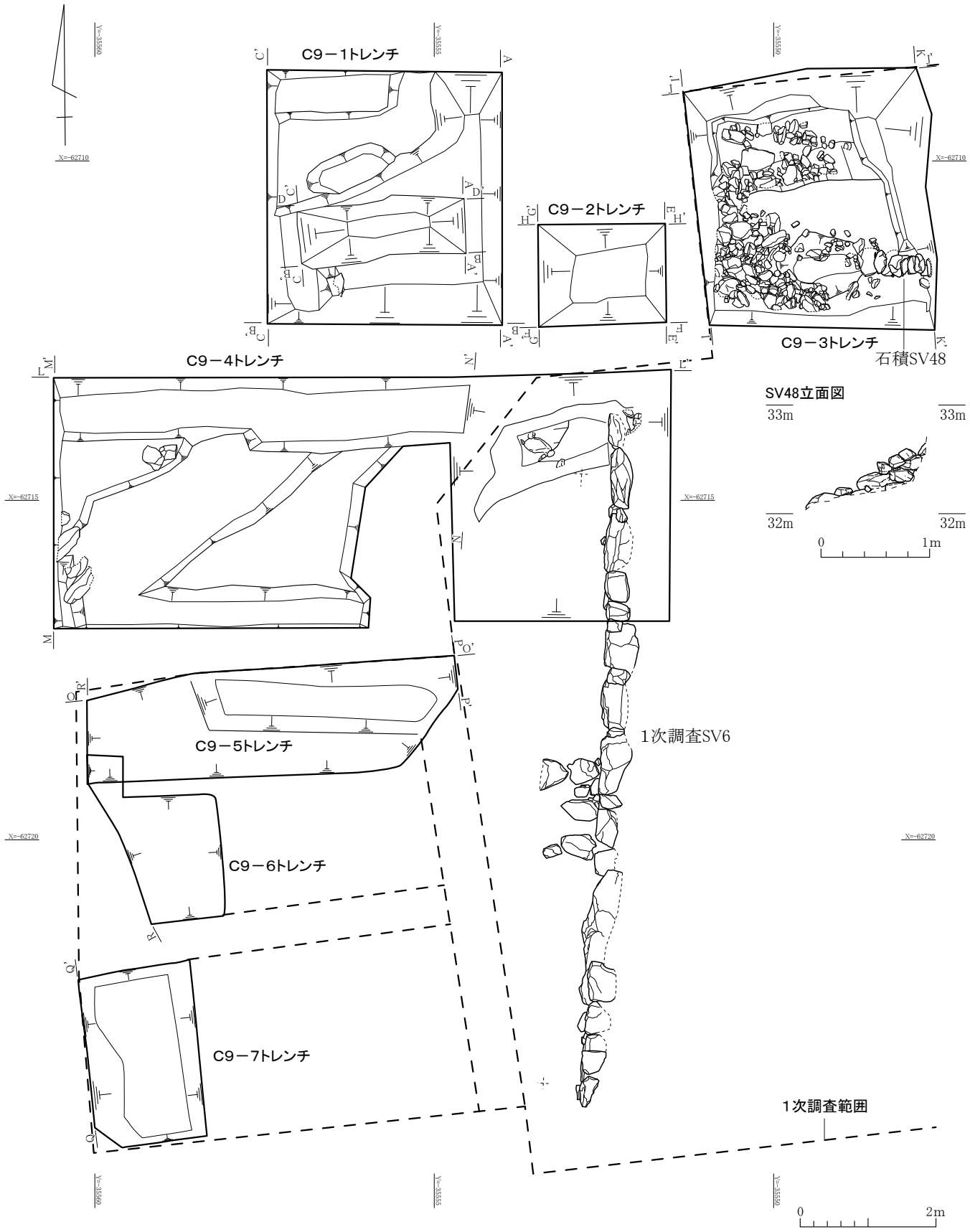


Ⅰ層	1.		砂礫		
Ⅰ層	2. N1.5/0		砂質シルト		
Ⅰ層	3. 2.5Y5/2	暗灰黄色	砂礫	硬く	締まる
Ⅰ層	4. 10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	硬く	締まる
Ⅰ層	5. 10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質シルト	硬く	締まる
ⅡorⅢ層	6. 7.5YR5/6	明褐色	砂質シルト		礫混
ⅡorⅢ層	7. 7.5YR5/4	にぶい褐色	砂質シルト		礫混・焼土多混
ⅡorⅢ層	8. 7.5YR5/4	にぶい褐色	砂質シルト		礫混・焼土混
ⅡorⅢ層	9. 7.5YR5/4	にぶい褐色	砂質シルト		礫多混
ⅡorⅢ層	10. 7.5YR4/1	褐灰色	砂質シルト	締まり無し	小礫混
Ⅲ層	11.		礫		焼土多混

Ⅰ層	1. 砂質シルト		
Ⅰ層	2. 礫		
ⅡorⅢ層	3. 砂質シルト		
ⅡorⅢ層	4. 礫		
ⅡorⅢ層	5. 砂質シルト	締まり弱い	小砂利混
Ⅲ層	6. 砂質シルト		炭・焼土混
Ⅳ層	7. 砂質シルト	締まりあり	

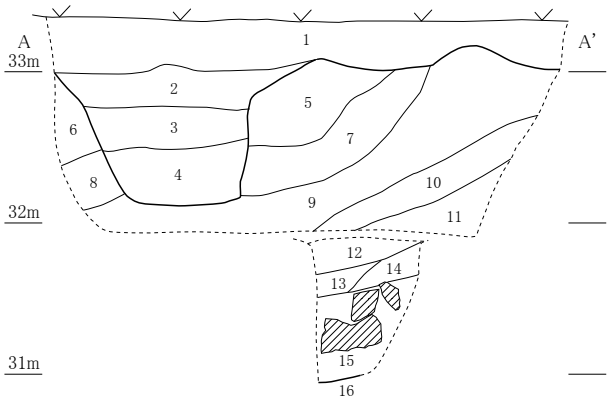


第12図　Ｃ８トレンチ土層・断面図



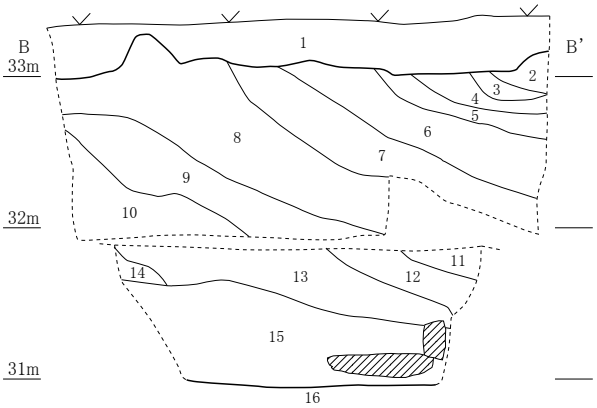
第 13 図　Ｃ９トレンチ平面図

C9－1トレンチ東壁土層図



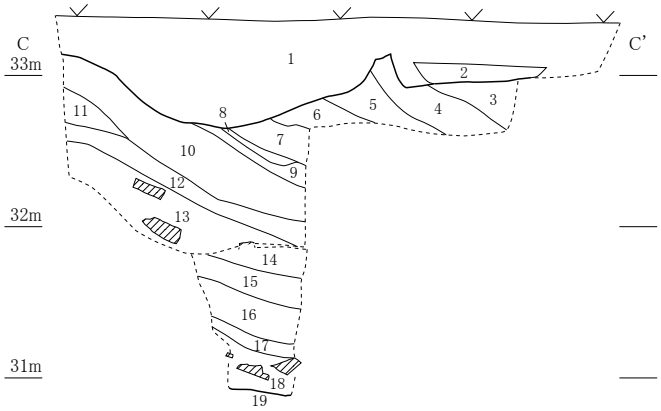
Ⅰ層	1.				
Ⅰ層	2.				
Ⅰ層	3.				
Ⅰ層	4.				
Ⅳ1層	5.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	6.	7.5YR3/3	暗褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7.	10YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	8.	7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	9.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	10.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	11.	10YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	12.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	13.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	14.	10YR4/6	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	15.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ2層	16.	10YR3/4	暗褐色	粘質土 非常に硬く 締まる	5cm大の礫混

C9－1トレンチ南壁土層図



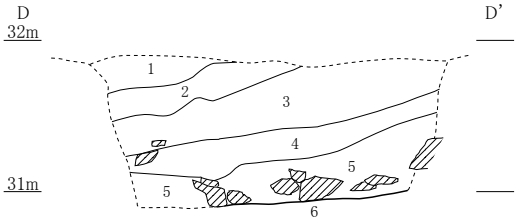
Ⅰ層	1.		褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	2.	2.5Y6/6	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	3.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	3～5cm大の礫混
Ⅳ1層	4.	2.5Y6/4	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	5.	2.5Y5/4	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	6.	2.5Y3/1	黄橙色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ1層	7.	10YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	8.	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘質土	5～20cm大の礫多混
Ⅳ1層	9.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	10.	10YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	11.		にぶい黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	12.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	13.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	14.	10YR4/6	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	15.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ2層	16.	10YR3/4	暗褐色	粘質土 非常に硬く 締まる	5cm大の礫混

C9－1トレンチ西壁土層図



Ⅰ層	1.		褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	2.				
Ⅳ1層	3.	5YR5/6	明赤褐色	粘質土	
Ⅳ1層	4.	5YR4/1	褐灰色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	5.	5YR5/6	明赤褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	6.	10YR6/4	にぶい黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	7.	5YR4/1	褐灰色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	8.	2.5Y6/6	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	9.	5YR4/1	褐灰色	粘質土	3～5cm大の礫混
Ⅳ1層	10.	2.5Y6/6	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	11.	2.5Y6/4	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	12.	2.5Y5/4	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	13.	2.5Y3/1	黄橙色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ1層	14.	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	5～10cm大 の礫混
Ⅳ1層	15.		にぶい黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	16.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	17.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	18.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ2層	19.	10YR3/4	暗褐色	粘質土 非常に硬く 締まる	5cm大の礫混

C9－1トレンチ北壁土層図

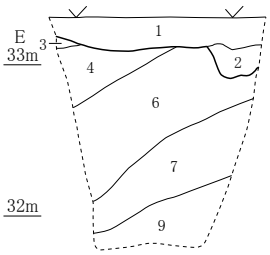


Ⅳ1層	1.	10YR4/3	にぶい黄褐色	砂質土	5～10cm大 の礫混
Ⅳ1層	2.		にぶい黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	3.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	4.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	5.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～30cm大の礫多混
Ⅳ2層	6.	10YR3/4	暗褐色	粘質土 非常に硬く 締まる	5cm大の礫混

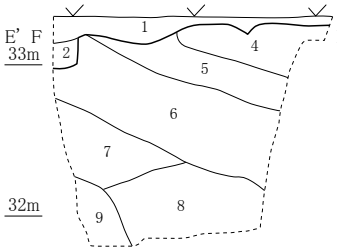
0　2m

第14図　Ｃ９－１トレンチ土層図

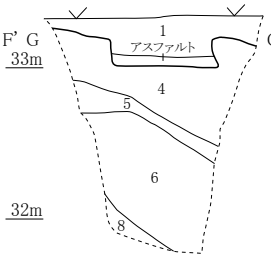
C9－2トレンチ東壁土層図



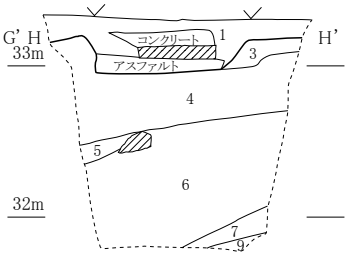
C9－2トレンチ南壁土層図



C9－2トレンチ西壁土層図

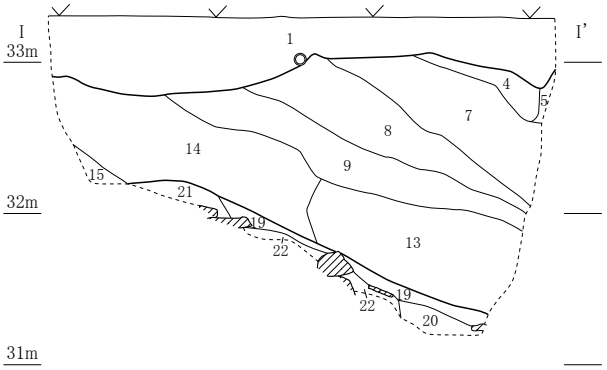


C9－2トレンチ北壁土層図

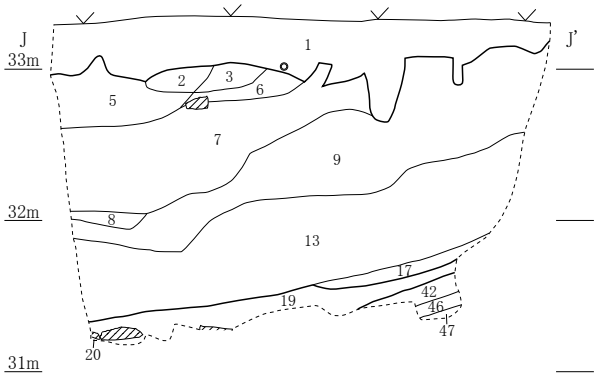


Ⅰ層	1.	褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	2.	黒色	粘質土	
Ⅰ層	3. 10YR6/4	にぶい黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	4. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	5. 10YR4/1	褐灰色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	6. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7. 10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	8.		礫	5～30cm大の礫混
Ⅳ1層	9. 7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	

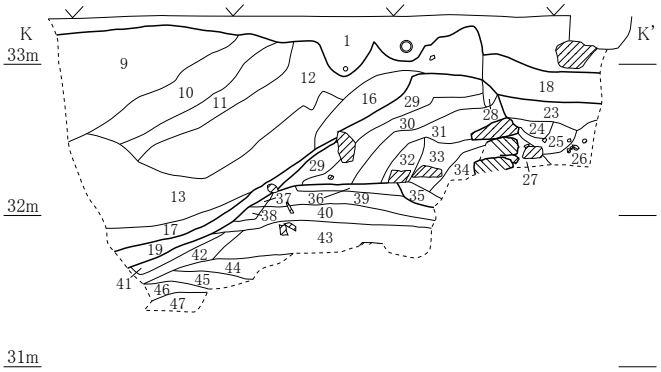
C9－3トレンチ西壁土層図



C9－3トレンチ北壁土層図



C9－3トレンチ東壁土層図

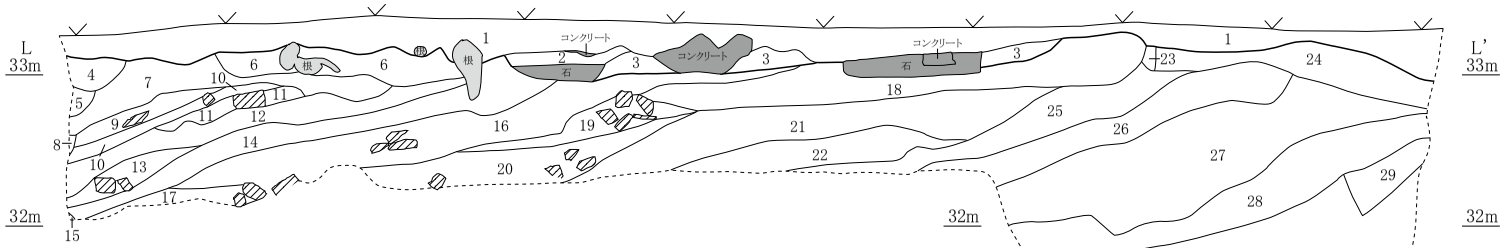


Ⅰ層	1. 7.5YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	2. 7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅰ層	3. 7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	4. 7.5YR5/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	5. 7.5YR5/3	にぶい褐色	粘質土	
Ⅳ1層	6. 7.5YR5/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	8. 10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	9. 10YR6/4	にぶい黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	10. 10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	3～10cm大の礫混
Ⅳ1層	11. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	12. 10YR6/6	明黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	13. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫多混
Ⅳ1層	14. 10YR6/6	明黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	15. 7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	16. 7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	17. 7.5YR4/2	灰褐色	粘質土 硬く締まる	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	18. 5YR4/2	灰褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ2層	19. 2.5Y5/1	黄橙色	砂質土 非常に硬く締まる	
Ⅳ2層	20. 7.5YR4/2	灰褐色	砂質土	
Ⅳ2層	21. 10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
SV6裏込め	22.		礫	
SV48埋土	23. 7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	
SV48埋土	24. 7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質土	1～3cm大の角礫・円礫多混
SV48埋土	25. 7.5YR5/4	にぶい褐色	粘質土	
SV48埋土	26. 7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	1～3cm大の角礫・円礫混
SV48埋土	27. 7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	1～3cm大の礫多混
Ⅳ3層？	28. 7.5YR3/4	暗褐色	粘質土 締まり無し	
Ⅳ3層？	29. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の角礫・円礫混
Ⅳ3層？	30. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	31. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	32. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ3層？	33. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ3層？	34. 10YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	35. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	3～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	36. 10YR3/2	黒褐色	粘質土 非常に硬く締まる	
Ⅳ3層？	37. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	38. 10YR6/6	明黄褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	39. 10YR6/6	明黄褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ3層？	40. 10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	41. 2.5YR5/3	にぶい赤橙色	粘質土	非常に硬く締まる
Ⅳ3層？	42. 7.5YR5/3	にぶい褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	43. 7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5～20cm大の礫多混
Ⅳ3層？	44. 7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	45. 5YR4/8	赤褐色	砂質土	
Ⅳ3層？	46. 5YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ3層？	47. 5YR4/8	赤褐色	粘質土	

0　2m

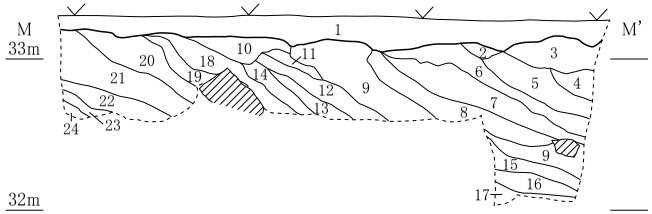
第15図　Ｃ９－２・３トレンチ土層図

C9－4トレンチ北壁土層図



Ⅰ層	1.	褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	2.			
Ⅰ層	3.	暗褐色	粘質土	
Ⅳ1層	4.10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	5.10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	6.10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7.7.5YR7/8	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	8.7.5YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	9.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	10.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	11.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	12.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	13.10YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	14.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	15.	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	16.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	17.10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	18.10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	19.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	20.7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	21.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	22.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	23.7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	24.7.5YR4/3	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	25.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	26.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	1～5cm大の礫混
Ⅳ1層	27.7.5YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	28.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	29.10YR3/4	暗褐色	粘質土	
Ⅳ1層	30.10YR3/4	暗褐色	粘質土	5～30cm大の礫混
Ⅳ2層	31.7.5YR4/3	褐色	粘質土	
Ⅳ2層	32.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	
Ⅳ2層	33.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ2層	34.10YR3/4	暗褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ2層	35.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	
Ⅳ2層	36.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ2層	37.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	1～5cm大の礫混
Ⅳ2層	38.7.5YR5/3	にぶい褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ2層	39.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ3層	40.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	

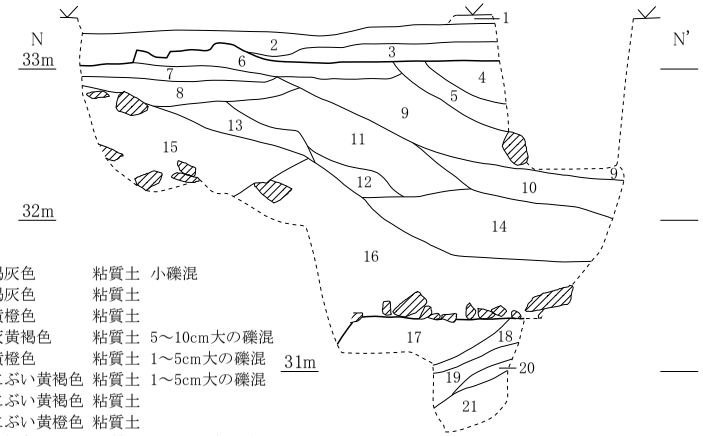
C9－4トレンチ西壁土層図



Ⅰ層	1.	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	2.	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	3.10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	4.10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	5.7.5YR7/8	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	6.7.5YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7.7.5YR7/8	黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	8.10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	9.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	10.7.5YR5/2	灰褐色	粘質土	10cm大の礫混
Ⅳ1層	11.10YR5/4	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	12.7.5YR6/6	橙色	粘質土	
Ⅳ1層	13.10YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	14.7.5YR6/6	橙色	粘質土	
Ⅳ1層	15.10YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	16.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	17.10YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	18.7.5YR6/4	にぶい橙色	粘質土	
Ⅳ1層	19.10YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	20.5YR4/4	にぶい赤褐色	粘質土	
Ⅳ1層	21.7.5YR6/4	にぶい橙色	粘質土	
Ⅳ1層	22.7.5YR5/3	にぶい褐色	粘質土	
Ⅳ1層	23.10YR7/4	にぶい黄橙色	砂質土	
Ⅳ1層	24.10YR3/4	暗褐色	粘質土	

0　　2m

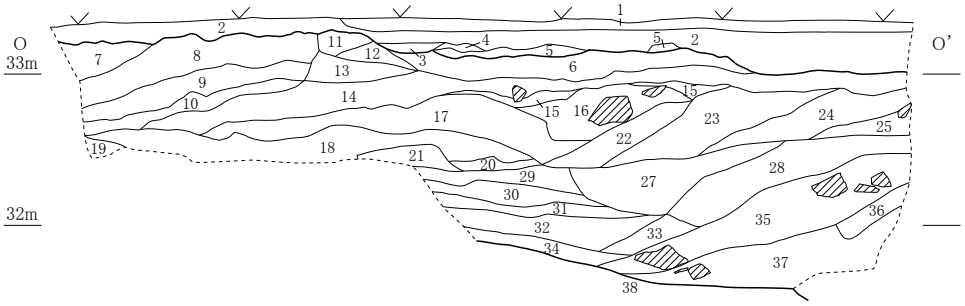
C9－4トレンチ中央南北土層図



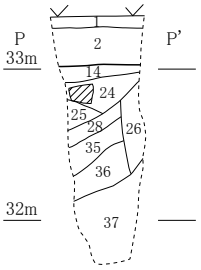
Ⅰ層	1.7.5YR5/1	褐灰色	粘質土	小礫混
Ⅰ層	2.10YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	3.2.5Y6/1	黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	4.10YR6/2	灰黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	5.2.5Y4/1	黄橙色	粘質土	1～5cm大の礫混
Ⅳ1層	6.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	1～5cm大の礫混
Ⅳ1層	7.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	8.10YR6/3	にぶい黄橙色	粘質土	
Ⅳ1層	9.10YR5/6	黄褐色	粘質土	5～30cm大の礫混
Ⅳ1層	10.7.5YR5/1	褐灰色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	11.10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	12.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	礫を含まず
Ⅳ1層	13.10YR7/6	明黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	14.10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～20cm大の礫混
Ⅳ1層	15.	黒褐色	礫	5～30cm大の礫混
Ⅳ1層	16.10YR3/4	暗褐色	礫	5～30cm大の礫混
Ⅳ2層	17.10YR3/4	暗褐色	粘質土	
Ⅳ2層	18.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ2層	19.10YR3/4	暗褐色	粘質土	
Ⅳ2層	20.7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ2層	21.10YR3/4	暗褐色	粘質土	

第16図　C9－4トレンチ土層図

C9－5トレンチ北壁土層図

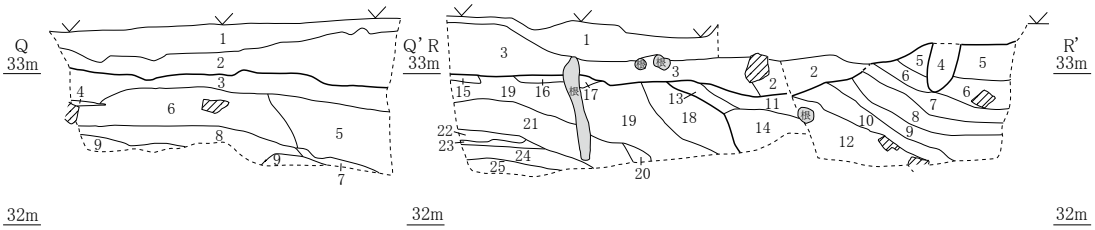


C9－5トレンチ東壁土層図



Ⅰ層	1.	黄色	砂質土		
Ⅰ層	2.	褐灰色	粘質土		
Ⅰ層	3.		灰層		
Ⅰ層	4.	10YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅰ層	5.	5YR5/6	明赤褐色	粘質土	
Ⅳ1層	6.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	8.	10YR4/4	褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	9.	10YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	10.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	11.	10YR5/2	灰黄褐色	粘質土	3～5cm大の礫混
Ⅳ1層	12.	10YR5/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	13.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	14.	10YR4/2	灰黄褐色	粘質土	締まり強い
Ⅳ1層	15.	10YR5/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	16.	10YR5/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	17.	10YR3/1	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	18.	10YR3/1	黒褐色	粘質土	1～10cm大の礫混
Ⅳ1層	19.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	20.	10YR6/8	明黄褐色	粘質土	締まり強い
Ⅳ1層	21.	7.5YR4/1	褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	22.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	23.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	24.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	25.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	小礫混
Ⅳ1層	26	5YR4/1	褐灰色	粘質土	小礫多混
Ⅳ1層	27.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	28.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	1～10cm大の礫混
Ⅳ1層	29.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	30.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	31.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	32.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ1層	33.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	34.	7.5YR3/2	黒褐色	粘質土	10～20cm大の礫混
Ⅳ1層	35.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	締まり弱い　10～30cm大の礫混
Ⅳ1層	36.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	37.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	10～30cm大の礫混
Ⅳ2層	38.	10YR3/3	暗褐色	粘質土	

C9－7トレンチ西壁土層図　　C9－6トレンチ西壁土層図　　C9－5トレンチ西壁土層図



〈C9－7トレンチ西壁土層〉

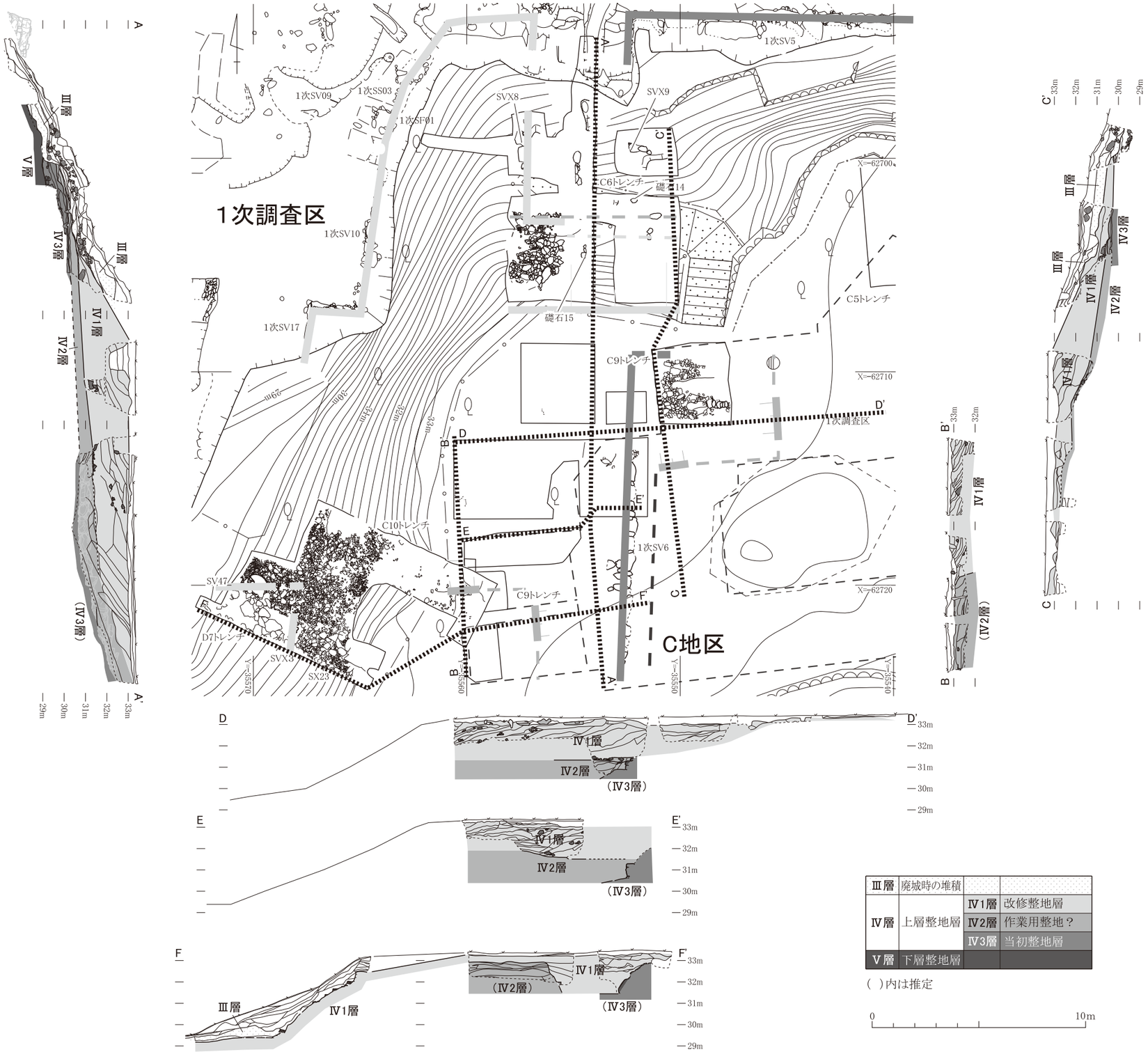
Ⅰ層	1.	褐灰色	粘質土		
Ⅰ層	2.	7.5YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	3.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	10cm大の礫混
Ⅳ3層？	4.	10YR4/1	褐灰色	粘質土	非常に硬く 締まる
Ⅳ3層？	5.	7.5YR3/3	暗褐色	砂質土	
Ⅳ3層？	6.	7.5YR5/3	にぶい褐色	砂質土	3～20cm大の礫多混
Ⅳ3層？	7.	7.5YR5/8	明褐色	砂質土	
Ⅳ3層？	8.	2.5Y6/1	黄橙色	粘質土	締まり弱い
Ⅳ3層？	9.	5YR4/6	明赤褐色	砂質土	3～10cm大の礫混

〈C9－5・6トレンチ西壁土層〉

Ⅰ層	1.	褐灰色	粘質土		
Ⅰ層	2.	2.5Y5/1	橙色	粘質土	
Ⅰ層	3.	7.5YR4/3	褐色	粘質土	1～5cm大の礫混
Ⅰ層	4.		褐灰色	粘質土	
Ⅳ1層	5.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	6.	10YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	7.	10YR4/4	褐色	粘質土	
Ⅳ1層	8.	10YR4/3	にぶい黄褐色	粘質土	
Ⅳ1層	9.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ1層	10.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	11.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	
Ⅳ1層	12.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	10～20cm大の礫混
Ⅳ1層	13.	7.5YR5/3	にぶい褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ1層	14.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	15.	7.5YR6/8	橙色	砂質土	
Ⅳ3層？	16.	10YR5/2	灰黄褐色	粘質土	
Ⅳ3層？	17.	10YR7/8	黄橙色	砂質土	
Ⅳ3層？	18.	10YR6/3	にぶい黄橙色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	19.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	5～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	20.	7.5YR4/3	褐色	砂質土	
Ⅳ3層？	21.	10YR4/2	灰黄褐色	砂質土	3～10cm大の礫混
Ⅳ3層？	22.	10YR5/1	褐灰色	粘質土	非常に硬く 締まる
Ⅳ3層？	23.	7.5YR4/4	褐色	砂質土	
Ⅳ3層？	24.	7.5YR3/1	黒褐色	粘質土	5cm大の礫混
Ⅳ3層？	25.	7.5YR4/2	灰褐色	粘質土	5cm大の礫多混

0　　2m

第17図　Ｃ９－５～７トレンチ土層図



第18図　C地区土層解釈図

公園造成土を中心とした近現代の造成土、Ⅳ層は戦国期上層整地層である。Ⅳ層は最初の整地層であるⅣ３層と、改修時の整地層Ⅳ２・Ⅳ１層に分けられる。Ⅳ２層は１次調査ＳＶ６を埋める整地層で、上面が硬く締まり、その直上には石垣（ＳＶ６）の石材及び裏込めの崩落礫が堆積している。これらの状況から、改修時における一工程の作業面の可能性が高いと考えられる。Ⅳ１層は１次調査のＳＶ10・17などに伴う整地層で、廃城時のＣ地区の地形を示すものである。上面は近代以降に削平されており、一部を除き残存していない。

（２）検出遺構

石積ＳＶ48（第13図）

千畳敷１次調査で検出されていた石積みで、Ｃ９－３トレンチで確認した。周囲の整地層が掘削されており、石積みのみを残した状態で埋め戻されていた。検出長は1.1m、高さ0.4m、面は南側で、埋土（第15図23～27層）には１～２cm程度の小円礫が包含されており、意図的に埋められた状況である。背後にあたる北側には、石を積むのと同時に盛ったと推測される整地層（第15図28～35層）を調査区壁面に確認した。整地層の北側は、Ⅳ２層構築の際、削り取られている可能性がある。

ＳＶ48に伴う整地層は、現在のところⅣ層の可能性が高いと考えるが、下層のＶ層に伴うものである可能性も否めない。

４．Ｃ10トレンチ（平成26年度調査）（第19図）

（１）トレンチの概要

Ｃ地区の西斜面、平成20年度に調査を行ったＤ７トレンチの北隣に調査区を設定した。Ｄ７トレンチで検出した巨石列の根固めと考えられる石列ＳＶＸ３の続きを確認することを目的とした。

調査の結果、ＳＶＸ３とほぼ直交する石積ＳＶ47を検出した。石垣前面の整地面には一部で円礫が敷設されていることも確認した。

（２）検出遺構

石積ＳＶ47

根石列ＳＶＸ３の向きと、概ね直交する石積。南側で面が揃う５石の上に１石がのる。東端の石から約１m離れて、同じ向きの石がもう１石残存する。検出長は3.1m。前面には被熱した石材が多く転落していたが、全面的な調査まで除去しないでおくこととした。よって石垣に伴う面の様子ははっきり分からないが、硬く締まった硬化面と一部で円礫が敷かれている部分を確認している。

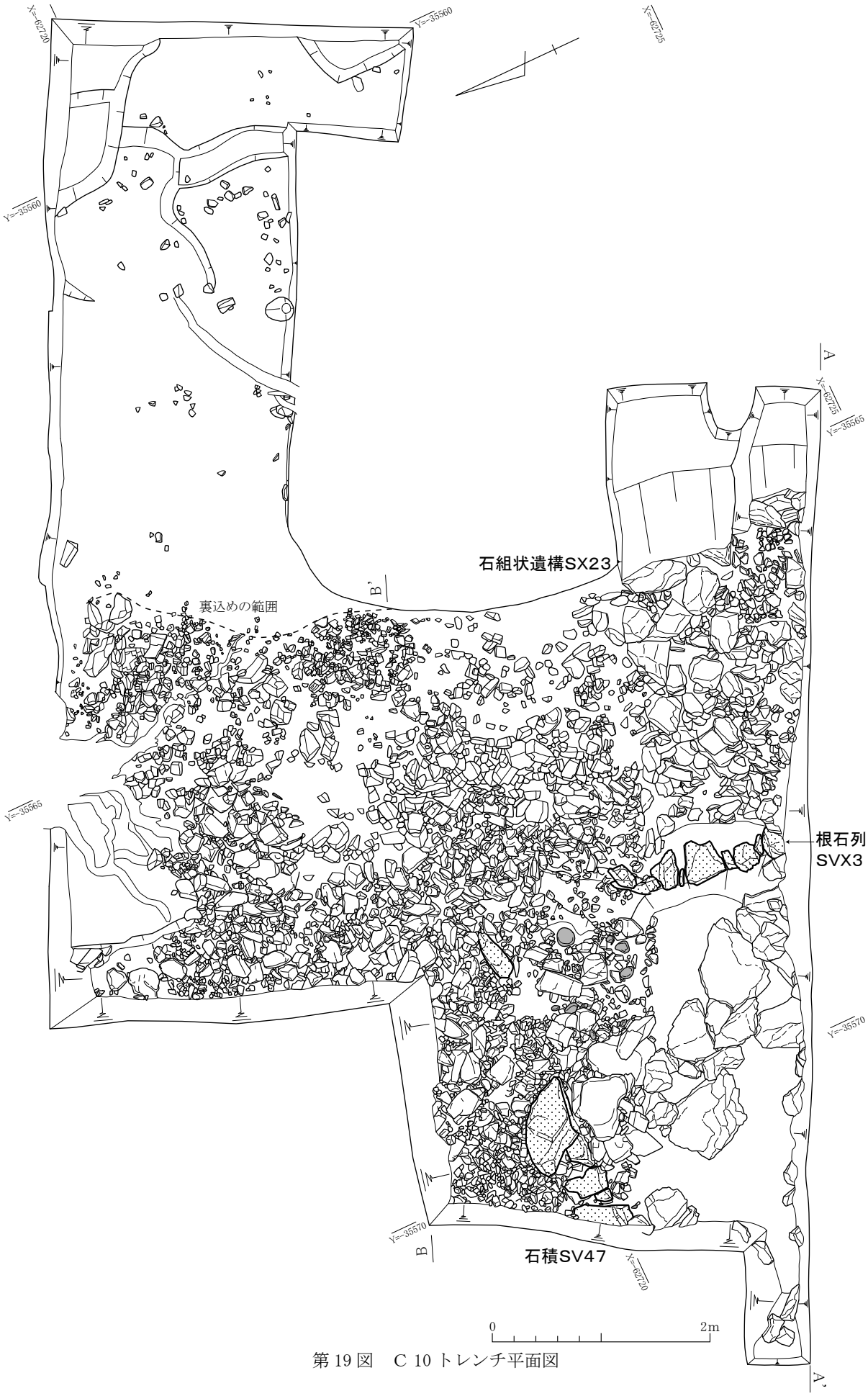
５．Ｃ11トレンチ（平成26年度調査）

（１）トレンチの概要

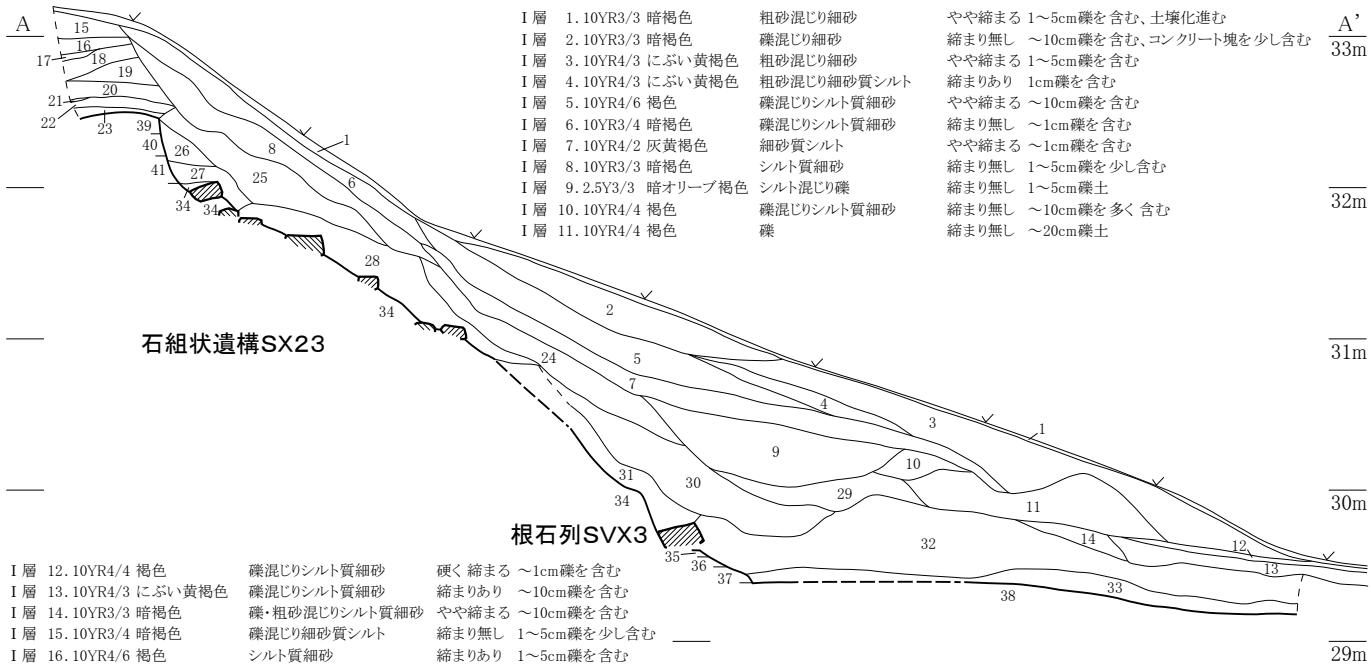
Ｃ地区の北斜面に調査区を設定した。Ｃ地区の北斜面は、１次調査で石垣ＳＶ05（以下、石垣１次ＳＶ５）と水路ＳＤ01（以下、水路１次ＳＤ１）が確認されており、この続きを確認することを目的とした。また水路を挟んだ対岸のＡ地区で、虎口状（橋関連）遺構ＳＸ43が確認されており、対になるＣ地区側の状況確認も目的とした。

調査の結果、石垣１次ＳＶ５および水路１次ＳＤ１の続きを確認するとともに、Ａ地区の虎口状（橋関連）遺構ＳＸ43と類似した平坦面をほぼ同一レベルで確認した。Ａ地区とＣ地区は橋によって結ばれていた可能性が高くなった。また、橋が想定される位置の下の石垣および水路内の石にだけ被熱赤化痕跡が見られ、焼け落ちた橋の部材によって赤化したものと推定される。

北斜面から約130度屈曲した東斜面で、石を整地土内に半分埋め込む庭風の石組み遺構を確認した（ＳＶ49）。橋から東側は滝を中心に谷川、岩盤を含めた景色を一体のものとして見せていたものと

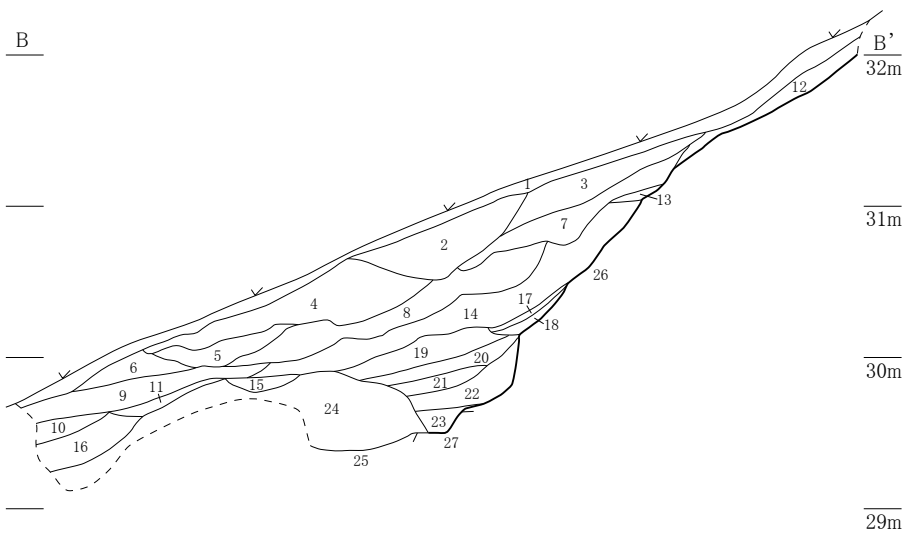


第 19 図　C 10 トレンチ平面図



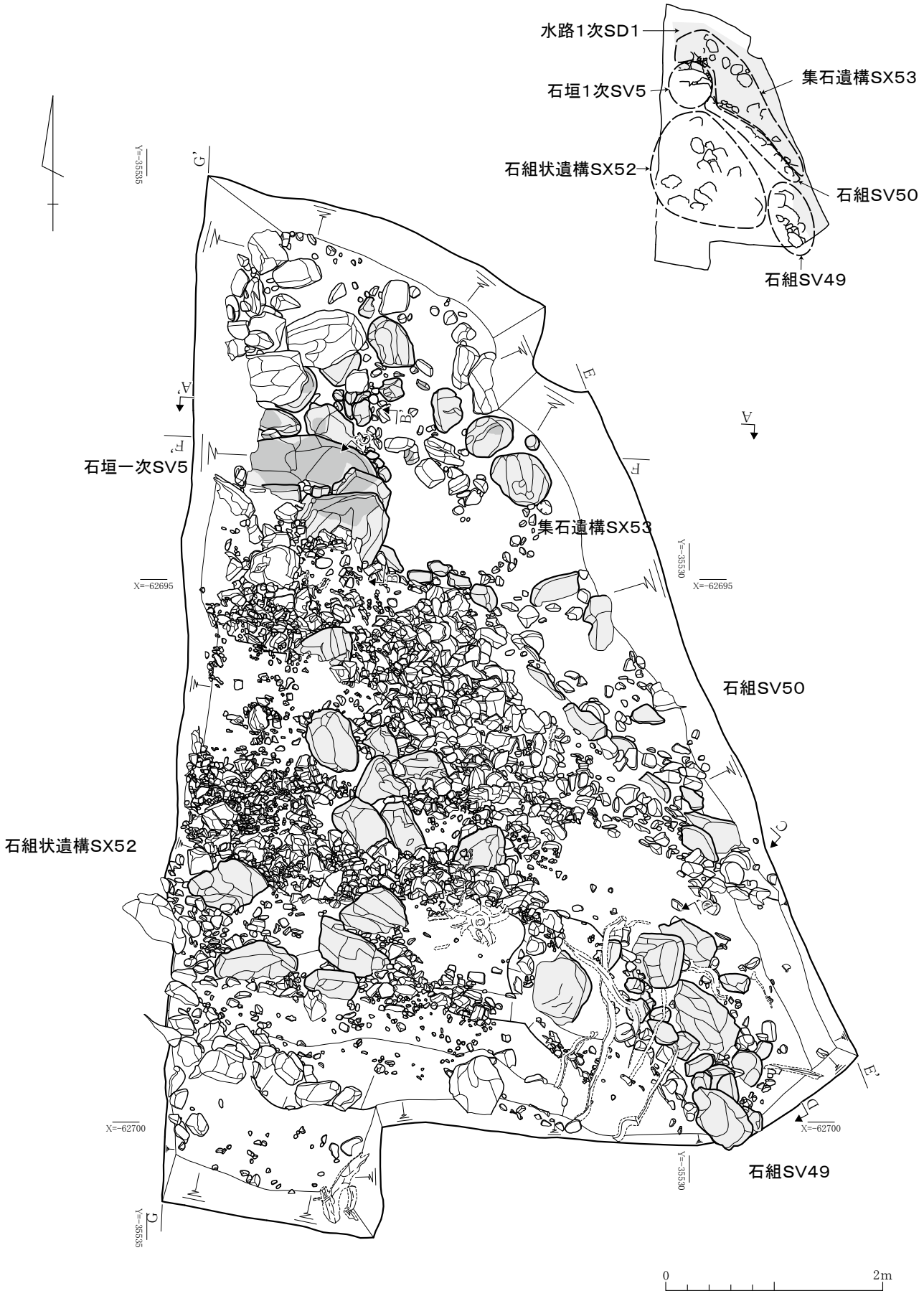
Ⅰ層	1.10YR3/3 暗褐色	粗砂混じり細砂	やや締まる	1～5cm礫を含む、土壌化進む
Ⅰ層	2.10YR3/3 暗褐色	礫混じり細砂	締まり無し	～10cm礫を含む、コンクリート塊を少し含む
Ⅰ層	3.10YR4/3 にぶい黄褐色	粗砂混じり細砂	やや締まる	1～5cm礫を含む
Ⅰ層	4.10YR4/3 にぶい黄褐色	粗砂混じり細砂質シルト	締まりあり	1cm礫を含む
Ⅰ層	5.10YR4/6 褐色	礫混じりシルト質細砂	やや締まる	～10cm礫を含む
Ⅰ層	6.10YR3/4 暗褐色	礫混じりシルト質細砂	締まり無し	～1cm礫を含む
Ⅰ層	7.10YR4/2 灰黄褐色	細砂質シルト	やや締まる	～1cm礫を含む
Ⅰ層	8.10YR3/3 暗褐色	シルト質細砂	締まり無し	1～5cm礫を少し含む
Ⅰ層	9.2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	シルト混じり礫	締まり無し	1～5cm礫土
Ⅰ層	10.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト質細砂	締まり無し	～10cm礫を多く含む
Ⅰ層	11.10YR4/4 褐色	礫	締まり無し	～20cm礫土
Ⅰ層	12.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト質細砂	硬く締まる	～1cm礫を含む
Ⅰ層	13.10YR4/3 にぶい黄褐色	礫混じりシルト質細砂	締まりあり	～10cm礫を含む
Ⅰ層	14.10YR3/3 暗褐色	礫・粗砂混じりシルト質細砂	やや締まる	～10cm礫を含む
Ⅰ層	15.10YR3/4 暗褐色	礫混じり細砂質シルト	締まり無し	1～5cm礫を少し含む
Ⅰ層	16.10YR4/6 褐色	シルト質細砂	締まりあり	1～5cm礫を含む
Ⅰ層	17.10YR6/6 明黄褐色	礫混じり細砂質シルト	やや締まる	1～5cm礫を含む
Ⅰ層	18.10YR4/6 褐色	礫混じり細砂質シルト	締まり無し	1～5cm礫を含む
Ⅰ層	19.10YR4/4 褐色	細砂質シルト混じり礫	締まり無し	5～10cm礫土
Ⅰ層	20.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト質細砂	やや締まる	～5cm礫を多く含む
Ⅰ層	21.10YR3/4 暗褐色	礫混じりシルト質細砂	締まり無し	1～5cm礫を多く含む
Ⅰ層	22.10YR3/4 暗褐色	礫混じりシルト質細砂	締まりあり	～1cm礫を多く含む
Ⅰ層	23.10YR4/6 褐色	礫・粗砂混じりシルト質細砂	締まりあり	～5cm礫を含む
Ⅱ層	24.10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質細砂	やや締まる	～10cm礫を含む、瓦を少し含む
Ⅱ層	25.10YR4/6 褐色	礫混じり細砂質シルト	やや締まる	～20cm礫を含む
Ⅱ層	26.10YR4/4 褐色	礫混じり細砂質シルト	締まり無し	1～5cm礫を多く含む、褐色シルトブロックを含む
Ⅱ層	27.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト	締まり無し	～10cm礫を含む
Ⅱ層	28.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト質細砂	締まり無し	1～5cm礫を多く含む
Ⅱ層	29.10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質細砂混じり礫	締まり無し	～10cm礫土、小・中円礫を少し含む
Ⅱ層	30.10YR4/4 褐色	シルト質細砂混じり礫	締まり無し	1～5cm礫土
Ⅱ層	31.10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質細砂混じり礫	締まり無し	～10cm礫土
Ⅲ層	32.10YR4/4 褐色	礫	締まり無し	～20cm礫土
Ⅲ層	33.10YR3/4 暗褐色	礫・粗砂混じりシルト質細砂	締まり無し	～10cm礫を多く含む、瓦を含む SVX3裏込め
Ⅳ層	34.10YR4/4 褐色	礫	締まり無し	～20cm礫土
Ⅳ層	35.10YR3/4 暗褐色	礫混じりシルト質細砂	締まりあり	～5cm礫を含む、径1mm炭化物を少し含む、ヒゲ根多い
Ⅳ層	36.10YR4/4 褐色	礫混じりシルト質細砂	硬く締まる	1～5cm礫を含む
Ⅳ層	37.10YR4/4 褐色	礫混じり細砂	硬く締まる	5～10cm礫を含む、径1mm炭化物を少し含む
Ⅳ層	38.10YR4/3 にぶい黄褐色	シルト質細砂	締まりあり	～1cm礫を含む、径1mm炭化物・径5mm明赤褐色焼土塊を少し含む
Ⅳ層	39.10YR4/4 褐色	礫混じり細砂質シルト	硬く締まる	～5cm礫を含む、径1mm炭化物を少し含む
Ⅳ層	40.10YR3/4 暗褐色	礫混じりシルト	締まりあり	1～5cm礫を含む
Ⅳ層	41.10YR4/6 褐色	礫混じりシルト	締まりあり	～10cm礫を含む

0　2m

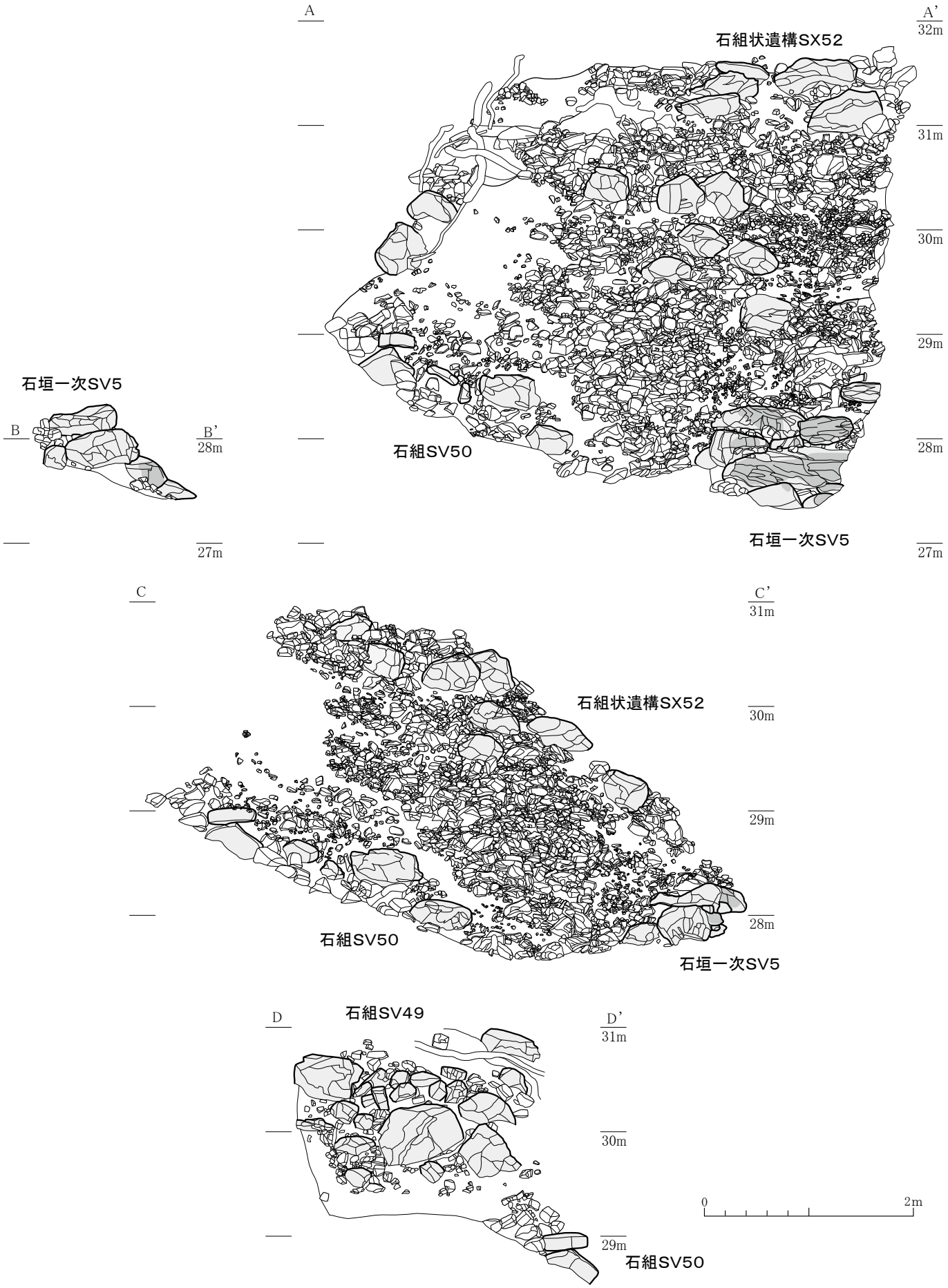


Ⅰ層	1.10YR5/2 灰黄褐色	細砂～中粒砂		
Ⅰ層	2.2.5Y7/2 黄橙色	細砂		
Ⅰ層	3.2.5Y6/4 黄橙色	細砂	コンクリート混	
Ⅰ層	4.10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂	コンクリート混	
Ⅰ層	5.10YR5/2 灰黄褐色	細砂		
Ⅰ層	6.10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	3～5cm礫混	
Ⅰ層	7.10YR5/3 にぶい黄褐色	極細砂～細砂	やや締まる	
Ⅰ層	8.10YR4/4 褐色	細砂		
Ⅰ層	9.10YR4/3 にぶい黄褐色	極細砂～細砂		
Ⅰ層	10.10YR4/2 灰黄褐色	細砂	5～10cm礫混	
Ⅰ層	11.10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	10cm礫混	
Ⅱ層？	12.7.5YR4/4 褐色	極細砂～細砂		
Ⅱ層？	13.10YR6/3 にぶい黄橙色	細砂		
Ⅱ層？	14.10YR6/6 明黄褐色	細砂	締まりあり	
Ⅱ層？	15.10YR5/3 にぶい黄褐色	細砂		
Ⅱ層？	16.2.5Y5/4 黄橙色	細砂	締まりあり	
Ⅱ層？	17.10YR6/6 明黄褐色	細砂	締まりあり	
Ⅱ層？	18.10YR6/6 明黄褐色	細砂	5～10cm礫混	
Ⅱ層？	19.10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂	3～5cm礫混	
Ⅱ層？	20.10YR4/4 褐色	細砂	3～5cm礫混	
Ⅱ層？	21.10YR5/4 にぶい黄褐色	細砂		
Ⅱ層？	22.10YR4/4 褐色	細砂混礫	10～20cm礫混	
Ⅱ層？	23.10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂混礫	10～20cm礫混	
Ⅳ層	24.10YR4/4 褐色	細砂混礫	10～30cm礫混	
Ⅳ層	25.10YR4/3 にぶい黄褐色	細砂混礫	3～5cm礫混	
Ⅳ層	26.10YR4/4 褐色	礫		
Ⅳ層	27.10YR4/4 褐色	シルト	硬く締まる	

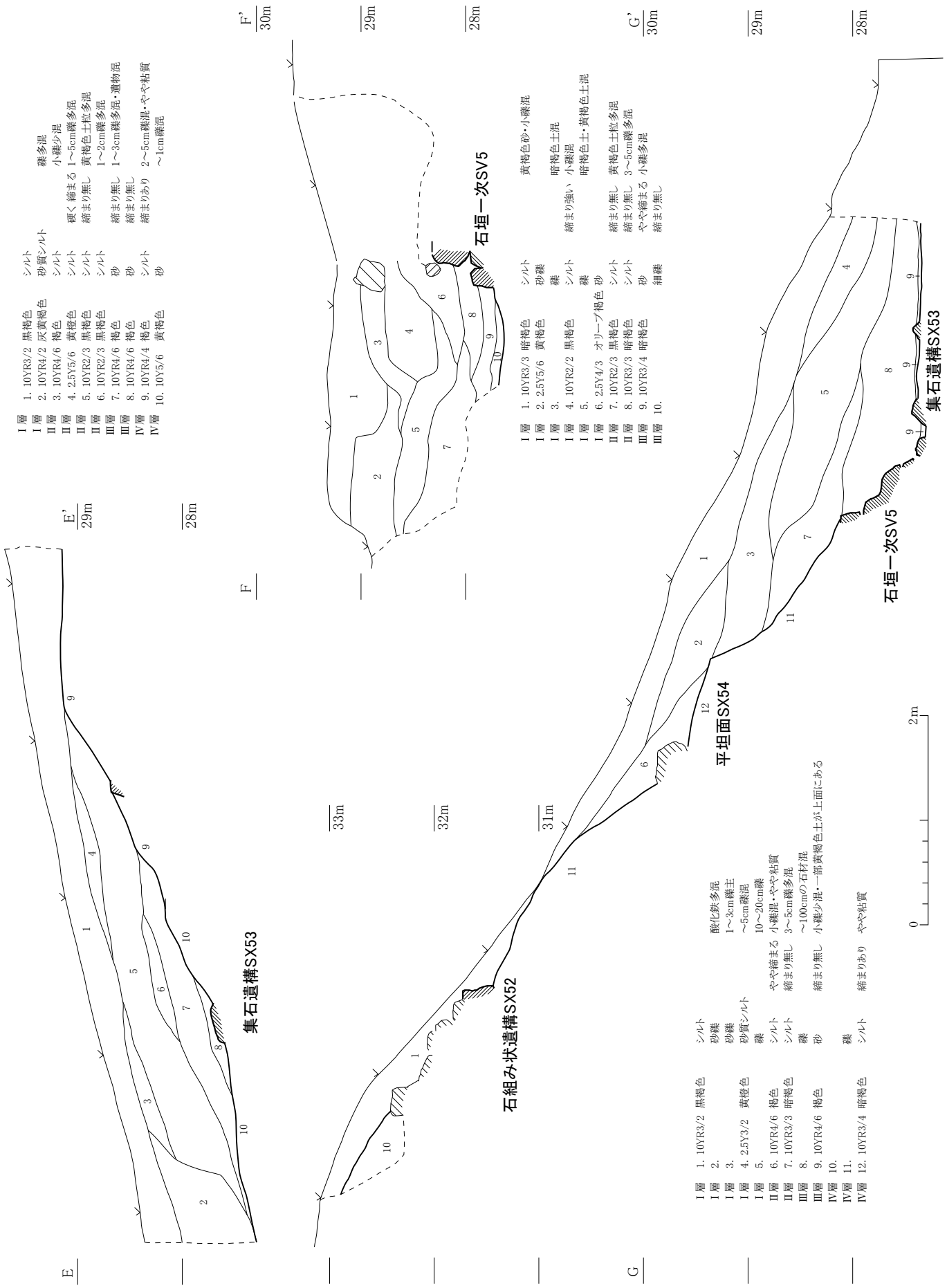
第20図　C 10 トレンチ土層図



第 21 図　C 11 トレンチ平面図



第 22 図　C 11 トレンチ立面図



第 23 図　C 11 トレンチ土層・断面図

考えられる。同様に整地土に埋め込まれた石は水路ＳＤ01の底面でも確認された（ＳＸ53）。

（２）検出遺構

石垣１次ＳＶ５（第21～22図）

１次調査で出土した石垣ＳＶ５の東端を検出した。検出長は1.7m、残存部分は２段で、高さ0.4mを測る。１段目は巨石を横方向に用い、確認できた部分で幅1.7m以上を測る。東に面を持つ石垣と出角を構成し、かつ東方向へは延びないことから東端といえる。ＳＶ５全体の長さは19.4mとなる。裏込め石は水路底部から高さ5.1mまで残存する。高さ1.9mの部分に平坦面（ＳＸ54）があり、セットバックさせた２段築成の可能性があるが現状では不明である。平坦面から裏込め石の最高部までは3.2mで、上部には階段状の石組み（石組状遺構ＳＸ52）が３段遺存する。裏込め石の最高部から0.6mで整地土天場となる。

平坦面ＳＸ54（第21～22図）

平坦面ＳＸ54は、奥行1.1m、幅1.9mの範囲で確認でき、暗褐色土で構築され上面が若干硬化している。礎石は確認されていない。平成25年度の調査で、水路を挟み、北に隣接するＡ地区において、虎口状遺構ＳＸ43を検出した。ＳＸ43は階段状の石組や平坦部、礎石等から構成される遺構で、その性格について、Ｃ地区へ至る橋の基礎を想定した（『岐阜城跡３』）。今回の調査で、Ｃ地区北斜面においても同一レベルで平坦面が検出されたことによって、その可能性はより高まったと考えられる。

被熱赤化痕跡（第21～22図）

石垣ＳＶ５および水路底部の石の一部に、被熱により明瞭に赤化した痕跡が確認できた。赤化した範囲は、ＳＸ54とＳＸ43を繋ぐ橋が想定される部分に限られており、１次調査で検出したＳＶ５の他の部分では、これほど明瞭な赤化痕跡は認められなかった。焼け落ちた橋の構築材により火を受けたものと推定される。

石組状遺構ＳＸ52（第21～22図）

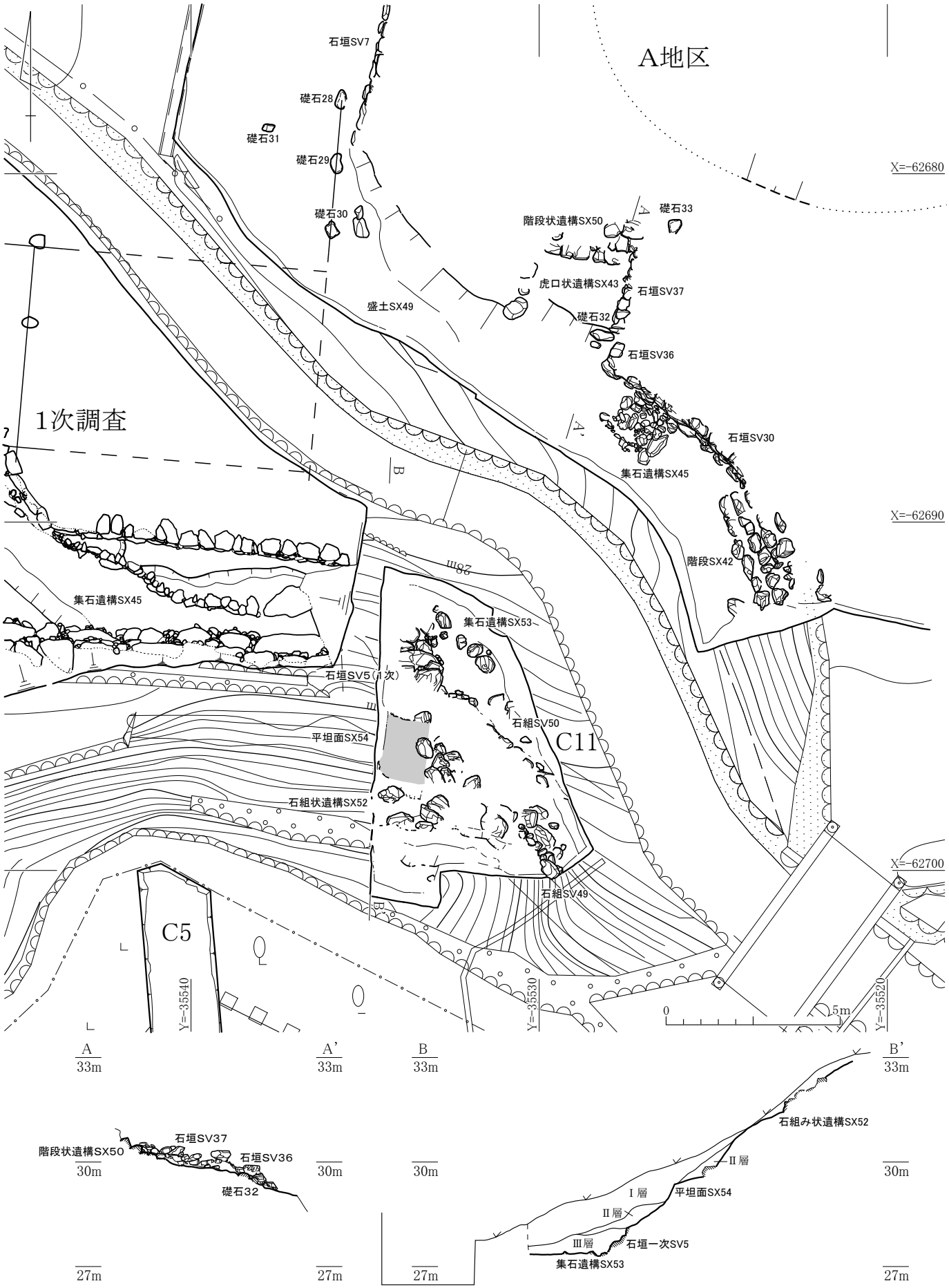
長さ0.6mほどの扁平な石を、平らな面を上に向けて階段状の石組みを構築したものである。３段３列を確認した。Ｃ地区西斜面に位置するＣ10（Ｄ７）トレンチにおいても同様な構造が見られた。Ｃ地区の外周を支える石垣もしくは巨石列は、天場まで積むのではなく、上部はこのような雁木状の構造物が造られていた可能性がある。

水路１次ＳＤ１（第21～22図）

１次調査で検出した、ＳＶ５に沿って構築された石積みの水路で、戦国期の谷川の流路である。幅は約2.5mを測る。今調査でも確認したＳＶ５の北側は、このＳＤ１の底にあたるが、対岸の護岸施設は現況の水路に阻まれ確認できていない。ＳＶ５より東は、順に石組遺構ＳＶ50，49が南側の護岸施設に相当する。水路底部は、東斜面に屈曲する部分で約30度の傾斜で東に向かって上がっている。底は黄褐色砂で、部分的に黄褐色土が貼られている状況が確認できた。また径0.4m程度のやや丸みを帯びた石を半分露出させて埋め込んだ施設（集石遺構ＳＸ53）も検出している。出土遺物は、奥の傾斜に近い部分で土師器皿が多数出土したほか、転落した礎石と見られる扁平な流紋岩の円礫が出土した。

石組遺構ＳＶ49（第21～22図）

北斜面から約130度屈曲した東斜面で確認した。石垣のように石材を積んで構築するのではなく、長径0.6m程度のやや丸みを帯びた石材を整地土内に半分露出させて埋め込むものである。石材の形状や様相、構造は園池遺構における景石と酷似する。ＳＶ５東端を境に谷川の上流側は、岩盤や滝を含めた一体的な庭園風に構築されていた可能性が高く、水路の護岸もこのような構造を採っていた可



第 24 図　A・C 地区遺構配置図

能性が高い。

石組遺構ＳＶ50（第21～22図）

石垣ＳＶ５と石組ＳＶ49を繋ぐ石組遺構で、長さは4.5ｍを測る。ＳＶ５・ＳＶ49両者とも角度が異なる。残存状況が悪く、明確ではないが、ＳＶ49の石材よりも小さい石を使用している。水路ＳＤ１の護岸施設でもあるが、水流に耐えられるような構造ではなく、主たる石材が崩壊あるいは抜き取られた痕跡の可能性もある。

集石遺構ＳＸ53（第21～22図）

ＳＤ１の底で検出した径0.4ｍ程度のやや丸みを帯びた石材を半分露出させて埋め込んだ遺構。石材の形状や様相、構造は園池遺構における景石と酷似する。ＳＶ５の東端より東の護岸施設は、石垣というより見栄えを重視した石組遺構となっている。谷川の約30ｍ上流には、滝があったと推測されており、この周辺は全体的に庭園風な様相を呈していた可能性が高い。その中で、ＳＸ53も景石として配石されていた可能性が考えられる。

６．Ｆ３トレンチ（平成24年度調査）（第25図）

（１）トレンチの概要

長さ10ｍ、幅１ｍの南北方向のトレンチを設定した。最大深さ1.5ｍまで掘削を行ったが、全て近代以降の造成土であることが判明した。

（２）検出遺構

遺構は検出されなかった。

７．Ｆ４トレンチ（平成24年度調査）

（１）トレンチの概要

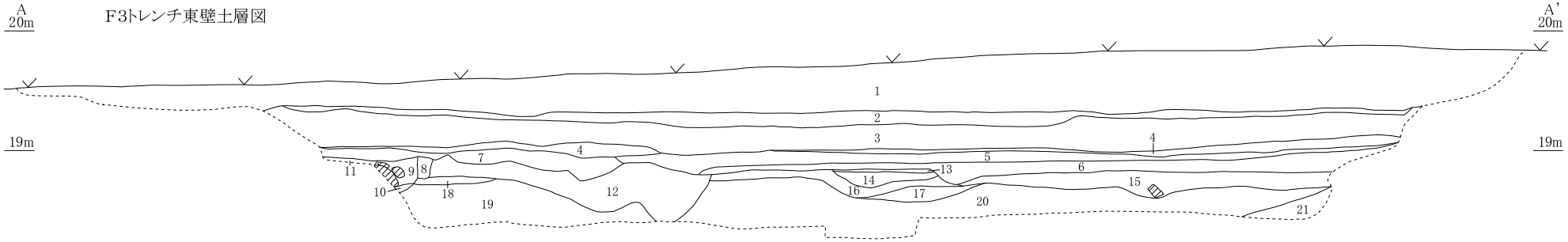
長さ５ｍ、幅２ｍの南北方向のトレンチを設定し、掘削した結果、現地表面から深さ1.3ｍ、標高19.0ｍで戦国期の整地層（Ⅳ層・第26図29層以下）を確認した。さらにサブトレンチを設定し、断割を実施したところ、標高18.9ｍで下層の整地層（Ｖ層・第26図46層以下）を確認した。上面からは遺構の可能性がある掘り込みも確認している。Ｖ層に伴う下層遺構として、ピットと石組みの溝？と見られる遺構が確認できたのみである。

（２）検出遺構

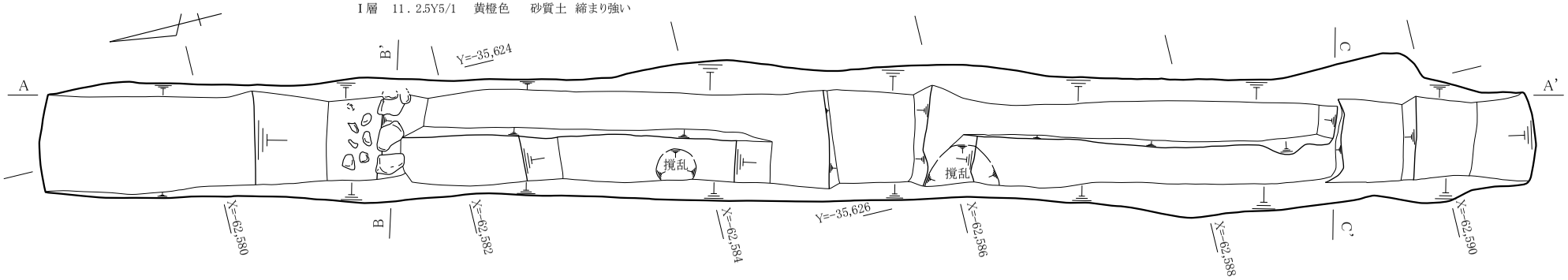
土坑？（第26図）

下層（Ｖ層）に伴う掘り込み。サブトレンチ北端で検出した。断面形状は皿形の底が平坦なものである。明治の地籍図を見ると、Ｆ４トレンチ北端をかすめるように水路が通っている。これは、千畳敷１次調査で検出した水路ＳＤ１の下流にあたるものと推測されている。それに関わる掘方のような遺構の可能性もある。

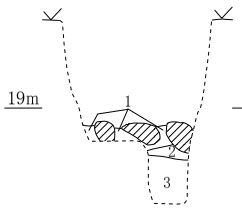
F3トレンチ東壁土層図



Ⅰ層　1．7.5YR4/2　灰褐色　粘質土
Ⅰ層　2．10YR8/6　黄橙色　砂質土
Ⅰ層　3．7.5YR3/3　暗褐色　粘質土
Ⅰ層　4．10YR8/6　黄橙色　砂質土
Ⅰ層　5．7.5YR5/2　灰褐色　砂質土　締まり強い
Ⅰ層　6．7.5YR4/1　褐灰色　粘質土　締まり非常に強い
Ⅰ層　7．5B5/1　橙色　粘質土
Ⅰ層　8．10YR4/2　灰黄褐色　粘質土
Ⅰ層　9．10YR4/2　灰黄褐色　粘質土　円礫・角礫混
Ⅰ層　10．7.5YR7/8　黄橙色　砂質土
Ⅰ層　11．2.5Y5/1　黄橙色　砂質土　締まり強い
Ⅰ層　12．5Y4/1　橙色　粘質土　ガラス出土
Ⅰ層　13．10YR5/2　灰黄褐色　粘質土　締まり強い　1cm大の小礫混
Ⅰ層　14．2.5Y4/1　黄橙色　粘質土　締まり強い　1cm大の小礫・円礫混
Ⅰ層　15．7.5YR5/1　褐灰色　粘質土
Ⅰ層　16．10YR4/2　灰黄褐色　粘質土　締まり強い
Ⅰ層　17．10YR4/1　褐灰色　砂質土　締まり弱い　角礫混
Ⅰ層　18．2.5Y4/1　黄橙色　粘質土　締まり強い
Ⅰ層　19．10YR4/1　褐灰色　砂質土　締まり弱い　円礫・角礫混
Ⅰ層　20．7.5YR4/2　灰褐色　砂質土　締まり弱い　角礫混
Ⅰ層　21．7.5YR4/1　淡橙色　砂質土　締まり弱い　角礫混

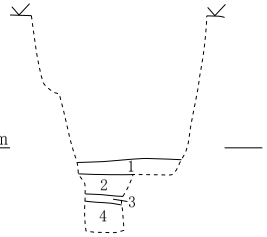


F3トレンチ北壁土層図



Ⅰ層　1．10YR4/2　灰黄褐色　粘質土　円礫・角礫混
Ⅰ層　2．7.5YR7/8　黄橙色　砂質土
Ⅰ層　3．10YR4/1　褐灰色　砂質土　締まり弱い　円礫・角礫混

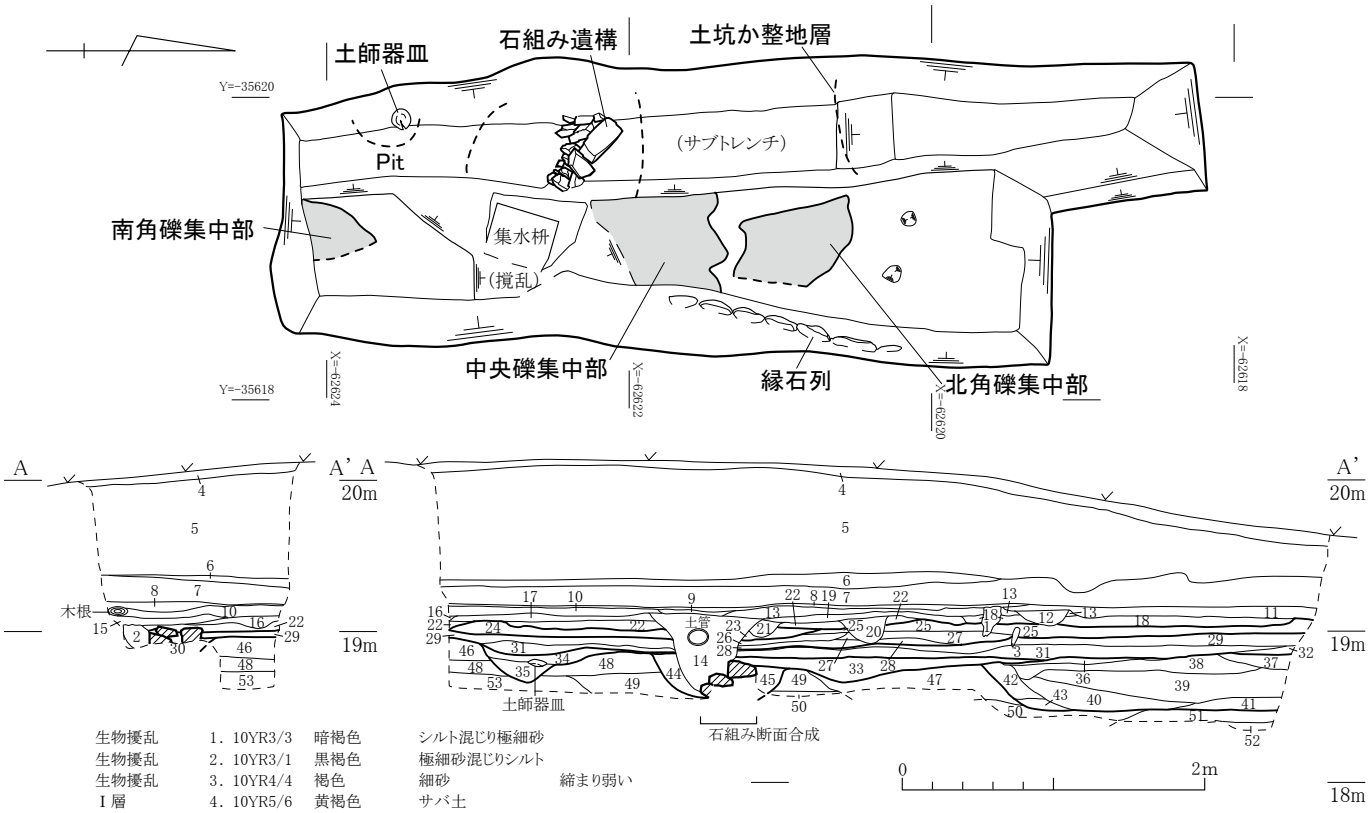
F3トレンチ南壁土層図



0　2m

Ⅰ層　1．7.5YR4/1　褐灰色　粘質土　締まり非常に強い
Ⅰ層　2．7.5YR5/1　褐灰色　粘質土
Ⅰ層　3．7.5YR4/2　灰褐色　砂質土　締まり弱い　角礫混
Ⅰ層　4．7.5Y4/1　淡橙色　砂質土　締まり弱い　角礫混

第25図　F3トレンチ平面・土層図



生物擾乱	1. 10YR3/3	暗褐色	シルト混じり極細砂			
生物擾乱	2. 10YR3/1	黒褐色	極細砂混じりシルト			
生物擾乱	3. 10YR4/4	褐色	細砂	締まり弱い		
Ⅰ層	4. 10YR5/6	黄褐色	サバ土			
Ⅰ層	5. 10YR4/4	褐色	細砂混じりシルト		10YR3/4暗褐色細砂混じりシルトを互層状に含む、下層に5～20cm角礫多混	
Ⅰ層	6. アスファルト					
Ⅰ層	7. 10YR3/2	黒褐色	粗砂混じりシルト		1～2cm円礫多混、炭化物多混	
Ⅰ層	8. 10YR4/3	にぶい黄褐色	細砂	締まりやや強い		
Ⅰ層	9. 10YR3/4	暗褐色	細砂混じり極細砂		～2cm角礫多混	
Ⅰ層	10. 10YR4/4	褐色	粗砂混じりシルト	締まりやや強い	～2cm角礫多混	
Ⅰ層	11. 10YR3/2	黒褐色	シルト混じり極細砂		1～3cm円礫・角礫多混	
Ⅰ層	12. 10YR4/3	にぶい黄褐色	粗砂	締まり弱い	～4cm角礫やや多混	
Ⅰ層	13. 10YR3/4	暗褐色	極細砂混じりシルト	締まり強い	～1cm炭化物・焼土やや多混	
Ⅰ層	14. 10YR3/3	暗褐色	極細砂混じりシルト		土管含む	
Ⅰ層	15. 7.5YR3/3	暗褐色	粗砂混じり細砂	締まり強い	～3cm角礫多混	
Ⅰ層	16. 10YR4/6	褐色	粗砂混じり極細砂	締まりやや強い	～2cm角礫多混	
Ⅰ層	17. 7.5YR3/4	暗褐色	粗砂混じり極細砂	締まり強い	～3cm角礫多混	
Ⅰ層	18. 10YR4/4	褐色	極細砂混じりシルト		粗砂多混、～3cm円礫・角礫多混、1～5㎜炭化物・焼土少混	
Ⅰ層	19. 10YR3/4	暗褐色	極細砂混じりシルト	締まり強い	～1cm炭化物・焼土やや多混	
Ⅰ層	20. 10YR3/4	暗褐色	粗砂混じり細砂		暗灰色細砂ブロック少混、～5cm角礫多混	
Ⅰ層	21. 10YR3/4	暗褐色	極細砂混じりシルト			
Ⅰ層	22. 7.5YR3/3	暗褐色	シルト混じり細砂	締まりやや弱い	2～5cm角礫多混、炭化物少混	
Ⅰ or Ⅲ層	23. 7.5Y5/6	明褐色	粗砂	締まり弱い		
Ⅰ or Ⅲ層	24. 10YR4/6	褐色	細砂混じり粗砂	締まり弱い	1～2cm角礫多混	
Ⅲ層	25. 7.5YR3/4	暗褐色	細砂混じりシルト		粗砂やや多混、～3cm角礫やや多混、炭化物わずかに混	
Ⅲ層	26. 10YR3/4	暗褐色	細砂混じりシルト	締まり強い	～1cm角礫多混	
Ⅲ層	27. 10YR3/4	暗褐色	粗砂混じり極細砂	締まり弱い	～2cm角礫多混	
Ⅲ層	28. 7.5YR3/3	暗褐色	極細砂混じりシルト	締まりやや強い	～5cm角礫多混、炭化物～1cmやや多混、焼土わずかに混	
Ⅳ層	29. 2.5Y4/6	オリーブ褐色	極細砂混じり細砂	上面締まり強い	1～3cm円礫・角礫わずかに混	
Ⅳ層	30. 10YR3/2	黒褐色	極細砂混じりシルト		1～2cm角礫混	
Ⅳ層	31. 10YR3/2	黒褐色	粗砂混じり極細砂	締まり弱い	1～3cm円礫・角礫多混、1～3cm炭化物少混	
Ⅳ層	32. 7.5YR4/4	褐色	粗砂混じり細砂	締まり弱い	～3cm円礫・角礫多混	
Ⅳ層？	33. 10YR4/6	褐色	粗砂混じり極細砂	締まり強い		
Pit?	34. 2.5Y4/6	オリーブ褐色	極細砂混じり細砂	上面締まり強い	～1cm炭化物少混	
Pit	35. 10YR2/2	黒褐色	細砂混じりシルト		～2cm炭化物やや多混	
土坑？	36. 7.5YR5/6	明褐色	粗砂混じりシルト	締まり強い		
土坑？	37. 10YR3/3	暗褐色	細砂混じり極細砂		～3cm角礫多混	
土坑？	38. 7.5YR3/2	黒褐色	シルト		1～3cm角礫少混	
土坑？	39. 10YR4/4	褐色	極細砂混じり粗砂		1～20cm角礫多混	
土坑？	40. 10YT3/2	黒褐色	粗砂混じり極細砂		1～20cm角礫多混	
土坑？	41. 10YR4/4	褐色	粗砂混じり極細砂		1～3cm角礫少混	
土坑？	42. 10YR5/4	暗褐色	粗砂混じりシルト		1～10cm角礫多混	
土坑？	43. 10YR5/4	暗褐色	粗砂混じり極細砂		3～5cm角礫多混	
石組み構築土	44. 10YR3/2	黒褐色	極細砂混じりシルト		1～5cm角礫やや多混	
石組み構築土	45. 10YR4/3	にぶい黄褐色	シルト混じり極細砂		1～2cm角礫多混、～1cm炭化物やや多混	
Ⅴ層	46. 10YR4/6	褐色	粗砂	締まり強い	1～3cm角礫多混	
Ⅴ層	47. 10YR3/3	暗褐色	粗砂混じり細砂		1～5cm角礫多混	
Ⅴ層	48. 10YR4/6	褐色	粗砂混じり極細砂		1～3cm角礫多混	
Ⅴ層	49. 2.5Y6/6	明黄褐色	粗砂	締まり弱い	～2cm角礫多混	
Ⅴ層	50. 10YR4/6	褐色	粗砂混じり極細砂		～20cm角礫やや多混	
Ⅴ層	51. 10YR4/4	褐色	粗砂混じりシルト		1～5cm円礫少混	
Ⅴ層？	52. 205Y6/6	明黄褐色	粗砂		1～3cm角礫わずかに混	
Ⅴ層？	53. 10YR3/3	暗褐色	極細砂混じり細砂		粗砂多混、1～5cm角礫多混	

第26図　Ｆ４トレンチ平面・土層図

第４章　遺物

第１節　遺物の概要

陶磁器類や土師器皿の分類や年代観については、岐阜市が従来用いている基準に従った（註）。

１．瀬戸美濃産陶器

戦国期の焼き物のうち、瀬戸美濃産陶器（大窯製品）が占める割合は約13％（2,451点中308点）である。これは『岐阜城跡』の15.7％、『岐阜城跡２』の約14％と比べてほぼ同じである。トレンチ毎に見るとＣ９トレンチとＣ11トレンチが多い。

２．輸入陶磁器

戦国期の遺物のうち、輸入陶磁器が占める割合は約４％（108点）で、その内訳は染付59％（64点）、青磁９％（10点）、白磁29％（31点）、中国製陶器２点、朝鮮製陶器１点である。

中国製陶器は天目茶碗(117)と小皿(118)で、いずれもＣ９-4トレンチⅠ層からの出土である。朝鮮製陶器の可能性があるもの(42)はＣ８トレンチⅢ層からの出土である。

３．土師器皿

出土遺物のうち最も多いのが土師器皿で、2,035点、全体の83％を占める。この割合はこれまでの調査とほぼ同様な数値である。

土師器皿は内面のナデ調整を観点として、底部と体部をナデ分け、体部は横方向にナデる（ヨコナデ）Ｂ類と、ナデ分けをしない（一方向ナデ）Ｃ類に大別でき、さらに細分されるが、岐阜城千畳敷遺跡で大多数を占めるのがＢ２類とＣ２類である。Ｂ２類はさらに細分されており（註６）、今回判別可能なものは極力分類したが、破片で判断できないものはＢ２類という分類に留めている。

４．瓦

瓦の出土は512点と比較的多い。うち76％（388点）はＣ10トレンチからの出土である。近接するＣ７トレンチからは7,000点を超える瓦の出土があり、これに関連しての出土量といえる。軒平瓦は『岐阜城跡』、軒丸瓦は『千畳敷』、各報告書の分類を使用した。

５．壁土

今回の調査ではおよそ1,400点の壁土が出土した。うち94％（1,345点）はＣ８トレンチからの出土である。Ｃ８トレンチは、ほぼ全域が池泉遺構ＳＲ３に占められるが、その埋土は上方のＢ地区からの流れ込みと判断できる。壁土もこの埋土中に多く包含されており、元となる建物はＢ地区にあったと考えられる。

６．その他

これまでの岐阜城千畳敷遺跡の調査では、須恵器・灰釉陶器の出土が一定量認められたが、今回の調査では、須恵器が６点、灰釉陶器０点と極めて少ない。また、山茶碗においても尾張型８点、東濃型29点と、これまでの調査と比較すると少量である。

（註）（１）渡辺博人　1984　「美濃須衛古窯跡群における須恵器編年」『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』

（２）藤澤良祐　2008　「第２章　東濃型山茶碗の形式編年」『中世瀬戸窯の研究』

（３）小野正敏　1982　「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』No.２

（４）上田秀夫　1982　「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』No.２

（５）藤澤良祐　1993　「瀬戸・美濃大窯の編年」『瀬戸市史陶磁史篇四』

（６）井川祥子　2006　「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と戦国城下町』

第２節　出土遺物

１．Ｂ20トレンチ

１・２はⅥ層から出土した。１はＣ２類の土師器皿、２はロクロ成形の土師器であるが、器種は不明である。

３～11はⅢ層から出土した。３は大窯第３～４段階の擂鉢、４はＣ２類の土師器皿、５・６は常滑産陶器の甕、７～10は瓦である。７は吊紐痕が見られる丸瓦、８・９は平瓦、10は輪違瓦である。11は灰釉の丸皿で近世と考えられ、混入の可能性もある。

12～15はⅡ層もしくはⅢ層から出土したものである。12は外面に錆釉が施された焼締の祖母懐壺で、肩部に把手がある。13は染付碗、14は白磁皿、15は土錘である。

16～41はⅠ層から出土した。16～22は大窯製品で、16は第３段階の丸皿、17は鉄釉と薄い錆釉が施された第１～２段階の耳付水注、18は外面に鉄釉、内面に錆釉が施された第３～４段階の壺、19は外面に濃い錆釉、内面に鉄釉が施された第３～４段階の小壺もしくは小瓶、20・21は第３段階前半の擂鉢、22は灰釉が施された第１段階の筒形香炉である。16は二次被熱している。23は染付小杯である。24～34は土師器皿で、24・25はＢ２類、26はヨコナデが不明瞭であるが、器形からＢ類と考えられるもの、27～33はＣ２類に分類される。34はロクロ成形の土師器皿である。35は丸瓦である。36は古瀬戸後Ⅳ期の鉄釉の四耳壺である。37～40は近世瀬戸美濃産陶器で、37は鉄釉の碗、38・39は灰釉の皿、40は連房第11小期の擂鉢である。41は産地不明の陶器で鉄釉の壺である。

２．Ｃ８トレンチ

42～49はⅢ層から出土した。42は二次被熱が激しい碗で、朝鮮製陶器と見られる。43は花崗岩製の蹲踞（手水鉢）である。平面形が方形を呈するもので、底面と直立する側面２面の一部が残存する。側面の一方は、上端が山形に弧を描いている。高さは20.0～22.5cm、側面の厚さは約６～８cm、底の厚さは約６cmを測る。側面の上部を中心に赤化した被熱痕が見られる。44・45は鉄製の釘であるが、錆が著しく、頭部の形状は不明瞭であるが、頭巻釘と見られる。46～48は被熱して硬化した壁土である。46は板材もしくは太い竹を細かく割った小舞痕と、直交する板材の小舞痕が見られる。47は布目痕が見られるもので、塗り足しの痕跡と見られる。48は厚さ約６cmを測るもので、当時表面に表れていた両面と、塗り重ねの痕跡が観察できる。49は尾張型山茶碗５型式の皿である。

50～52はⅡ層から出土したと見られるものである。50は大窯第１段階の端反皿、51・52はＣ２類の土師器皿である。

53～67はⅠ層から出土した。53・54は大窯製品で、53が第３段階の内反高台の天目茶碗、54は第２～３段階の丸皿で強く二次被熱している。55～58は中国製染付で、55は二次被熱した碗、56は小杯、57はＣ群の皿、58は大皿である。59～61は土師器皿で、59はＢ２-b類、60・61はＣ２類である。62は鉄釘、63は平瓦、64～66は壁土である。64は片面に布目痕、もう片面には小舞痕が見られる。小舞は幅の狭い板もしくは竹を２～３枚を並べて縄で固定しているようである。65は厚いブロック状のもの、66は微かに小舞痕が見られる。67は古瀬戸後Ⅳ期新段階の腰折皿である。

３．Ｃ９トレンチ

68はC9-1トレンチⅢ層から出土したＢ２類の土師器皿、69は同Ⅰ層から出土した大窯第１段階の端反皿である。

70～83はC9-2トレンチから出土したもので、70～76はⅢ層からである。70・71は大窯製品の擂鉢で、70が第２段階、71が第３段階前半である。72～74は土師器皿で、72がＢ２-c類、73・74がＣ２類である。75は鉄釘、76は尾張型山茶碗６型式の碗である。77～83はⅠ層から出土した。77～83は土師

器皿で、77・78はＢ２-b類、79はＢ２類、80はＣ２類、81・82はＣ２類と見られるものである。83は寛永通寶である。

84～94はC9-3トレンチから出土したもので、84は石積ＳＶ48に伴う盛土中（Ⅳ層）からである。土師器皿であるが、分類はできなかった。85～91はⅢ層から出土した。85・87・89・90は土師器皿で、87と90はＢ２-c類であるが、他は分類が難しい。86は染付皿Ｅ群、88は白磁皿、91は元豊通寶である。92～94は同Ⅰ層から出土した。92は大窯第３段階前半の擂鉢、93は尾張型山茶碗で６型式の鉢、94は東濃型山茶碗で白土原窯式の碗である。

95～122はC9-4トレンチから出土し、95～99はⅢ層からのものである。95は染付皿Ｃ群、96～98はＣ２類の土師器皿、99は土師器で茶釜である。100～122はⅠ層から出土した。100～105は大窯製品で、100は外面腰部に薄い錆釉を施した第３段階の天目茶碗、101は第２段階の丸皿、102は第３段階の反り皿、103は第２段階の鉄釉稜皿、104は第２段階の灯明皿、105は鉄釉の祖母懐壺である。106～110は染付で、106は碗Ｃ群、107・108は皿Ｃ群、109・110は皿Ｅ群である。111～113は青磁、111・112は龍泉窯系で、111は盤、112はその口縁部の可能性がある。113は稜花皿の底部である。114～116は端反の白磁皿である。117・118は中国製陶器で、117は鉄釉の天目茶碗である。腰部の釉を削り取っており、連弁風に掻き取られた箇所には、黒色のものが塗布されているように見える。118はスカイブルーを呈する鉛釉の小皿である。胎土は軟質で、口縁部外周は面取りが施されており、平面形は多角形を呈する。119は軒丸瓦Ⅰ類、120は棟飾り瓦と見られる。121・122は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗である。

123はC9-6もしくは-7トレンチⅠ層から出土した瓦で、棟飾り瓦と見られる。124はC9-7トレンチⅢ層から出土した土師器皿Ｃ２類である。125～127はＣ９トレンチから出土したもので、125・126はⅢ層の可能性が高いもの、127はⅠ層のものである。125は染付碗、126は瓦器の火鉢、127は寛永通寶である。

４．Ｃ10トレンチ

128～133はⅢ層から出土した。128・129は大窯製品で、128は口縁部のみ鉄釉を施す第３段階の丸皿、129は鉄釉を施す第２～３段階の徳利である。130～133は瓦で、130は軒平瓦Ｃ類、131は軒丸瓦Ⅰ類、132はコビキＢ技法が見られる丸瓦、133は棟飾り瓦である。

134～139はⅡ～Ⅲ層から出土した。134・135は大窯製品で、134は第４段階前半の灰釉の折縁皿、135は錆釉が施された第３段階の壺である。136は白磁皿である。137は軒平瓦Ａ類、138は丸瓦、139は古瀬戸中Ⅰ～Ⅱ期の灰釉が施された瓶子である。

140～155はⅠ層から出土した。140は灰釉が施された大窯第３～４段階の筒形容器、141は染付皿Ｅ群である。142～151は瓦で、142・143は軒平瓦Ａ類、144は軒平瓦Ｃ類、145・146は軒丸瓦Ⅰ類、147・148は平瓦、149・150は丸瓦、151は飾り瓦と見られるものである。143・145・146は二次被熱している。152は寛永通寶、153は古瀬戸後期の鉄釉の祖母懐壺、154・155は近世後期の瀬戸美濃産陶器で、154は灰釉の徳利、155は鉄釉の壺である。

５．Ｃ11トレンチ

156・157はⅣ層から出土した。両者とも土師器皿Ｂ２-c類である。

158～183はⅢ層から出土した。158～160は大窯製品で、158は第１段階の天目茶碗、159は第１段階の反り皿、160は第２段階の灯明皿である。158は二次被熱している。161～178は土師器皿で、161～163はＢ２-b類、164～167はＢ２-c類、169～178はＣ２類に分類される。168はＢ２類とみられるものである。179・180は鉄釘、181は銭貨で、明瞭ではないが祥符通寶とみられる。182は古瀬戸後Ⅳ期新段階の天目茶碗、183は産地不明の陶器である。

184～196はⅠ層もしくはⅣ層から出土した。184～186は大窯製品の擂鉢で、184は第３段階前半、185は第３段階、186は第３～４段階に比定される。187～195は土師器皿で、187～189はＢ２-c類、190・191はＢ２類、192～195はＣ２類である。196は東濃型山茶碗の皿で、明和窯式である。

197～232はⅠ層もしくはⅡ層から出土した。197～210は大窯製品で、197は第３段階後半の天目茶碗、198・199は第１段階の端反皿、200は端反皿か丸皿の底部、201は第２～３段階の反り皿、202は錆釉が施された第４段階の大皿である。200は二次被熱している。203は大窯製品である可能性が高いもので、鉄釉が施された筒形容器である。204～206は第２段階の擂鉢である。207は鉄釉の第１～２段階の小壺もしくは小瓶、208は鉄釉の第２～３段階の徳利、209は鉄釉の祖母懐壺である。210～214は染付皿で、210はＢ１群、211はＢ２群、212はＣ群、213はＥ群に分類される。210・214は二次被熱している。215は龍泉窯系青磁の盤、216・217は白磁皿である。215はＣ９トレンチから出土した111と同一個体の可能性が高い。218～222は土師器皿で、218・219はＢ２-b類、220～222はＣ２類である。223は鉄釘、224は銭貨で皇宋通寶である。225は軒丸風の瓦であるが、瓦当面の接合面の角度が通常ではない。226は須恵器の長頸瓶、227は美濃須衛産の山茶碗で片口鉢、５型式併行のものである。228～231は古瀬戸製品で、228は中Ⅰ～Ⅱ期の四耳壺、229は後Ⅳ期新段階の天目茶碗、230・231は後Ⅳ期の口広有耳壺である。鉄釉が施される。

232～236はⅠ層から出土した。232・233は大窯製品で、232は第２～３段階の丸皿、233は第３段階前半の擂鉢である。234は染付皿Ｂ２群、235は土師器の羽釜、236は尾張型山茶碗10型式の片口鉢である。

６．Ｆ３トレンチ

237～241はⅠ層から出土した。237・238は大窯製品で、237は第１段階の端反皿、238は第３段階後半の擂鉢である。239は土師器皿Ｃ２類、240は連房第８～９小期の鉄釉の灯明皿、241は鉄釉の瀬戸美濃産陶器であるが、器種、時期は不明である。

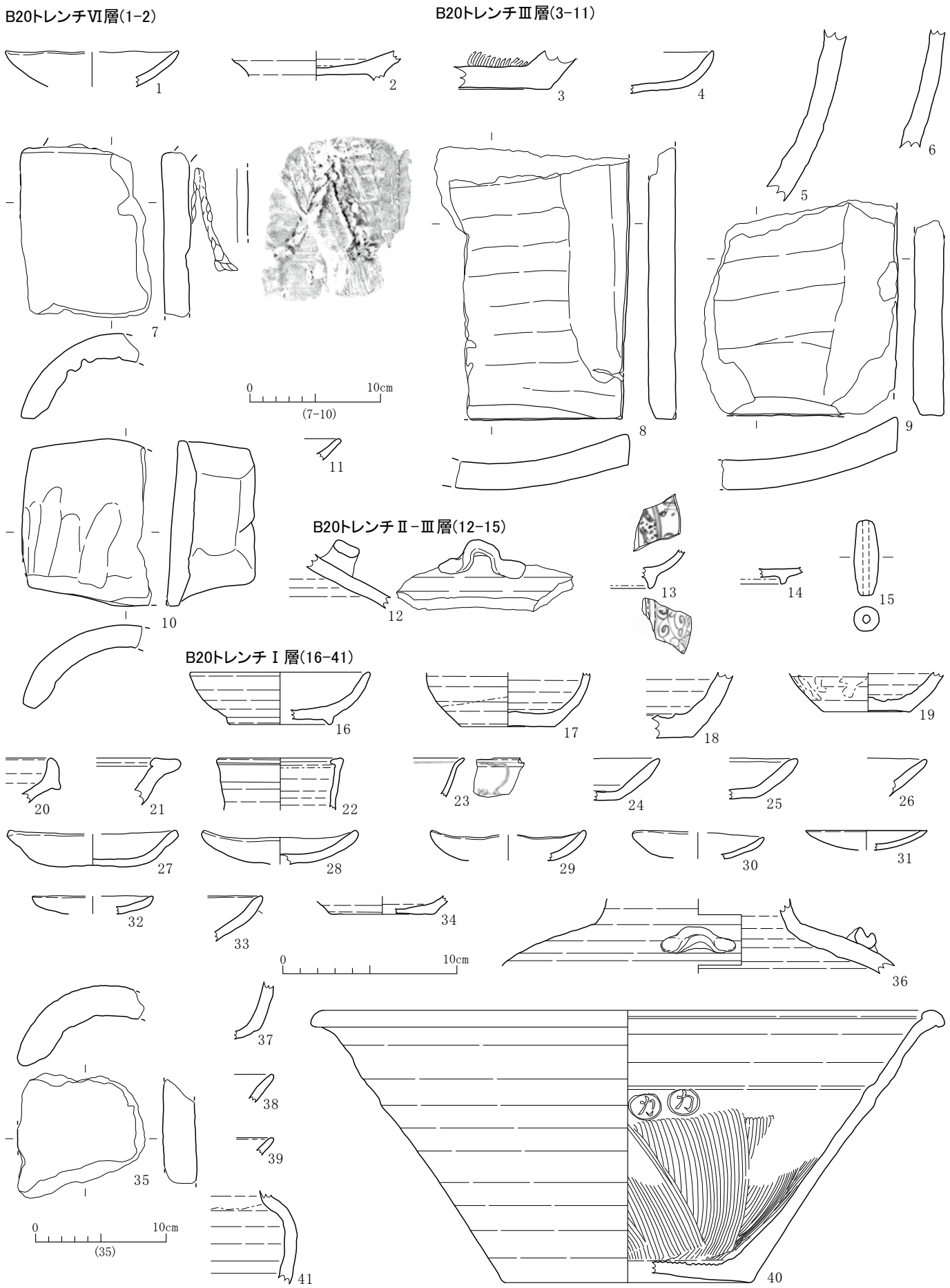
７．Ｆ４トレンチ

242～246はⅤ層から出土した。242・243は大窯製品で、242は第１段階の端反皿、243は第１～２段階の端反皿もしくは丸皿の底部である。244～246は土師器皿で、244はＢ２-c類、245はＢ２類、246はＣ２類である。247はⅤ層上面から掘り込まれるピットから出土した土師器皿で、分類は難しい。

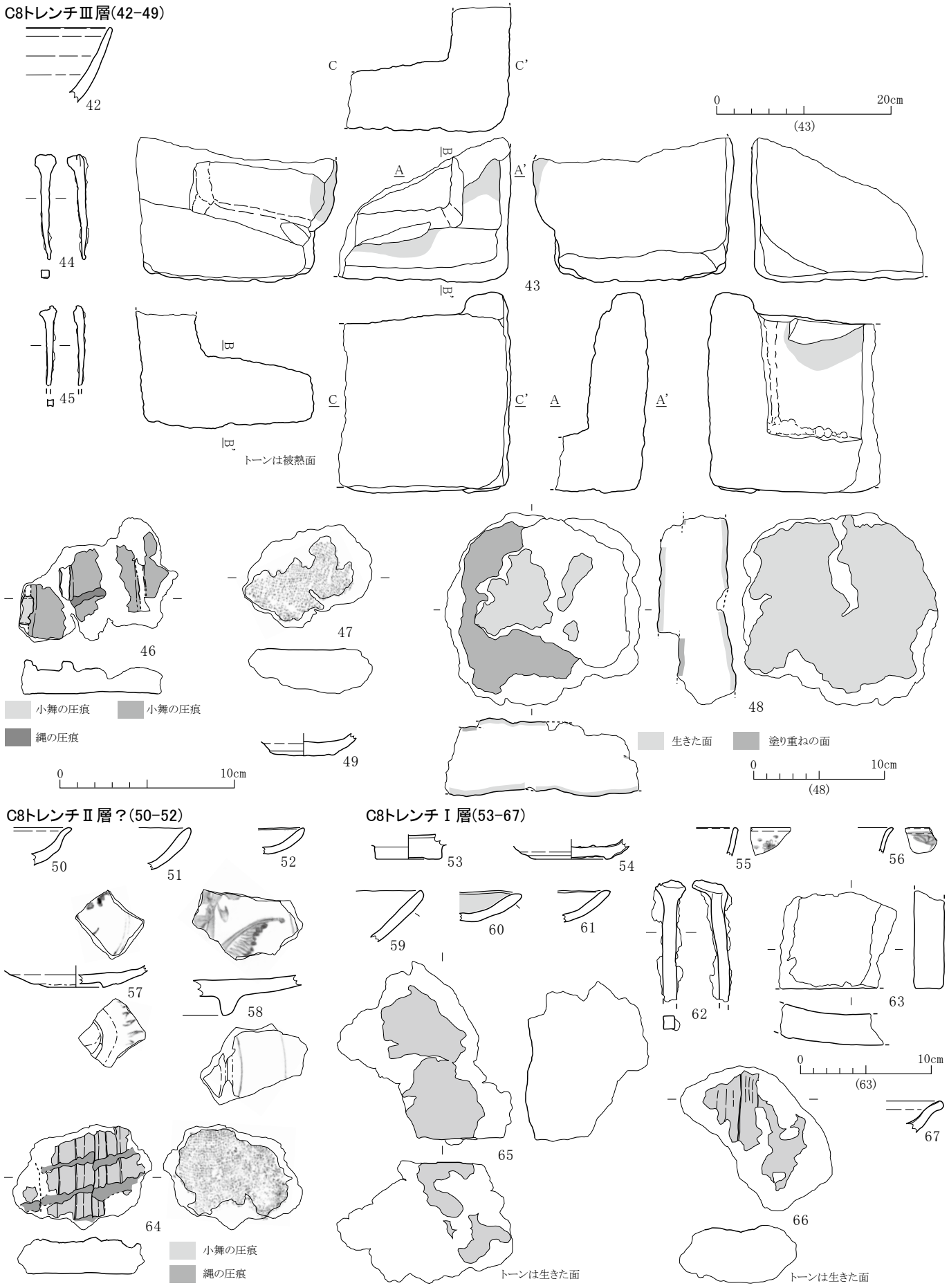
248～254はⅣ層から出土した。248・249は大窯製品で、248は第３段階前半の天目茶碗、249は第２段階の鉄釉の稜皿である。250～253は土師器皿で、250はＢ１類とみられるもの、251はＢ２-a類、252・253はＣ２類である。254は碁石（黒）とみられる。

255～271はⅢ層から出土した。255～259は大窯製品で、255～257は第２段階の丸皿、258は第３～４段階の擂鉢、259は祖母懐壺とみられる。260は染付皿Ｃ群、261・262は白磁皿、263～267は土師器皿で、263はＢ２-c類、264～267はＣ２類に分類される。261は二次被熱している。268は鉄釘、269は銭貨であるが、字款は判読できない。270は古瀬戸後Ⅳ期の鉄釉の仏餉具、271は近世と見られる灰釉の丸皿である。

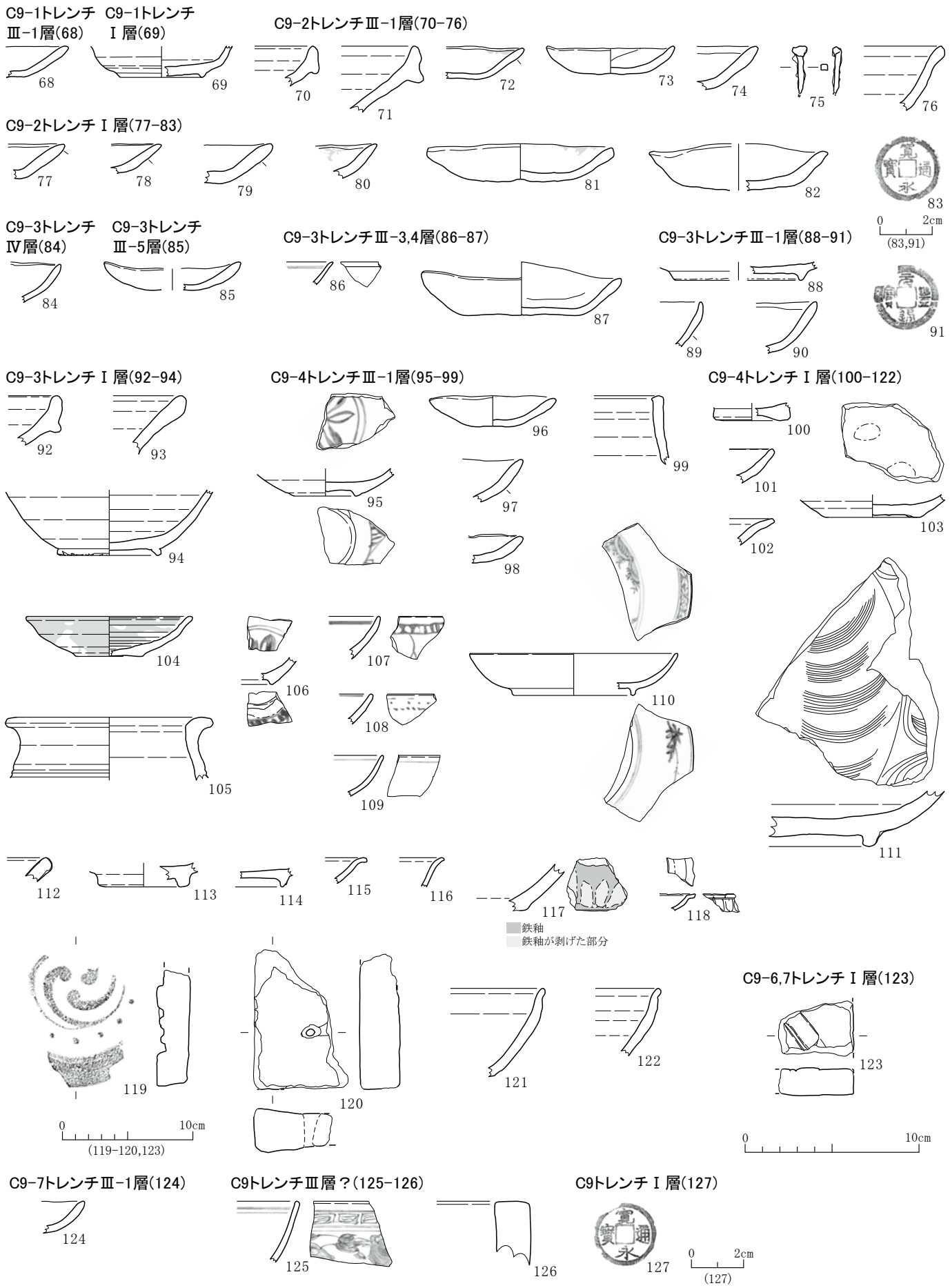
272～288はⅠ層から出土した。272～280は大窯製品で、272は第３段階前半の天目茶碗、273は第３段階の天目茶碗、274・275は第２段階の丸皿、276は第３段階前半の丸皿、277は第２段階の灯明皿、278・279は第１～３段階の灰釉の筒形香炉、280は錆釉が施された第３段階前半の建水である。273は二次被熱している。281は染付碗、282は染付皿Ｃ群、283は白磁皿、284～287は土師器皿で、284～286はＣ２類、287はＢ２-c類に分類される。283は二次被熱している。288は尾張型山茶碗の皿で５型式（古）である。


B20トレンチⅥ層(1-2)
B20トレンチⅢ層(3-11)
B20トレンチⅡ-Ⅲ層(12-15)
B20トレンチⅠ層(16-41)
0
10cm
(7-10)
(35)
カ
カ

第 27 図　遺物実測図（1）

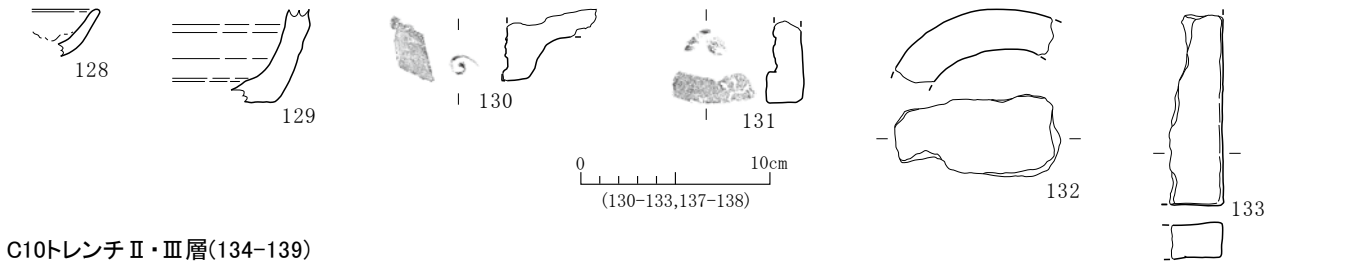

C8トレンチⅢ層(42-49)
42
C
C'
0
20cm
(43)
44
A
A'
B
B'
43
45
C
C'
A
A'
トーンは被熱面
46
47
48
49
小舞の圧痕
小舞の圧痕
縄の圧痕
生きた面
塗り重ねの面
0
10cm
(48)
C8トレンチⅡ層？(50-52)
C8トレンチⅠ層(53-67)
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
0
10cm
(63)
64
65
66
67
小舞の圧痕
縄の圧痕
トーンは生きた面
トーンは生きた面

第 28 図　遺物実測図（２）

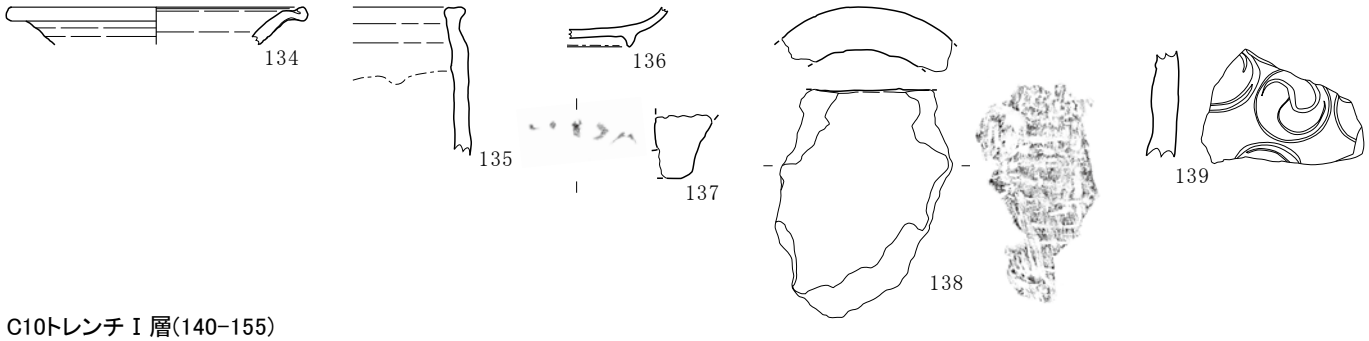

C9-1トレンチ Ⅲ-1層(68)
C9-1トレンチ Ⅰ層(69)
C9-2トレンチⅢ-1層(70-76)
C9-2トレンチⅠ層(77-83)
C9-3トレンチ Ⅳ層(84)
C9-3トレンチ Ⅲ-5層(85)
C9-3トレンチⅢ-3,4層(86-87)
C9-3トレンチⅢ-1層(88-91)
C9-3トレンチⅠ層(92-94)
C9-4トレンチⅢ-1層(95-99)
C9-4トレンチⅠ層(100-122)
鉄釉
鉄釉が剥げた部分
C9-6,7トレンチⅠ層(123)
C9-7トレンチⅢ-1層(124)
C9トレンチⅢ層？(125-126)
C9トレンチⅠ層(127)

第29図　遺物実測図（３）

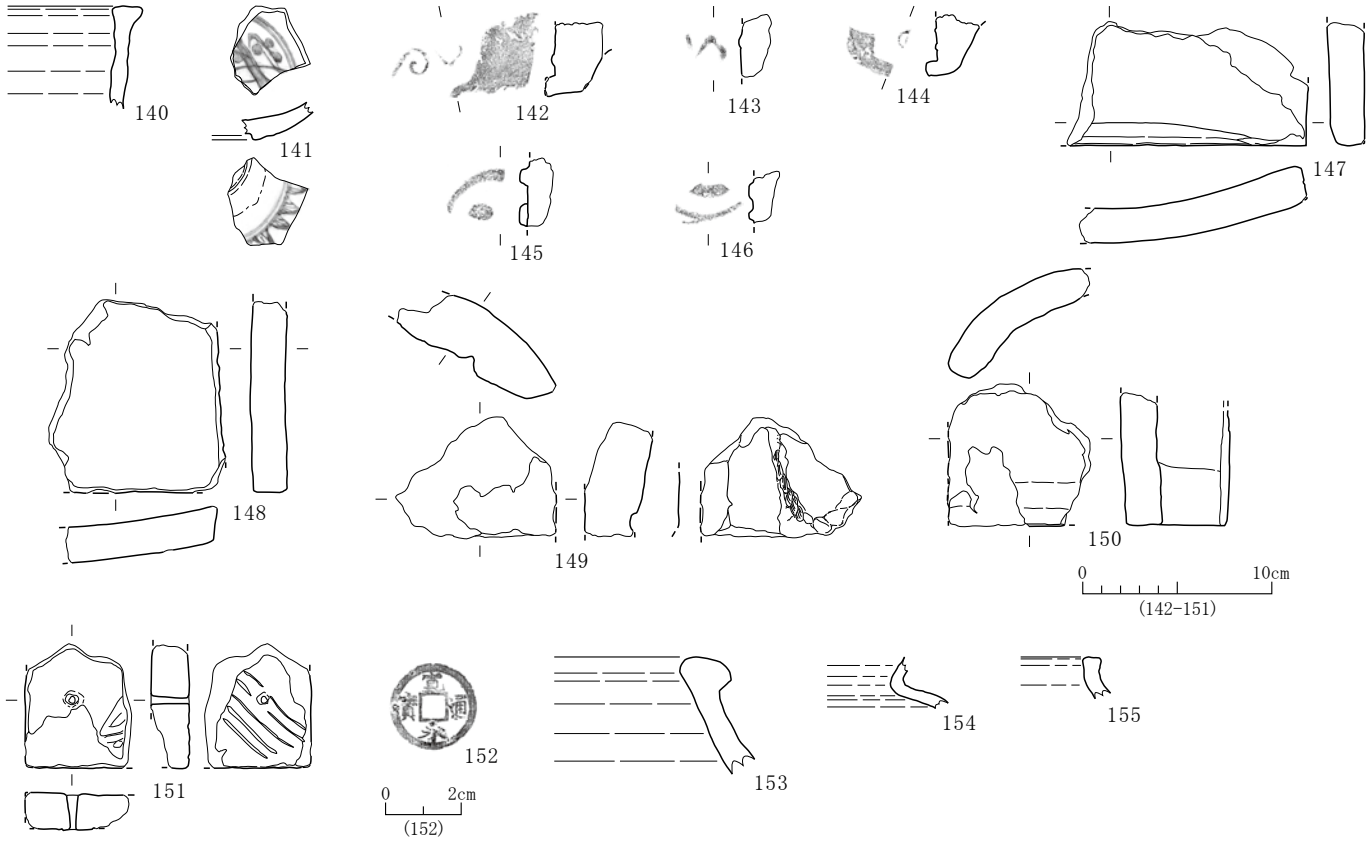
C10トレンチⅢ層(128-133)



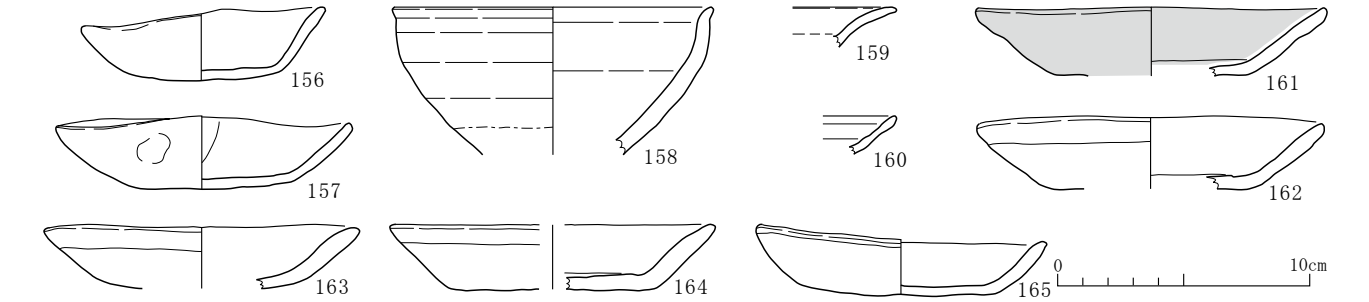
C10トレンチⅡ・Ⅲ層(134-139)



C10トレンチⅠ層(140-155)

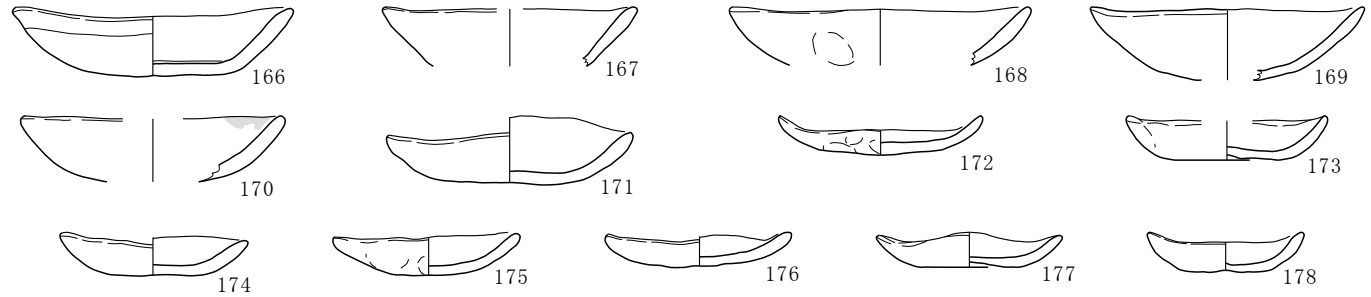


C11トレンチⅣ層(156-157)　C11トレンチⅢ層(158-165)

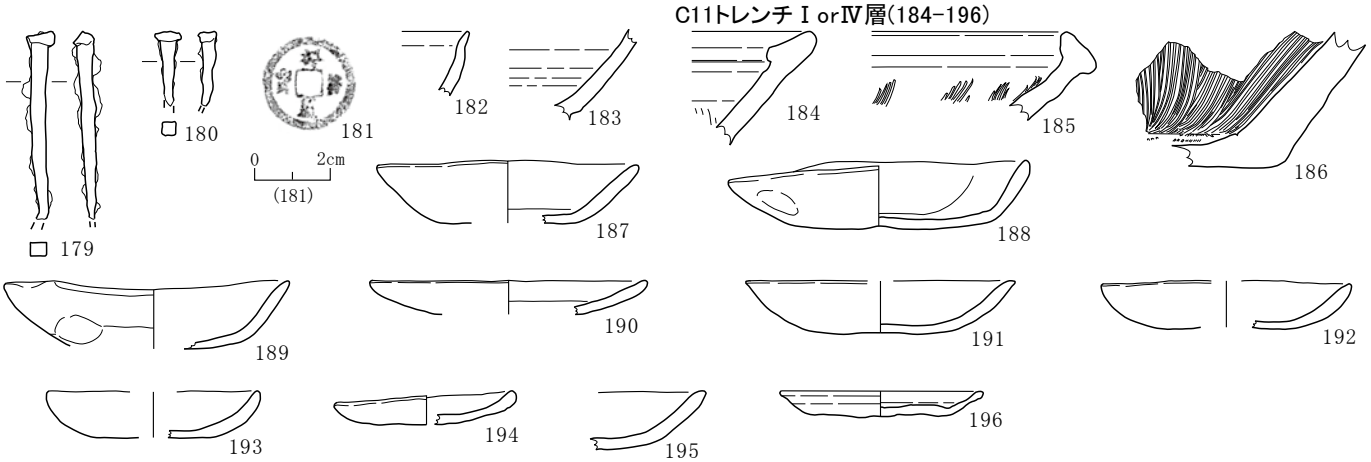


第30図　遺物実測図（4）

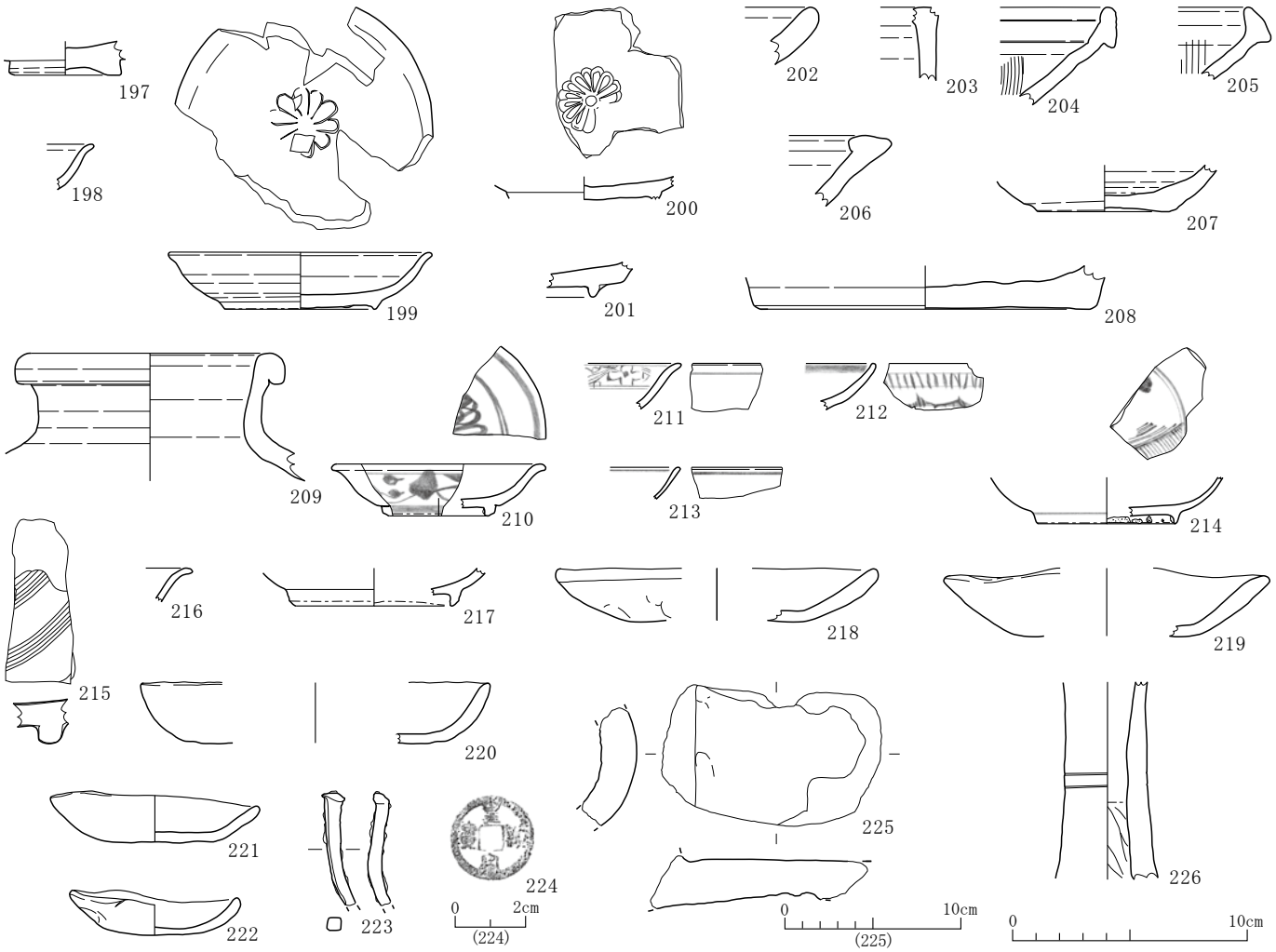
C11トレンチⅢ層(166-183)



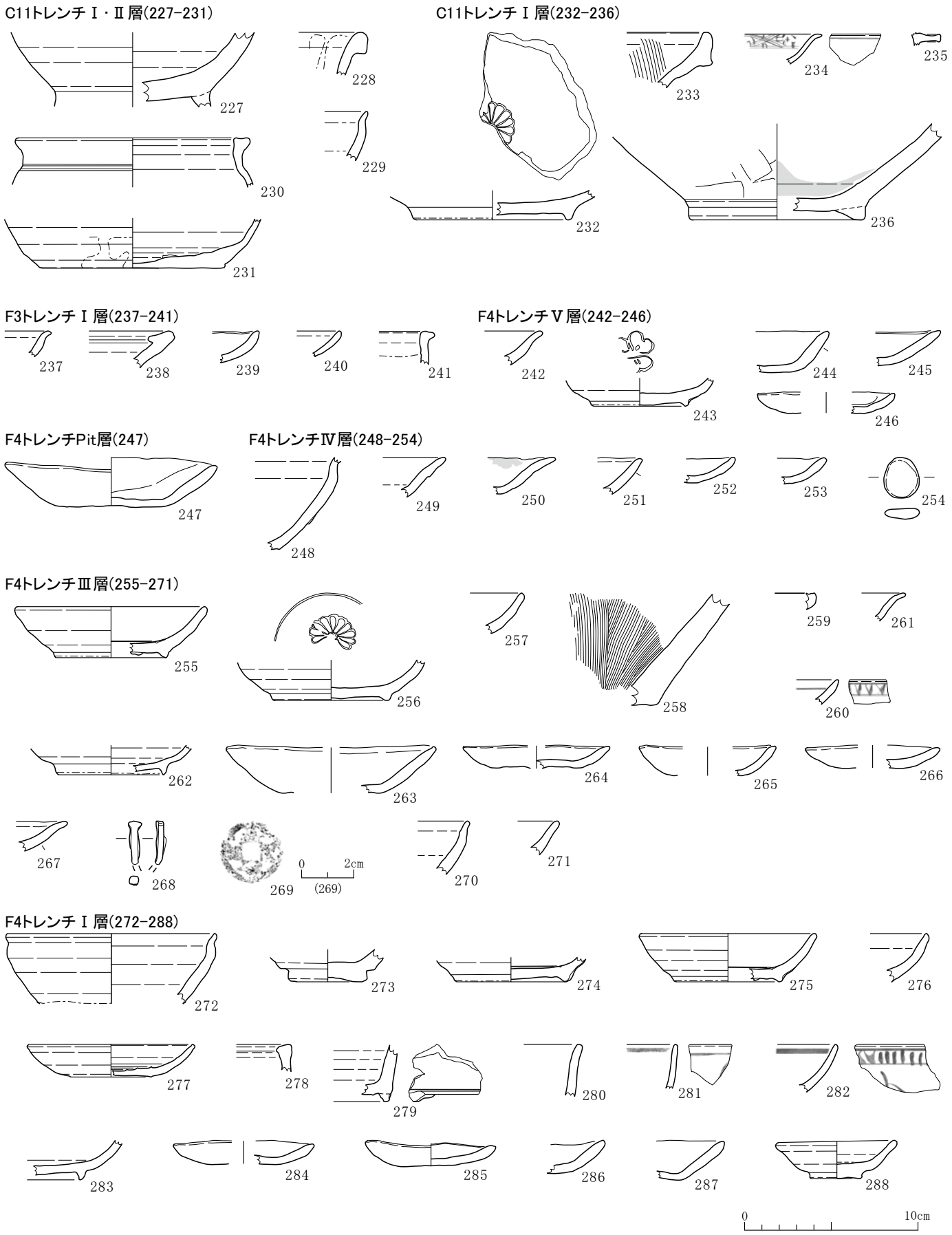
C11トレンチⅠorⅣ層(184-196)



C11トレンチⅠ・Ⅱ層(197-226)



第 31 図　遺物実測図（５）


C11トレンチⅠ・Ⅱ層(227-231)
C11トレンチⅠ層(232-236)
F3トレンチⅠ層(237-241)
F4トレンチⅤ層(242-246)
F4トレンチPit層(247)
F4トレンチⅣ層(248-254)
F4トレンチⅢ層(255-271)
F4トレンチⅠ層(272-288)
0 2cm
(269)
0 10cm

第 32 図　遺物実測図（6）

掲載番号	トレンチ	層位	種類	器種	分類	口径	器高	底径	その他法量	内面	外面	備考
1	B20	Ⅵ	土師器皿	皿	C2類	(9.8)	－	－		一方向ナデ	－	
2	B20	Ⅵ	土師器	不明	－	－	－	－		－	－	高台付かわらけ？ロクロ
3	B20	Ⅲ	陶器(大窯)	擂鉢	第3～4段階	－	－	－		錆釉	錆釉	内面使用痕
4	B20	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	
5	B20	Ⅲ	陶器(常滑)	甕	－	－	－	－		－	－	
6	B20	Ⅲ	陶器(常滑)	甕	－	－	－	－		－	－	
7	B20	Ⅲ	瓦	丸瓦	－	－	－	－	厚さ2.1			吊紐痕
8	B20	Ⅲ	瓦	平瓦	－	－	－	－	厚さ2.1			
9	B20	Ⅲ	瓦	平瓦	－	－	－	－	厚さ2.3			
10	B20	Ⅲ	瓦	輪違瓦	－	－	－	－	長さ12.8・厚さ1.7			
11	B20	Ⅲ	陶器(連房)	丸皿	近世	－	－	－		灰釉	灰釉	
12	B20	Ⅱ-Ⅲ	陶器(大窯)	祖母懐壺	大窯	－	－	－		無釉	錆釉	焼締
13	B20	Ⅱ-Ⅲ	磁器(中国)	染付碗		－	－	－				
14	B20	Ⅱ-Ⅲ	磁器(中国)	白磁皿	C群	－	－	－		－	－	
15	B20	Ⅱ-Ⅲ	土製品	土錘	－	－	－	－	長さ4.3・径1.4	－	－	
16	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第3段階	10.2	3.0	5.6		灰釉	灰釉	二次被熱
17	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	耳付水注	第1～2段階	－	－	(5.4)		鉄釉	鉄釉＋薄い錆釉	
18	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	壺	第3～4段階	－	－	－		錆釉	鉄釉	
19	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	小壺or小瓶	第3～4段階	－	－	(4.8)		鉄釉	濃い錆釉	
20	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	－	－	－		錆釉	錆釉	
21	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	－	－	－		錆釉	錆釉	
22	B20	Ⅰ	陶器(大窯)	筒形香炉	第1段階	(7.0)	－	－		灰釉	灰釉	
23	B20	Ⅰ	磁器(中国)	染付小杯	－	－	－	－				
24	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	B2類	－	－	－		ヨコナデ	－	
25	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	B2類	－	－	－		ヨコナデ	－	
26	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	B類？	－	－	－		ヨコナデ？	－	
27	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	(9.4)	2.0	－		一方向ナデ	－	
28	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	(8.6)	－	－		一方向ナデ	－	
29	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	(8.6)	－	－		一方向ナデ	－	
30	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	7.4	－	－		一方向ナデ	－	
31	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	6.8	－	－		一方向ナデ	－	
32	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	(6.6)	－	－		一方向ナデ	－	
33	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	
34	B20	Ⅰ	土師器皿	皿	ロクロ	－	－	(5.8)		－	－	
35	B20	Ⅰ	瓦	丸瓦	－	－	－	－	厚さ2.5			
36	B20	Ⅰ	陶器(古瀬戸)	四耳壺	後Ⅳ期	－	－	－		鉄釉	鉄釉	
37	B20	Ⅰ	陶器(連房)	碗	近世	－	－	－		鉄釉	鉄釉＋露胎	
38	B20	Ⅰ	陶器(連房)	皿	近世	－	－	－		灰釉	灰釉	
39	B20	Ⅰ	陶器(連房)	皿	近世	－	－	－		灰釉	灰釉	
40	B20	Ⅰ	陶器(連房)	擂鉢	第11小期	(35.0)	15.6	(14.2)		錆釉	錆釉	
41	B20	Ⅰ	陶器(不明)	壺	大窯以降	－	－	－		鉄釉	無釉	
42	C8	Ⅲ	陶器(朝鮮？)	碗		－	－	－		不明	不明	二次被熱
43	C8	Ⅲ	石製品	手水鉢	－	－	－	－		－	－	花崗岩製
44	C8	Ⅲ	鉄製品	釘	－	－	－	－	長さ6.0・幅0.5	－	－	
45	C8	Ⅲ	鉄製品	釘	－	－	－	－	残長4.3・幅0.4	－	－	
46	C8	Ⅲ	壁土		－	－	－	－		－	－	小舞2重に残存・板4,竹1
47	C8	Ⅲ	壁土		－	－	－	－		－	－	布目残存
48	C8	Ⅲ	壁土		－	－	－	－	厚さ6.0	－	－	2回に分けて塗り
49	C8	Ⅲ	山茶碗(尾張型)	皿	5型式	－	－	3.4		－	－	
50	C8	Ⅱ？	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	－	－	－		灰釉	灰釉	
51	C8	Ⅱ？	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	
52	C8	Ⅱ？	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	タール痕
53	C8	Ⅰ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階	－	－	3.5		鉄釉	鉄釉＋露胎	内反高台
54	C8	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第2～3段階	－	－	(4.0)		灰釉	灰釉	強い二次被熱
55	C8	Ⅰ	磁器(中国)	染付碗		－	－	－				二次被熱
56	C8	Ⅰ	磁器(中国)	染付小杯	－	－	－	－				
57	C8	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	C群	－	－	(3.2)				
58	C8	Ⅰ	磁器(中国)	染付大皿	－	－	－	－				
59	C8	Ⅰ	土師器皿	皿	B2-b類	－	－	－		ヨコナデ	－	
60	C8	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	タール痕
61	C8	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	
62	C8	Ⅰ	鉄製品	釘	－	－	－	－	残長7.0・幅0.7	－	－	
63	C8	Ⅰ	瓦	平瓦	－	－	－	－	厚さ2.3			
64	C8	Ⅰ	壁土		－	－	－	－		－	－	布目残存・縄を巻いた板材？痕残存
65	C8	Ⅰ	壁土		－	－	－	－		－	－	
66	C8	Ⅰ	壁土		－	－	－	－		－	－	板の圧痕残存
67	C8	Ⅰ	陶器(古瀬戸)	腰折皿	後Ⅳ期新	－	－	－		灰釉	灰釉	
68	C9-1	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	B2類	－	－	－		ヨコナデ	－	
69	C9-1	Ⅰ	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	－	－	4.7		灰釉	灰釉	
70	C9-2	Ⅲ(-1)	陶器(大窯)	擂鉢	第2段階	－	－	－		錆釉	錆釉	
71	C9-2	Ⅲ(-1)	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	－	－	－		錆釉	錆釉	
72	C9-2	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	B2-c類	－	－	－		ヨコナデ	－	タール痕
73	C9-2	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	(7.2)	1.6	－		一方向ナデ	－	
74	C9-2	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	－	
75	C9-2	Ⅲ(-1)	鉄製品	釘	－	－	－	－	残長2.8・幅0.4	－	－	
76	C9-2	Ⅲ(-1)	山茶碗(尾張型)	碗	6型式	－	－	－		－	－	
77	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	B2-b類	－	－	－		ヨコナデ	－	
78	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	B2-b類	－	－	－		ヨコナデ	－	

第３表　遺物観察表（１）

掲載番号	トレンチ	層位	種類	器種	分類	口径	器高	底径	その他法量	内面	外面	備考
79	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	B2類	-	-	-		ヨコナデ	―	
80	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	-	-	-		一方向ナデ	―	タール痕
81	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類？	(10.4)	2.1	-		一方向ナデ？	―	
82	C9-2	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類？	(9.6)	2.4	-		一方向ナデ？	―	
83	C9-2	Ⅰ	銅製品	銭貨	寛永通寶	-	-	-	径2.5	―	―	
84	C9-3	Ⅳ	土師器皿	皿	？	-	-	-		不明	―	
85	C9-3	Ⅲ(-5)	土師器皿	皿	B2類？	(7.6)	1.6	-		ヨコナデ？	―	
86	C9-3	Ⅲ(-3,4)	磁器(中国)	染付皿	E群	-	-	-				
87	C9-3	Ⅲ(-3,4)	土師器皿	皿	B2-c類	(11.2)	2.5	-		ヨコナデ	―	
88	C9-3	Ⅲ(-1)	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	7.1		―	―	
89	C9-3	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	B2類？M類？	-	-	-		ヨコナデ	―	
90	C9-3	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	B2-c類	-	-	-		ヨコナデ	―	
91	C9-3	Ⅲ(-1)	銅製品	銭貨	元豊通寶	-	-	-	径2.5	―	―	
92	C9-3	Ⅰ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	-	-	-		錆釉	錆釉	
93	C9-3	Ⅰ	山茶碗(尾張型)	鉢	6型式	-	-	-		―	―	
94	C9-3	Ⅰ	山茶碗(東濃型)	碗	白土原	-	-	5.5		―	―	
95	C9-4	Ⅲ(-1)	磁器(中国)	染付皿	C群	-	-	3.6				
96	C9-4	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	(7.2)	1.8	-		一方向ナデ	―	
97	C9-4	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	-	-	-		一方向ナデ	―	
98	C9-4	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	-	-	-		一方向ナデ	―	
99	C9-4	Ⅲ(-1)	土師器	茶釜	―	-	-	-		―	―	内外面タール痕
100	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階	-	-	-		鉄釉	鉄釉＋薄い錆釉	内反高台
101	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
102	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	反り皿	第3段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
103	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	稜皿	第2段階	-	-	5.5		鉄釉	鉄釉	
104	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	灯明皿	第2段階	(9.4)	2.3	(3.8)		無釉	無釉	内外面タール痕
105	C9-4	Ⅰ	陶器(大窯)	祖母懐壺	大窯	(10.6)	-	-		鉄釉	鉄釉	
106	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	染付碗	C群	-	-	-				
107	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	C群	-	-	-				
108	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	C群	-	-	-				
109	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	E群	-	-	-				
110	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	E群	11.9	2.4	6.9				
111	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	青磁盤	16世紀代	-	-	-		―	―	龍泉窯・216と同一個体？
112	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	青磁盤	16世紀代	-	-	-		―	―	龍泉窯
113	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	青磁稜花皿	16世紀代	-	-	(5.0)		―	―	
114	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	-		―	―	
115	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	-		―	―	
116	C9-4	Ⅰ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	-		―	―	
117	C9-4	Ⅰ	陶器(中国)	天目茶碗		-	-	-		鉄釉	鉄釉・釉の剥ぎ取り	
118	C9-4	Ⅰ	陶器(中国)	小皿	16世紀代	-	-	-		鉛釉	鉛釉	
119	C9-4	Ⅰ	瓦	軒丸瓦	Ⅰ類	-	-	-	厚さ2.6			
120	C9-4	Ⅰ	瓦	棟飾瓦	―	-	-	-	厚さ3.1			
121	C9-4	Ⅰ	陶器(古瀬戸)	天目茶碗	後Ⅳ期新	-	-	4.0		鉄釉	鉄釉＋薄い錆釉	
122	C9-4	Ⅰ	陶器(古瀬戸)	天目茶碗	後Ⅳ期新	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
123	C9-6,7	Ⅰ	瓦	棟飾瓦？	―	-	-	-				
124	C9-7	Ⅲ(-1)	土師器皿	皿	C2類	-	-	-		一方向ナデ	―	
125	C9	Ⅲ?	磁器(中国)	染付碗		-	-	-				
126	C9	Ⅲ?	瓦器	火鉢	―	-	-	-		―	―	
127	C9	Ⅰ	銅製品	銭貨	寛永通寶	-	-	-	径2.4	―	―	
128	C10	Ⅲ	陶器(大窯)	丸皿	第3段階	-	-	-		口縁部鉄釉	口縁部鉄釉	
129	C10	Ⅲ	陶器(大窯)	徳利	第2～3段階	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
130	C10	Ⅲ	瓦	軒平瓦	C類	-	-	-				
131	C10	Ⅲ	瓦	軒丸瓦	Ⅰ類	-	-	-				
132	C10	Ⅲ	瓦	丸瓦	―	-	-	-	厚さ2.1			コビキB
133	C10	Ⅲ	瓦	棟飾瓦	―	-	-	-	厚さ1.9			
134	C10	Ⅱ・Ⅲ	陶器(大窯)	折縁皿	第4段階前半	(11.5)	-	-		灰釉	灰釉	
135	C10	Ⅱ・Ⅲ	陶器(大窯)	壺	第3段階	-	-	-		上半錆釉	錆釉	
136	C10	Ⅱ・Ⅲ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	-		―	―	
137	C10	Ⅱ・Ⅲ	瓦	軒平瓦	A類	-	-	-				
138	C10	Ⅱ・Ⅲ	瓦	丸瓦	―	-	-	-	厚さ2.3			
139	C10	Ⅱ・Ⅲ	陶器(古瀬戸)	瓶子	中Ⅰ～Ⅱ期	-	-	-		―	灰釉	
140	C10	Ⅰ	陶器(大窯)	筒形容器	第3～4段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
141	C10	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	E群	-	-	-				
142	C10	Ⅰ	瓦	軒平瓦	A類	-	-	-				
143	C10	Ⅰ	瓦	軒平瓦	A類	-	-	-				二次被熱
144	C10	Ⅰ	瓦	軒平瓦	C類	-	-	-				
145	C10	Ⅰ	瓦	軒丸瓦	Ⅰ類	-	-	-				二次被熱
146	C10	Ⅰ	瓦	軒丸瓦	Ⅰ類	-	-	-				二次被熱
147	C10	Ⅰ	瓦	平瓦	―	-	-	-	厚さ1.8			端部面取り
148	C10	Ⅰ	瓦	平瓦	―	-	-	-	厚さ1.8			
149	C10	Ⅰ	瓦	丸瓦	―	-	-	-	厚さ2.8			
150	C10	Ⅰ	瓦	丸瓦	―	-	-	-	厚さ2.0			
151	C10	Ⅰ	瓦	棟飾瓦？	―	-	-	-	厚さ2.0			
152	C10	Ⅰ	銅製品	銭貨	寛永通寶	-	-	-	径2.3	―	―	
153	C10	Ⅰ	陶器(古瀬戸)	祖母懐壺	後期	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
154	C10	Ⅰ	陶器(連房)	徳利	近世後期	-	-	-		灰釉	灰釉	
155	C10	Ⅰ	陶器(連房)	壺	近世後期	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
156	C11	Ⅳ	土師器皿	皿	B2-c類	9.4	2.7	-		ヨコナデ	―	

第４表　遺物観察表（２）

掲載番号	トレンチ	層位	種類	器種	分類	口径	器高	底径	その他法量	内面	外面	備考
157	C11	Ⅳ	土師器皿	皿	B2-c類	11.6	2.8	-		ヨコナデ	—	
158	C11	Ⅲ	陶器(大窯)	天目茶碗	第1段階	(12.6)	-	-		鉄釉	鉄釉＋濃い錆釉	二次被熱
159	C11	Ⅲ	陶器(大窯)	反り皿	第1段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
160	C11	Ⅲ	陶器(大窯)	灯明皿	第2段階	-	-	-		無釉	無釉	
161	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-b類	(13.7)	2.7	-		ヨコナデ	—	内外面全面タール痕
162	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-b類	(13.6)	2.8	-		ヨコナデ	—	
163	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-b類	(12.2)	-	-		ヨコナデ	—	
164	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-c類	(12.4)	2.6	-		ヨコナデ	—	
165	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-c類	11.2	2.5	-		ヨコナデ	—	
166	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-c類	10.8	2.5	-		ヨコナデ	—	
167	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-c類	(10.0)	-	-		ヨコナデ	—	
168	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	B2類？	(11.6)	-	-		ヨコナデ？	—	
169	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	10.8	-	-		一方向ナデ	—	
170	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(10.2)	-	-		一方向ナデ	—	
171	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	9.6	2.3	-		一方向ナデ	—	
172	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(7.8)	1.3	-		一方向ナデ	—	
173	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(7.8)	-	-		一方向ナデ	—	
174	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	7.4	1.6	-		一方向ナデ	—	
175	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	7.2	1.5	-		一方向ナデ	—	
176	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	7.2	1.2	-		一方向ナデ	—	
177	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(7.2)	1.2	-		一方向ナデ	—	
178	C11	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(6.0)	1.4	-		一方向ナデ	—	
179	C11	Ⅲ	鉄製品	釘	—	-	-	-	残長7.4・幅0.6	—	—	
180	C11	Ⅲ	鉄製品	釘	—	-	-	-	残長2.5・幅0.6	—	—	
181	C11	Ⅲ	銅製品	銭貨	祥符通寶	-	-	-	径2.5	—	—	
182	C11	Ⅲ	陶器(古瀬戸)	天目茶碗	後Ⅳ期新	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
183	C11	Ⅲ	陶器(不明)	碗	不明	-	-	-		—	—	黄瀬戸釉か？
184	C11	Ⅰ orⅣ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	-	-	-		錆釉	錆釉	
185	C11	Ⅰ orⅣ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
186	C11	Ⅰ orⅣ	陶器(大窯)	擂鉢	第3～4段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
187	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	B2-c類	(10.4)	2.5	-		ヨコナデ	—	
188	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	B2-c類	11.8	2.4	-		ヨコナデ	—	
189	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	B2-c類	(11.2)	-	-		ヨコナデ	—	
190	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	B2類	10.8	-	-		ヨコナデ	—	
191	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	B2類	(10.4)	2.1	-		ヨコナデ	—	
192	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	C2類	(9.8)	1.8	-		一方向ナデ	—	
193	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	C2類	(8.5)	1.9	-		一方向ナデ	—	
194	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	C2類	7.0	1.1	-		一方向ナデ	—	
195	C11	Ⅰ orⅣ	土師器皿	皿	C2類	-	-	-		一方向ナデ	—	
196	C11	Ⅰ orⅣ	山茶碗(東濃型)	皿	明和	7.9	1.1	5.2		—	—	
197	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階後半	-	-	4.5		鉄釉	鉄釉＋濃い錆釉	内反高台
198	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
199	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	11.1	2.4	6.4		灰釉	灰釉	
200	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	端反皿or丸皿	第1～2段階	-	-	-		灰釉	灰釉	二次被熱
201	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	反り皿	第2～3段階	-	-	-		灰釉	灰釉	
202	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	大皿	第4段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
203	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯？)	筒形容器	大窯？	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
204	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	擂鉢	第2段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
205	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	擂鉢	第2段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
206	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	擂鉢	第2段階	-	-	-		錆釉	錆釉	
207	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	小壺or小瓶	第1～2段階	-	-	5.6		鉄釉	鉄釉	
208	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	徳利	第2～3段階	-	-	(14.0)		鉄釉	鉄釉	
209	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(大窯)	祖母懐壺	大窯	(10.2)	-	-		鉄釉	鉄釉	
210	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	染付皿	B1群	(8.6)	2.2	(4.2)				二次被熱
211	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	染付皿	B2群	-	-	-				
212	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	染付皿	C群	-	-	-				
213	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	染付皿	E群	-	-	-				
214	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	染付皿	—	-	-	(5.8)				二次被熱
215	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	青磁盤	16世紀代	-	-	-		—	—	龍泉窯・111と同一個体？
216	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	-		—	—	
217	C11	Ⅰ・Ⅱ	磁器(中国)	白磁皿	C群	-	-	(6.6)		—	—	
218	C11	Ⅰ・Ⅱ	土師器皿	皿	B2-b類	(13.4)	-	-		ヨコナデ	—	
219	C11	Ⅰ・Ⅱ	土師器皿	皿	B2-b類	(13.4)	-	-		ヨコナデ	—	
220	C11	Ⅰ・Ⅱ	土師器皿	皿	C2類	(14.6)	-	-		一方向ナデ	—	
221	C11	Ⅰ・Ⅱ	土師器皿	皿	C2類	8.7	1.9	-		一方向ナデ	—	
222	C11	Ⅰ・Ⅱ	土師器皿	皿	C2類	7.0	1.6	-		一方向ナデ	—	
223	C11	Ⅰ・Ⅱ	鉄製品	釘	—	-	-	-	残長4.8・幅0.6	—	—	
224	C11	Ⅰ・Ⅱ	銅製品	銭貨	皇宋通寶	-	-	-	径2.4	—	—	
225	C11	Ⅰ・Ⅱ	瓦	丸瓦	—	-	-	-	厚さ2.0			
226	C11	Ⅰ・Ⅱ	須恵器	長頸瓶		-	-	-		—	—	
227	C11	Ⅰ・Ⅱ	山茶碗(美濃須衛)	片口鉢	5型式併行	-	-	-		無釉	錆釉	
228	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(古瀬戸)	四耳壺	中Ⅰ～Ⅱ期	-	-	-		口縁部灰釉	灰釉	
229	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(古瀬戸)	天目茶碗	後Ⅳ期新	-	-	-		鉄釉	鉄釉	
230	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(古瀬戸)	口広有耳壺	後Ⅳ期	(13.0)	-	-		鉄釉	鉄釉	
231	C11	Ⅰ・Ⅱ	陶器(古瀬戸)	口広有耳壺	後Ⅳ期	-	-	10.6		鉄釉	鉄釉・腰部以下露胎	
232	C11	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第2～3段階	-	-	(8.6)		緑釉	緑釉(高台内無釉)	中皿
233	C11	Ⅰ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階前半	-	-	-		錆釉	錆釉	
234	C11	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	B2群	-	-	-				

第５表　遺物観察表（３）

掲載番号	トレンチ	層位	種類	器種	分類	口径	器高	底径	その他法量	内面	外面	備考
235	C11	Ⅰ	土師器	羽釜	―	－	－	－		―	―	
236	C11	Ⅰ	山茶碗(尾張型)	片口鉢	10型式	－	－	(9.8)		―	―	
237	F3	Ⅰ	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	－	－	－		灰釉	灰釉	
238	F3	Ⅰ	陶器(大窯)	擂鉢	第3段階後半	－	－	－		錆釉	錆釉	
239	F3	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	―	
240	F3	Ⅰ	陶器(連房)	灯明皿	第8～9小期	－	－	－		鉄釉	口縁部鉄釉	
241	F3	Ⅰ	陶器(瀬戸美濃)	不明	近世？	－	－	－		鉄釉	鉄釉	
242	F4	Ⅴ	陶器(大窯)	端反皿	第1段階	－	－	－		灰釉	灰釉	
243	F4	Ⅴ	陶器(大窯)	端反皿or丸皿	第1～2段階	－	－	(5.2)		灰釉	灰釉(高台内無釉)	
244	F4	Ⅴ	土師器皿	皿	B2-c類	－	－	－		ヨコナデ	―	タール痕
245	F4	Ⅴ	土師器皿	皿	B2類	－	－	－		ヨコナデ	―	
246	F4	Ⅴ	土師器皿	皿	C2類	(7.8)	－	－		一方向ナデ	―	
247	F4	Pit	土師器皿	皿	B2-b類orC類	12.0	2.6	－		不明	―	
248	F4	Ⅳ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階前半	－	－	－		鉄釉	鉄釉＋薄い錆釉	
249	F4	Ⅳ	陶器(大窯)	稜皿	第2段階	－	－	－		鉄釉	鉄釉	
250	F4	Ⅳ	土師器皿	皿	B1類？	－	－	－		ヨコナデ	―	タール痕
251	F4	Ⅳ	土師器皿	皿	B2-a類	－	－	－		ヨコナデ	口縁部ヨコナデ	
252	F4	Ⅳ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	―	
253	F4	Ⅳ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	―	
254	F4	Ⅳ	石製品	碁石	―	－	－	－		―	―	黒？
255	F4	Ⅲ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	(10.8)	2.9	(6.4)		灰釉	灰釉	
256	F4	Ⅲ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	－	－	6.5		灰釉	灰釉	
257	F4	Ⅲ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	－	－	－		灰釉	灰釉	
258	F4	Ⅲ	陶器(大窯)	擂鉢	第3～4段階	－	－	－		錆釉	錆釉	
259	F4	Ⅲ	陶器(大窯？)	祖母懐壺？	大窯？	－	－	－		無釉	鉄釉	
260	F4	Ⅲ	磁器(中国)	染付皿	C群	－	－	－				
261	F4	Ⅲ	磁器(中国)	白磁皿	C群	－	－	－		―	―	二次被熱
262	F4	Ⅲ	磁器(中国)	白磁皿	C群	－	－	(6.0)		―	―	
263	F4	Ⅲ	土師器皿	皿	B2-c類	(11.8)	－	－		ヨコナデ	―	
264	F4	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(8.2)	1.3	－		一方向ナデ	―	
265	F4	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(7.8)	－	－		一方向ナデ	―	
266	F4	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	(7.6)	1.3	－		一方向ナデ	―	
267	F4	Ⅲ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	―	
268	F4	Ⅲ	鉄製品	釘	―	－	－	－	残長2.5・幅0.5	―	―	
269	F4	Ⅲ	銅製品	銭貨	不明	－	－	－	径2.4	―	―	
270	F4	Ⅲ	陶器(古瀬戸)	仏餉具	後Ⅳ期	－	－	－		鉄釉	鉄釉	
271	F4	Ⅲ	陶器(連房？)	丸皿	近世？	－	－	－		灰釉	灰釉	
272	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階前半	12.0	－	－		鉄釉	鉄釉＋濃い錆釉	
273	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	天目茶碗	第3段階	－	－	(4.2)		鉄釉	鉄釉	二次被熱・内反高台
274	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	－	－	6.3		灰釉	灰釉	
275	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第2段階	(10.0)	2.8	(6.2)		灰釉	灰釉	
276	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	丸皿	第3段階前半	－	－	－		鉄釉	鉄釉	
277	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	灯明皿	第2段階	(9.4)	1.9	(4.6)		無釉	無釉	
278	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	筒形香炉	第1～3段階	－	－	－		灰釉	灰釉	
279	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	筒形香炉	第1～3段階	－	－	－		灰釉	灰釉	脚付
280	F4	Ⅰ	陶器(大窯)	建水	第3段階前半	－	－	－		錆釉	錆釉	
281	F4	Ⅰ	磁器(中国)	染付碗		－	－	－				
282	F4	Ⅰ	磁器(中国)	染付皿	C群	－	－	－				
283	F4	Ⅰ	磁器(中国)	白磁皿	C群	－	－	－		―	―	二次被熱
284	F4	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	(7.8)	1.3	－		一方向ナデ	―	
285	F4	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	7.1	1.4	－		一方向ナデ	―	
286	F4	Ⅰ	土師器皿	皿	C2類	－	－	－		一方向ナデ	―	
287	F4	Ⅰ	土師器皿	皿	B2-c類	－	－	－		ヨコナデ	―	
288	F4	Ⅰ	山茶碗(尾張型)	皿	5型式(古)	6.6	2.1	2.9		―	―	

第６表　遺物観察表（４）

トレンチ	遺構・層位	大窯製品	染付	青磁	白磁	中国製陶器	朝鮮製陶器	土師器皿	須恵器	灰釉陶器	山茶碗（尾張型）	山茶碗（東濃型）	古瀬戸製品	常滑産陶器	土師器	瓦器	鉄製品	銅製品	石製品	土製品	瓦	壁土	近世陶磁器	不明	合計
B20	Ⅰ	19	1					62					1	3	1		13				31	10	6		147
B20	Ⅱ・Ⅲ	1	1		1			5						1						1			4		14
B20	Ⅲ	2						4						4							24		1		35
B20	Ⅳ							1																1	2
C8	Ⅰ	12	4					22				1		1			2	1		1	1	1,100	1	2	1,148
C8	Ⅱ？	2						4									5					18	1		30
C8	Ⅲ		1					1			1						11	1	2			227			244
C9	Ⅰ	10			1			20					3		5			1			1	13	3	1	58
C9	Ⅲ-1							1																	1
C9	Ⅲ？		2													1									3
C9-1	Ⅰ	5	1	2	1			19	1				2								1	7	4		43
C9-1	Ⅲ-1	1						5																	6
C9-2	Ⅰ							87									12	1				32			132
C9-2	Ⅲ-1	3						20			1		4				4								32
C9-3	Ⅰ	6	1					116	2		3	10									5	6	2		151
C9-3	Ⅲ-1		1		2			27									1	2							33
C9-3	Ⅲ-3,4		1					11																	12
C9-3	Ⅲ-5							2																	2
C9-3	Ⅳ							4																	4
C9-4	Ⅰ	47	10	3	7	2		130					4	2	15						34	6	10		270
C9-4	Ⅲ-1	1	1	1				18					1				1				1	1		1	26
C9-5	Ⅰ							10									1				13				24
C9-5	Ⅰ・Ⅱ							1																	1
C9-5	Ⅲ-1																								0
C9-6,7	Ⅰ	1			1			9					1								1				13
C9-7	Ⅰ							5																	5
C9-7	Ⅲ-1							2																	2
C10	Ⅰ	23	12		4		1	29				1	3					1			338	2	24		438
C10	Ⅱ・Ⅲ	3	1		1			2					2								17	2	1		29
C10	Ⅲ	9						2					1								33				45
C11	Ⅰ	6	2					33			1	3		1	2		1						10		59
C11	Ⅰ・Ⅱ	70	16	2	6			573	1			7	11	2			5	2			8	3	26	1	733
C11	Ⅰ・Ⅳ	4						58				1													63
C11	Ⅲ	12			1			505					1	2			31	1			1		5		559
C11	Ⅳ							8																	8
F3	Ⅰ	9						45	1		1	2		1	4		6				3	1	14		87
F4	Ⅰ	26	6		2			72			1	3					1					2	7	2	122
F4	Ⅲ	24	2	2	4			66							2		1	2				1	3		107
F4	Ⅳ	8	1					29							7		1		1						47
F4	Ⅴ	4						26	1			1	1		3										36
F4	Pit							1																	1
合計		308	64	10	31	2	1	2,035	6	0	8	29	35	17	39	1	96	12	3	2	512	1,431	122	8	4,772

第７表　遺物集計表

第５章　自然科学分析

第１節　池泉遺構ＳＲ２・ＳＲ３の珪藻化石群集

藤根　久（パレオ･ラボ）

１．はじめに

Ｂ地区の池泉遺構ＳＲ２およびＣ地区の池泉遺構ＳＲ３の堆積物中の珪藻化石を調べ、堆積環境について検討した。なお、一部の試料については花粉分析も行われている（花粉分析の項を参照）。また、ＳＲ３から検出された炭化材については樹種同定が行われている（炭化材樹種同定の項を参照）。

２．試料と方法

試料は、ＳＲ２の堆積物２点とＳＲ３の堆積物31点である（第８表）。

分析No.	トレンチ	遺構	堆積物の特徴	分析No.	トレンチ	遺構	堆積物の特徴
1	Ｃ８	ＳＲ３	黒褐色（2.5Y3/1）礫混じり砂質粘土	18	Ｃ８	ＳＲ３	オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
2			オリーブ褐色（2.5Y4/6）礫混じり砂質粘土	19			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
3			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	20			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
4			黒褐色（2.5Y3/2）礫混じり砂質粘土	21			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
5			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	22			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
6			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	23			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
7			オリーブ褐色（2.5Y4/4）礫混じり砂質粘土	24			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘土質細砂
8			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	25			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
9			オリーブ褐色（2.5Y4/4）礫混じり砂質粘土	26			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
10			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	27			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
11			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘土質細砂	28			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
12			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり砂質粘土	29			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
13			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土	30			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）粘土質細砂
14			暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質粘土	31			オリーブ褐色（2.5Y4/4）礫混じり砂質粘土
15			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土	32	Ｂ20	ＳＲ２	オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質粘土
16			黒褐色（2.5Y3/2）礫混じり砂質粘土	33			オリーブ褐色（2.5Y4/4）砂質粘土
17			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土				

第８表　珪藻分析一覧

試料に対して以下の処理を行い、珪藻分析用プレパラートを作製した。

（１）各試料をビーカーに移して30％過酸化水素水を加え、加熱・反応させ、有機物の分解と粒子の分散を行った。（２）反応終了後、水を加え１時間程してから上澄み液を除去し、細粒のコロイドを捨てる。この作業を7回ほど繰り返した。（３）懸濁残渣を遠心管に回収し、マイクロピペットで適量取り、カバーガラスに滴下し乾燥させた。乾燥後は、マウントメディアで封入してプレパラートを作製した。プレパラートは生物顕微鏡を用いて600～1200倍で観察し、珪藻化石を同定・計数した。なお、珪藻化石が200個に達しない試料は、プレパラート全面を観察した。

３．珪藻化石の環境指標種群

珪藻化石の環境指標種群は、主に安藤（1990）が設定した環境指標種群に基づいた。なお、環境指標種群以外の珪藻種については、淡水種は広布種（W）として扱った。また、破片のため属レベルで同定した分類群は、その種群を不明（?）として扱った。以下に、安藤（1990）が設定した淡水域における環境指標種群の概要を示す。

［上流性河川指標種群（J）］：河川上流部の渓谷部に集中して出現する種群である。これらは、殻面全体で岩にぴったりと張り付いて生育しているため、流れによってはぎ取られてしまうことがない。

［中～下流性河川指標種群（K）］：河川の中～下流部、すなわち河川沿いで河成段丘、扇状地および自然堤防、後背湿地といった地形が見られる部分に集中して出現する種群である。これらの種に

は、柄またはさやで基物に付着し、体を水中に伸ばして生活する種が多い。
［最下流性河川指標種群（L）］：最下流部の三角州の部分に集中して出現する種群である。これらの種には、水中を浮遊しながら生育している種が多い。これは、河川が三角州地帯に入ると流速が遅くなり、浮遊生の種でも生育できるようになるためである。
［湖沼浮遊生指標種群（M）］：水深が約1.5m以上で、岸では水生植物が見られるが、水底には植物が生育していない湖沼に出現する種群である。
［湖沼沼沢湿地指標種群（N）］：湖沼における浮遊生種としても、沼沢湿地における付着生種としても優勢な出現が見られ、湖沼・沼沢湿地の環境を指標する可能性が大きい種群である。
［沼沢湿地付着生指標種群（O）］：水深１m内外で、一面に植物が繁殖している所および湿地において、付着の状態で優勢な出現が見られる種群である。
［高層湿原指標種群（P）］：尾瀬ヶ原湿原や霧ヶ峰湿原などのように、ミズゴケを主とした植物群落および泥炭層の発達が見られる場所に出現する種群である。
［陸域指標種群（Q）］：上述の水域に対して、陸域を生息地として生活している種群である（陸生珪藻と呼ばれている）。
４．珪藻化石の特徴と堆積環境
33試料から検出された珪藻化石は、海水種２分類群２属１種、淡水種116分類群28属97種３変種であった。これらの珪藻化石から、海水種において1環境指標種群（外洋指標種群（A））、淡水種において５環境指標種群（中～下流性河川指標種群（K）、湖沼浮遊生指標種群（M）、湖沼沼沢湿地指標種群（N）、沼沢湿地付着生指標種群（O）、陸域指標種群（Q））が認められた（第９～11表、第34図）。
以下に、各遺構堆積物中の珪藻化石群集の特徴について述べる。
［池泉遺構ＳＲ３］
検出された珪藻化石の完形殻の出現率は1.5～47.9％であるが、小型からなる陸域指標種群（Q）以外は、完形殻の半分以下の破片が多い。また、堆積物１ｇ中の珪藻殻数が少ない試料が多く、2.6×103～1.4×105個である。なお、No.４とNo.５では、珪藻化石が50個未満であった。
環境指標種群は、主に陸域指標種群（Q）が多く出現し、沼沢湿地付着生指標種群（O）を伴う。その他に、中～下流性河川指標種群（K）が検出された。
出現傾向は、分析No.１、No.３、No.６、No.16において陸域指標種群（Q）が50％を超えて検出され、No.２、No.８、No.11、No.13、No.20、No.23、No.24、No.30においても30％以上検出されている。これらの試料の多くは、遺構の縁辺部から採取されており（第33図）、遺構周辺部はジメジメとした陸域環境であったと推定される。
一方、No.20やNo.21およびNo.30では、中～下流性河川指標種群（K）がやや多く検出され、河川の流れ込みを伴う場所であったと考えられる。調査地区は西に開いた谷部であるが、遺構の南西側から流れ込みがあったと推定される。
全体的に、ジメジメとした陸域環境が優勢で、部分的に水域であったと考えられる。なお、池泉遺構ＳＲ２の説明で述べるように、陸域指標種群（Q）以外の珪藻化石は、Ｂ20トレンチの池泉遺構ＳＲ２から流入した珪藻化石と考えられ、当時の堆積環境としてはジメジメとした陸域環境がより優勢であった可能性が高い。
［池泉遺構ＳＲ２］
検出された珪藻化石の完形殻の出現率は15.7％および22.7％であるが、珪藻化石の遺存状態は非常に良い。また、堆積物１ｇ中の珪藻殻数は、2.2×105および8.3×105個と多い。

環境指標種群は、沼沢湿地付着生指標種群（O）が多く出現し、陸域指標種群（Q）を僅かに伴う。こうした特徴から、沼沢湿地環境であったと推定される。

このＳＲ２は、ＳＲ３の東側の石垣の一段上の平坦面に位置する遺構である。ＳＲ３で検出された陸域指標種群（Q）以外の珪藻化石は、属レベルにおいて共通しており、半分以下の珪藻殻が大半を占める点からも、ＳＲ２から流入した珪藻化石と考えられる。

５．おわりに

池泉遺構ＳＲ３およびＳＲ２の堆積物中の珪藻化石を調べた。その結果、ＳＲ３では、全体的にジメジメとした陸域環境が優勢で、部分的に水域であったと推定された。一方、東側の一段上の平坦面に位置するＳＲ２は、沼沢湿地環境であったと推定された。

なお、ＳＲ３で検出された陸域指標種群（Q）以外の珪藻化石は、ＳＲ２から流入した珪藻化石と考えられ、ＳＲ３は、ジメジメとした陸域環境がより優勢であった可能性が高い。

参考・引用文献

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用．東北地理，42，73-88.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復元への応用．第四紀研究，27，1-20.

第 33 図　分析土壌サンプル採取位置図

No.	分類群		種群	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
1	*Denticulopsis*	*spp.*	?			1										
2	*Thalassionema*	*nitzschioides*	A	1		1										
1	*Achnanthes*	*crenulata*	W	1		1	3	2	1	2	4		1	2	1	4
2	*A.*	*inflata*	W	1												
3	*A.*	spp.	?	2	1	1					1					
4	*Amphora*	*montana*	W										1			
5	*A.*	*ovalis*	W										1		1	
6	*Anomoeoneis*	*brachysira*	W													
7	*Aulacosira*	*ambigua*	N													
8	*A.*	*distans*	N													
9	*A.*	spp.	?			1				1	1					
10	*Caloneis*	*bacillum*	W		1	3									3	1
11	*C.*	*lauta*	W		1									1		
12	*C.*	*silicula*	W												2	
13	*Ceratoneis*	*arcus*	K			1										
14	*Cocconeis*	*placentula*	W	1		1			3	2	5	2	4	2	3	
15	*Cyclotella*	*stelligera*	M						1							
16	*Cymbella*	*minuta*	W			1			1						2	1
17	*C.*	*naviculiformis*	W												1	
18	*C.*	*sinuata*	K													
19	*C.*	*tumida*	W			1			1				1	2	1	
20	*C.*	*turgidula*	K						1					1		
21	*C.*	*ventricosa*	W											1		
22	*C.*	spp.	?		2					2		1	1		1	1
23	*Diploneis*	*elliptica*	W													
24	*D.*	*finnica*	W													
25	*D.*	*ovalis*	W											1		
26	*D.*	*parma*	W													
27	*D.*	*yatukaensis*	Q													
28	*D.*	spp.	?					1			1	1	1			
29	*Epithemia*	*adnata*	W													
30	*E.*	*turgida*	W	1	1				2		2	1	1	2	1	
31	*E.*	spp.	?	1			2	1	1	5	7	1	3	3	1	1
32	*Eunotia*	*arcus*	W													
33	*E.*	*biareofera*	W													
34	*E.*	*bilunaris*	W													
35	*E.*	*diodon*	W	2												
36	*E.*	*implicata*	W			1			1							
37	*E.*	*flexuosa*	O												3	
38	*E.*	*formica*	W													
39	*E.*	*lunaris*	W												1	
40	*E.*	*monodon*	W	3	3	1				4	1	1	1	2	2	
41	*E.*	*pectinalis* var. *minor*	O			2						1			1	
42	*E.*	*praerupta*	W	1	4	5					1			5	1	2
43	*E.*	*praerupta* var. *bidens*	O						1							
44	*E.*	*serra*	O												2	
45	*E.*	*siolii*	W	1												
46	*E.*	spp.	?	3	4	4	2	3	1		1	4	3	1		2
47	*Fragilaria*	*construens*	N													
48	*Frustulia*	*rhomboides* var. *saxonica*	O			1										
49	*F.*	*vulgaris*	W	1												
50	*F.*	spp.	?	1	1	1									1	
51	*Gomphonema*	*augur*	W													
52	*G.*	*entolejum*	W						2							
53	*G.*	*gracile*	O	3	2	1					1		1	3	4	
54	*G.*	*grovei*	W	1	1	2									1	
55	*G.*	*minutum*	W							1			1			
56	*G.*	*parvulum*	W										1			
57	*G.*	spp.	?	6	8				1	3	1	1	1	3	5	3
58	*Gyrosigma*	spp.	?													
59	*Hantzschia*	*amphioxys*	Q	52	15	20	4	3	63	2	47	3	14	19	31	40
60	*Melosira*	*roeseana*	Q		3	2			4				2	1	1	1
61	*Navicula*	*contenta*	Q	3	5	8	1		7					7	2	2
62	*N.*	*cryptotenella*	W			2										
63	*N.*	*cuspidata*	W													
64	*N.*	*elginensis*	O											1		1
65	*N.*	*goeppertiana*	W										1	1		
66	*N.*	*ignota*	W	11	1	1			12					1	4	
67	*N.*	*mutica*	Q	3	2	9	1	4	16	1	5	2	6	4	7	7
68	*N.*	*placenta*	W	1	2	2										
69	*N.*	*plausibilis*	W		3						5		1			
70	*N.*	*placentula*	W					1								
71	*N.*	*seminulum*	W											1		
72	*N.*	*tokyoensis*	W													
73	*N.*	*veneta*	W		1	2										
74	*N.*	sp.-1	Q						1							
75	*N.*	spp.	?	1		1								1		
76	*Neidium*	*affine*	W													
77	*N.*	*ampliatum*	W													1
78	*N.*	*bisulcatum*	Q	2	2	3	2	1	5		1			2		
79	*N.*	*iridis*	O													
80	*N.*	spp.	?		1						1	1			5	3
81	*Nitzschia*	*amphibia*	W			5							1			
82	*N.*	*palea*	W											1		
83	*N.*	*parvula*	W		1				8					1	2	
84	*N.*	*sinuata*	W													
85	*N.*	spp.	?				1		3	1	1					
86	*Pinnularia*	*appendiculata*	W													
87	*P.*	*borealis*	Q	8	3	13	2	1	14	1	3		5	5	12	10
88	*P.*	*braunii*	W													
89	*P.*	*divergens*	W													
90	*P.*	*gibba*	O	1	1					1	1		1		5	1
91	*P.*	*hemiptera*	W										1			
92	*P.*	*interrupta*	W											1		
93	*P.*	*maior*	W													
94	*P.*	*microstauron*	W													
95	*P.*	*rupestris*	W								1					
96	*P.*	*similis*	W		1				1	1					1	1
97	*P.*	*subcapitata*	Q	3	4	25	2	1	7		3		1	23	9	8
98	*P.*	*viridis*	O							3		1	1		5	2
99	*P.*	spp.	?	2	6	5	4		2	32	24	58	27	6	57	48
100	*Rhoicosphenia*	*curvata*	K													
101	*Rhopalodia*	*gibberula*	W												1	
102	*Stauroneis*	*acuta*	W													
103	*S.*	*anceps*	W												2	1
104	*S.*	*obtusa*	W		1					1	4				5	3
105	*S.*	*phoenicenteron*	O												1	1
106	*S.*	*smithii*	W											1		
107	*S.*	spp.	?		1			14			1				2	2
108	*Stephanodiscus*	*astraea*	W		1	1			1	1	1				1	1
109	*Surirella*	*angusta*	W													
110	*S.*	*linearis*	W													
111	*S.*	*ovata*	W						1		1					
112	*S.*	*tenera*	W												1	
113	*S.*	spp.	?		1	1	1	4	2	27	6	3	13	1	17	33
114	*Synedra*	*rumpens*	W											1		
115	*S.*	*ulna*	W	1	4	5	3	2	13	5	8	5	4	11	7	13
116	*S.*	spp.	?													
117		Unknown	?	14	8	9			16		4	5	2	13	5	6
1		外　洋	A	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2		海水不定・不明種	?	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3		中～下流性河川	K	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0
4		湖沼浮遊生	M	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5		湖沼沼沢湿地	N	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6		沼沢湿地付着生	O	4	3	4	0	0	1	4	2	2	3	4	21	5
7		陸　域	Q	71	34	80	12	10	117	4	59	5	28	61	62	68
8		広布種	W	26	26	34	6	5	47	17	33	9	20	37	44	28
9		淡水不定・不明種	?	16	25	14	10	23	10	71	45	70	49	15	89	93
10		その他不明種	?	14	8	9	0	0	16	0	4	5	2	13	5	6
		合　計		132	96	144	28	38	193	96	143	91	102	131	221	200
		完形殻の出現率(%)		40.9	33.3	47.9	28.6	7.9	37.3	3.1	14.0	3.3	13.7	46.6	20.4	14.5
		堆積物1g当たり殻数(個)		2.0E+04	9.6E+03	1.6E+04	4.5E+03	7.5E+03	2.4E+04	1.3E+04	2.7E+04	1.6E+04	1.4E+04	2.6E+03	6.8E+04	8.4E+04

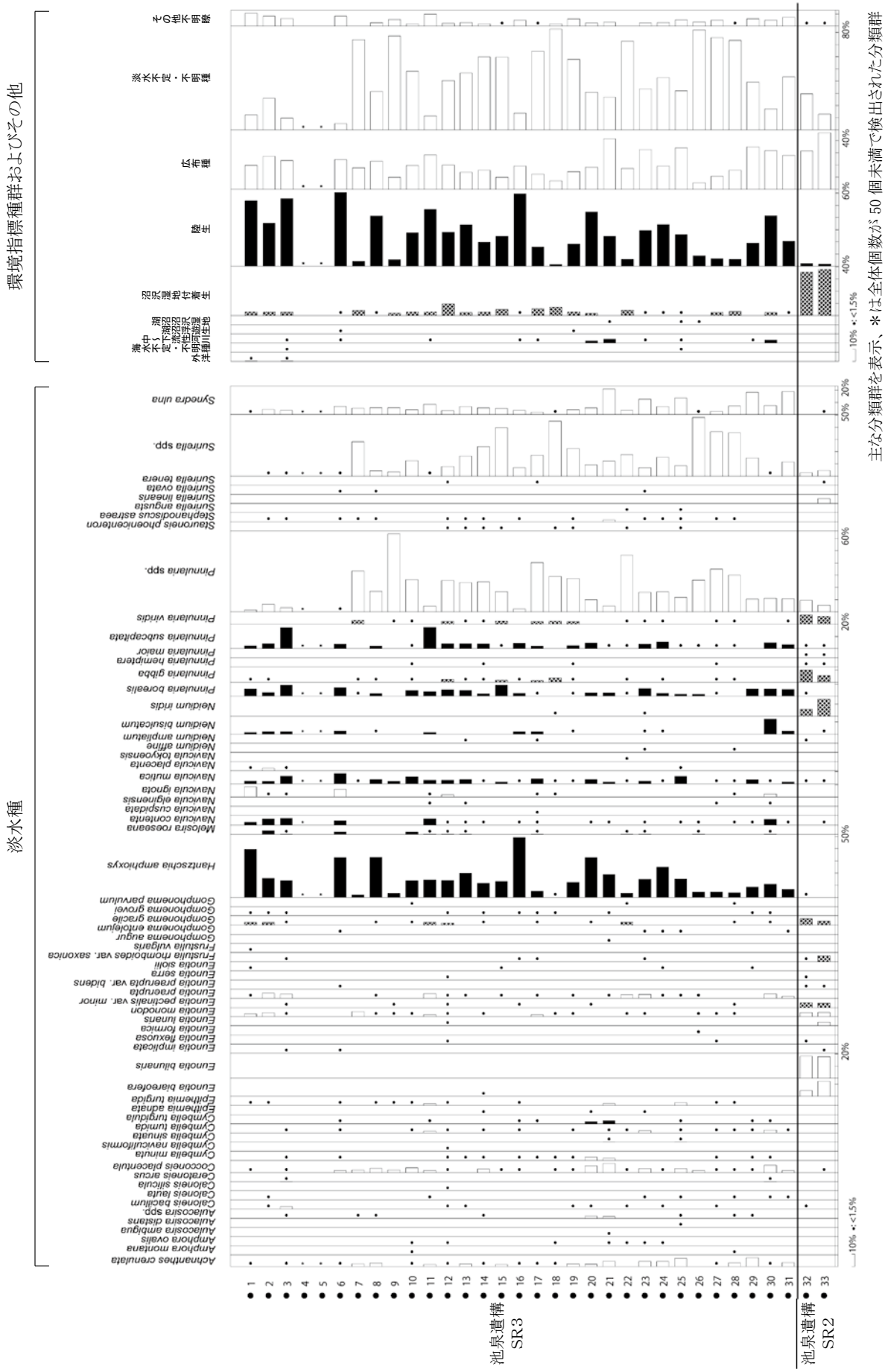
第９表　珪藻化石産出表（１）

No.	分類群		種群	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
1	*Denticulopsis*	*spp.*	?												1	
2	*Thalassionema*	*nitzschioides*	A													
1	*Achnanthes*	*crenulata*	W	3	2	1	1	2	4	2	8		9	8	14	
2	*A.*	*inflata*	W													
3	*A.*	spp.	?			1		1							1	
4	*Amphora*	*montana*	W													
5	*A.*	*ovalis*	W					2			1	1	1	1		
6	*Anomoeoneis*	*brachysira*	W													
7	*Aulacosira*	*ambigua*	N								1					
8	*A.*	*distans*	N												1	
9	*A.*	spp.	?	1						2	3				1	
10	*Caloneis*	*bacillum*	W						2	1		1		1		
11	*C.*	*lauta*	W										2		3	
12	*C.*	*silicula*	W													
13	*Ceratoneis*	*arcus*	K													
14	*Cocconeis*	*placentula*	W	6	1	2		1	3	6	14	3	7	1	7	2
15	*Cyclotella*	*stelligera*	M						1							
16	*Cymbella*	*minuta*	W	2		1	1	1	1	3	3					
17	*C.*	*naviculiformis*	W													
18	*C.*	*sinuata*	K								1				1	
19	*C.*	*tumida*	W	1		2			1		1	1	4		1	
20	*C.*	*turgidula*	K			3	1			2	5				2	
21	*C.*	*ventricosa*	W													
22	*C.*	spp.	?	3							2	1	4	3	4	1
23	*Diploneis*	*elliptica*	W											1		
24	*D.*	*finnica*	W									1				
25	*D.*	*ovalis*	W													
26	*D.*	*parma*	W											1		
27	*D.*	*yatukaensis*	Q								1					
28	*D.*	spp.	?											1	1	
29	*Epithemia*	*adnata*	W	1						1			2			
30	*E.*	*turgida*	W			1					3				5	
31	*E.*	spp.	?	6	1	3	5	3	3	4	9	1	7	8	7	1
32	*Eunotia*	*arcus*	W										1			
33	*E.*	*biareofera*	W	1												
34	*E.*	*bilunaris*	W													
35	*E.*	*diodon*	W													
36	*E.*	*implicata*	W													
37	*E.*	*flexuosa*	O													
38	*E.*	*formica*	W													1
39	*E.*	*lunaris*	W													
40	*E.*	*monodon*	W	1			3	1	2			2	1			1
41	*E.*	*pectinalis* var. *minor*	O			1				1						
42	*E.*	*praerupta*	W		1		2		1		2	6	7	2	3	1
43	*E.*	*praerupta* var. *bidens*	O													
44	*E.*	*serra*	O													
45	*E.*	*siolii*	W		1									1		
46	*E.*	spp.	?	1	2		4	2	2	4	1	5	6		1	5
47	*Fragilaria*	*construens*	N													1
48	*Frustulia*	*rhomboides* var. *saxonica*	O			1	2						1			
49	*F.*	*vulgaris*	W													
50	*F.*	spp.	?													
51	*Gomphonema*	*augur*	W								1					
52	*G.*	*entolejum*	W										1	1	1	
53	*G.*	*gracile*	O	1			2			1		5				
54	*G.*	*grovei*	W	1		3	1	2			2					
55	*G.*	*minutum*	W													
56	*G.*	*parvulum*	W									1				
57	*G.*	spp.	?	5	1	1	3	4	2	1	2	5	1	4	5	1
58	*Gyrosigma*	spp.	?			1										
59	*Hantzschia*	*amphioxys*	Q	24	16	101	10	2	25	36	35	7	33	50	32	5
60	*Melosira*	*roeseana*	Q				1					1	1			1
61	*Navicula*	*contenta*	Q	2		1	2			1	1		1		3	1
62	*N.*	*cryptotenella*	W													
63	*N.*	*cuspidata*	W				1									
64	*N.*	*elginensis*	O													
65	*N.*	*goeppertiana*	W				1						1			
66	*N.*	*ignota*	W				1	1								
67	*N.*	*mutica*	Q	2	2	2	8	1	3	4	3	1	5	1	13	
68	*N.*	*placenta*	W												1	
69	*N.*	*plausibilis*	W										1			
70	*N.*	*placentula*	W													
71	*N.*	*seminulum*	W													
72	*N.*	*tokyoensis*	W									1				
73	*N.*	*veneta*	W													
74	*N.*	sp.-1	Q													
75	*N.*	spp.	?			1									1	1
76	*Neidium*	*affine*	W										1			
77	*N.*	*ampliatum*	W				1									
78	*N.*	*bisulcatum*	Q			4	4		1				3	2		
79	*N.*	*iridis*	O					1					1			
80	*N.*	spp.	?	3			2	3	4	1		4	4	5	2	
81	*Nitzschia*	*amphibia*	W						1					1	2	
82	*N.*	*palea*	W	1		2										
83	*N.*	*parvula*	W			17	4					3	1	3		
84	*N.*	*sinuata*	W												1	
85	*N.*	spp.	?	2		2			3	1	1	1	2	1	1	
86	*Pinnularia*	*appendiculata*	W						2	1			2	1		
87	*P.*	*borealis*	Q	4	11	5	2		3	3	5	1	14	5	4	2
88	*P.*	*braunii*	W				1									
89	*P.*	*divergens*	W													
90	*P.*	*gibba*	O	3	2	1	3	7	1			1		1		
91	*P.*	*hemiptera*	W	1					1							
92	*P.*	*interrupta*	W													
93	*P.*	*maior*	W													
94	*P.*	*microstauron*	W	1				1				1				
95	*P.*	*rupestris*	W		1		1		1			2			1	
96	*P.*	*similis*	W						1							
97	*P.*	*subcapitata*	Q	8	1	9	4		5	5	1	2	8	11	3	1
98	*P.*	*viridis*	O	1	3		4	5	4			2	1	1		
99	*P.*	spp.	?	50	20	5	78	58	55	11	9	95	35	33	25	30
100	*Rhoicosphenia*	*curvata*	K				1						1			
101	*Rhopalodia*	*gibberula*	W					1				1				
102	*Stauroneis*	*acuta*	W													
103	*S.*	*anceps*	W				1							1		
104	*S.*	*obtusa*	W			1							1			
105	*S.*	*phoenicenteron*	O	1	1			1	1			1			1	
106	*S.*	*smithii*	W													
107	*S.*	spp.	?	1				4	2			1			1	
108	*Stephanodiscus*	*astraea*	W	2		1			1		3		1	2	3	
109	*Surirella*	*angusta*	W									1			1	
110	*S.*	*linearis*	W													
111	*S.*	*ovata*	W										1			
112	*S.*	*tenera*	W				1									
113	*S.*	spp.	?	49	48	14	33	90	45	10	23	36	15	31	18	55
114	*Synedra*	*rumpens*	W			1					1	3				
115	*S.*	*ulna*	W	11	6	7	4	2	8	6	39	7	28	13	29	1
116	*S.*	spp.	?	1												
117		Unknown	?	4	1	10	1	4	12	3	6		6	6	11	4
1		外　洋	A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2		海水不定・不明種	?	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
3		中～下流性河川	K	0	0	3	2	0	0	2	6	0	1	0	3	0
4		湖沼浮遊生	M	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
5		湖沼沼沢湿地	N	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1
6		沼沢湿地付着生	O	6	6	3	11	14	6	2	0	9	3	2	1	0
7		陸　域	Q	40	30	122	31	3	37	49	46	12	65	69	55	10
8		広布種	W	32	12	39	24	14	29	20	77	35	72	38	72	6
9		淡水不定・不明種	?	122	72	28	125	165	116	34	50	149	74	86	68	94
10		その他不明種	?	4	1	10	1	4	12	3	6	0	6	6	11	4
		合　計		204	121	205	194	200	201	110	186	205	221	201	212	115
		完形殻の出現率(%)		6.9	3.3	30.2	12.9	3.5	8.0	18.2	10.2	5.4	10.9	11.9	10.4	3.5
		堆積物1g当たり殻数(個)		4.4E+04	1.3E+04	1.3E+05	6.1E+04	1.4E+05	5.8E+04	1.2E+04	2.4E+04	8.9E+04	3.9E+04	6.9E+04	4.6E+04	3.2E+04

第 10 表　珪藻化石産出表（2）

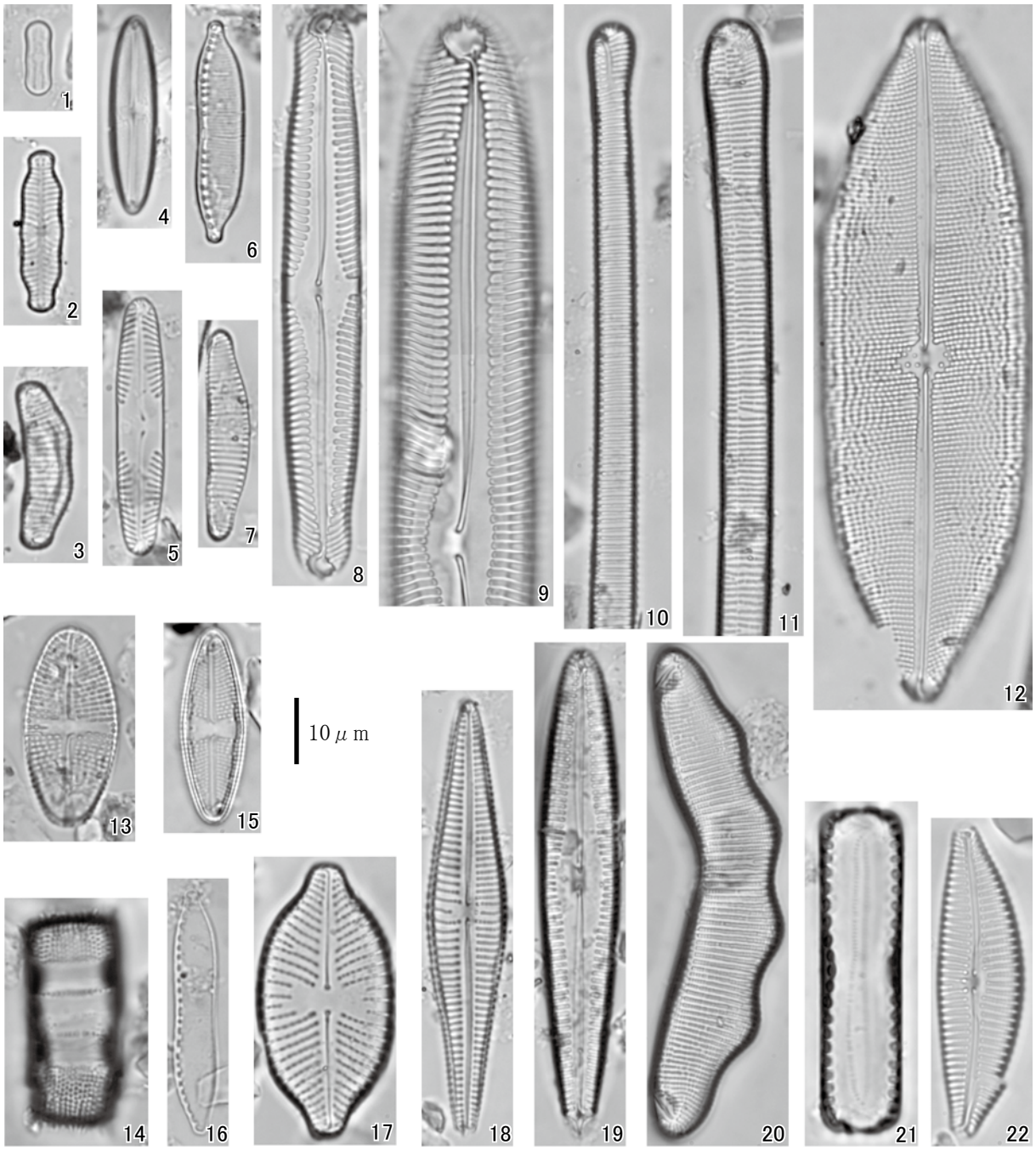
No.		分類群	種群	27	28	29	30	31	32	33
1	*Denticulopsis*	*spp.*	?							
2	*Thalassionema*	*nitzschioides*	A							
1	*Achnanthes*	*crenulata*	W	3	6	8	1	4		
2	*A.*	*inflata*	W							
3	*A.*	spp.	?							
4	*Amphora*	*montana*	W		1					
5	*A.*	*ovalis*	W							
6	*Anomoeoneis*	*brachysira*	W							1
7	*Aulacosira*	*ambigua*	N							
8	*A.*	*distans*	N							
9	*A.*	spp.	?		2	1				
10	*Caloneis*	*bacillum*	W	2					1	
11	*C.*	*lauta*	W		1		1	1		
12	*C.*	*silicula*	W							
13	*Ceratoneis*	*arcus*	K				1			
14	*Cocconeis*	*placentula*	W	2	1	1	5	2		1
15	*Cyclotella*	*stelligera*	M							
16	*Cymbella*	*minuta*	W	1		1	1			
17	*C.*	*naviculiformis*	W							
18	*C.*	*sinuata*	K							
19	*C.*	*tumida*	W	1	1	1	2	1		
20	*C.*	*turgidula*	K			1	1			
21	*C.*	*ventricosa*	W							
22	*C.*	spp.	?			1	1	4		2
23	*Diploneis*	*elliptica*	W	1						
24	*D.*	*finnica*	W							
25	*D.*	*ovalis*	W							
26	*D.*	*parma*	W			1				
27	*D.*	*yatukaensis*	Q							
28	*D.*	spp.	?		1	1				
29	*Epithemia*	*adnata*	W							
30	*E.*	*turgida*	W	1	1					
31	*E.*	spp.	?	2	5	8	1	8	1	
32	*Eunotia*	*arcus*	W							
33	*E.*	*biareofera*	W						10	25
34	*E.*	*bilunaris*	W						38	36
35	*E.*	*diodon*	W							
36	*E.*	*implicata*	W							1
37	*E.*	*flexuosa*	O	1					2	
38	*E.*	*formica*	W							
39	*E.*	*lunaris*	W							6
40	*E.*	*monodon*	W	1	1				7	7
41	*E.*	*pectinalis* var. *minor*	O		1				8	7
42	*E.*	*praerupta*	W				3	2		
43	*E.*	*praerupta* var. *bidens*	O						2	1
44	*E.*	*serra*	O						1	
45	*E.*	*siolii*	W			1				
46	*E.*	spp.	?	1	3	1	1	7	23	2
47	*Fragilaria*	*construens*	N							
48	*Frustulia*	*rhomboides* var. *saxonica*	O						2	10
49	*F.*	*vulgaris*	W							
50	*F.*	spp.	?							
51	*Gomphonema*	*augur*	W							
52	*G.*	*entolejum*	W					1		
53	*G.*	*gracile*	O		1		1		11	7
54	*G.*	*grovei*	W			1	1			
55	*G.*	*minutum*	W							
56	*G.*	*parvulum*	W		1					
57	*G.*	spp.	?		2	2	1		8	
58	*Gyrosigma*	spp.	?							
59	*Hantzschia*	*amphioxys*	Q	9	8	10	9	8	1	
60	*Melosira*	*roeseana*	Q				1			
61	*Navicula*	*contenta*	Q		1	1	4	1		1
62	*N.*	*cryptotenella*	W							
63	*N.*	*cuspidata*	W							
64	*N.*	*elginensis*	O	1			1			
65	*N.*	*goeppertiana*	W							
66	*N.*	*ignota*	W		1		2			
67	*N.*	*mutica*	Q	1	1	4	1	2	1	1
68	*N.*	*placenta*	W							
69	*N.*	*plausibilis*	W			4	1			
70	*N.*	*placentula*	W							
71	*N.*	*seminulum*	W							
72	*N.*	*tokyoensis*	W							
73	*N.*	*veneta*	W							
74	*N.*	sp.-1	Q							
75	*N.*	spp.	?							
76	*Neidium*	*affine*	W		1					
77	*N.*	*ampliatum*	W						2	
78	*N.*	*bisulcatum*	Q				10	3		1
79	*N.*	*iridis*	O						12	28
80	*N.*	spp.	?	4	1			2	3	2
81	*Nitzschia*	*amphibia*	W				1			
82	*N.*	*palea*	W				1			
83	*N.*	*parvula*	W							
84	*N.*	*sinuata*	W							
85	*N.*	spp.	?			1		1		
86	*Pinnularia*	*appendiculata*	W							
87	*P.*	*borealis*	Q	1		7	5	7	1	
88	*P.*	*braunii*	W			1				
89	*P.*	*divergens*	W							1
90	*P.*	*gibba*	O	1	3				21	11
91	*P.*	*hemiptera*	W	2					2	1
92	*P.*	*interrupta*	W							
93	*P.*	*maior*	W						3	2
94	*P.*	*microstauron*	W							
95	*P.*	*rupestris*	W	1						1
96	*P.*	*similis*	W		1				3	
97	*P.*	*subcapitata*	Q	2	2		4	4	2	1
98	*P.*	*viridis*	O	2	2			1	16	13
99	*P.*	spp.	?	71	61	12	9	13	20	11
100	*Rhoicosphenia*	*curvata*	K							
101	*Rhopalodia*	*gibberula*	W							
102	*Stauroneis*	*acuta*	W	1			1			
103	*S.*	*anceps*	W							1
104	*S.*	*obtusa*	W		1					
105	*S.*	*phoenicenteron*	O							
106	*S.*	*smithii*	W							
107	*S.*	spp.	?	1	2			1	1	
108	*Stephanodiscus*	*astraea*	W	1	1					
109	*Surirella*	*angusta*	W							
110	*S.*	*linearis*	W							8
111	*S.*	*ovata*	W							
112	*S.*	*tenera*	W							1
113	*S.*	spp.	?	74	72	17	1	14	6	9
114	*Synedra*	*rumpens*	W							
115	*S.*	*ulna*	W	5	14	21	6	23		2
116	*S.*	spp.	?	1		1		3		
117		Unknown	?	10	3	7	4	9	2	2
1		外　洋	A	0	0	0	0	0	0	0
2		海水不定・不明種	?	0	0	0	0	0	0	0
3		中～下流性河川	K	0	0	1	2	0	0	0
4		湖沼浮遊生	M	0	0	0	0	0	0	0
5		湖沼沼沢湿地	N	0	0	0	0	0	0	0
6		沼沢湿地付着生	O	5	7	0	2	1	75	77
7		陸　域	Q	13	12	22	34	25	5	4
8		広布種	W	22	32	40	26	34	66	94
9		淡水不定・不明種	?	154	149	45	14	53	62	26
10		その他不明種	?	10	3	7	4	9	2	2
		合　計		204	203	115	82	122	210	203
		完形殻の出現率(%)		1.5	2.5	9.6	37.8	11.5	15.7	22.7
		堆積物1g当たり殻数(個)		8.4E+04	7.3E+04	2.0E+04	3.1E+03	6.6E+03	2.2E+05	8.3E+05

第 11 表　珪藻化石産出表（3）



主な分類群を表示、＊は全体個数が 50 個未満で検出された分類群

第 34 図　珪藻化石分布図



堆積物中の珪藻化石の顕微鏡写真

1.*Navicula contenta* (No.11) 2.*Navicula ignota* (No.1) 3.*Eunotia praerupta* (No.1)
4.*Neidium bisulcatum* (No.2) 5.*Pinnularia subcapitata* (No.11) 6.*Hantzschia amphioxys* (No.1)
7.*Eunotia pectinalis* var. *minor* (No.33) 8.*Pinnularia gibba* (No.33) 9.*Pinnularia viridis* (No.33)
10.Eunotia bilunaris (No.33) 11.Eunotia biareofera (No.33) 12.Neidium iridis (No.33)
13.*Navicula plausibilis* (No.8) 14.*Melosira roeseana* (No.6) 15.*Navicula mutica* (No.3)
16.*Nitzschia parvula* (No.6) 17.*Navicula placentula* (No.5) 18.*Gomphonema gracile* (No.33)
19.*Gomphonema entolejum* (No.6) 20.*Eunotia monodon* (No.33) 21.*Pinnularia borealis* (No.3)
22.*Cymbella turgidula*(No.20)

写真図版１　珪藻化石の顕微鏡写真

第２節　池泉遺構ＳＲ２・ＳＲ３の花粉分析

森　将志（パレオ・ラボ）

１．はじめに

Ｃ８トレンチの池泉遺構ＳＲ３およびＢ20トレンチの池泉遺構ＳＲ２において、花粉分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料の花粉分析結果を示し、遺跡周辺の古植生について検討した。なお、同一試料を用いて珪藻分析も行われている（珪藻分析の項参照）。

２．試料と方法

分析試料は、計５点である（第12表）。No.13とNo.14、No.18、No.19がＳＲ３の同一層準から、No.33はＳＲ２で採取された試料であるが、堆積時期はほぼ同時期と考えられている。これらの試料から、次の手順で花粉分析を行った。

分析No.	トレンチ	遺構	堆積物の特徴
13	Ｃ８	ＳＲ３	暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
14			暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質粘土
18			オリーブ褐色（2.5Y4/3）礫混じり粘土
19			暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）礫混じり砂質粘土
33	Ｂ20	ＳＲ２	オリーブ褐色（2.5Y4/4）砂質粘土

第 12 表　花粉分析試料一覧

試料（湿重量約３ｇ）を遠沈管にとり、10％水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46％フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣よりプレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、No.13とNo.18については、試料に含まれる花粉が少なく、複数枚のプレパラートを検鏡しても分布図作成に足る樹木花粉数200を得るのは難しいと判断されたため、１枚のプレパラート全面を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで、単体標本を作製した。図版に載せた分類群ごとの単体標本（PLC.900～907）は、パレオ・ラボに保管されている。

３．結果

分析試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉23、草本花粉15、形態分類のシダ植物胞子２の総計40である。これらの花粉・胞子の一覧を第13表に、花粉分布図を第35図に示した。分布図において、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を、草本花粉および胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。なお、No.13とNo.18については、試料に十分な量の花粉化石が含まれていなかったため、分布図には産出した分類群を*で表示するにとどめた。図および表においてハイフン(－)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。また、クワ科やバラ科、マメ科の花粉には樹木起源と草本起源の両方が含まれるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して入れてある。

今回の分析試料は、全体的に花粉化石の保存状態が良好ではなく、十分な量の花粉化石が産出したのはNo.14とNo.19、No.33の３試料である。No.14とNo.19は同様な花粉組成を示しており、クリ属の産出が最も多く、それぞれ43％と63％の産出率である。その他の樹木花粉では、マツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属、シイノキ属-マテバシイ属などの産出が目立ち、産出率はそれぞれ11％と9％、11％と３％、20％と10％である。なお、No.13とNo.18もクリ属の産出が最も多く、シイノキ属-マテバシイ属とマツ属複維管束亜属がそれに続き、No.14とNo.19と同じような産出傾向がみられる。

No.33では、No.14とNo.19に比べるとクリ属の産出が少なく、12％の産出率を示す。一方、マツ属複維管束亜属とニレ属-ケヤキ属の産出が多く、それぞれ35％と26％の産出率である。

また、いずれの試料においても草本花粉の産出が少ないが、No.13とNo.14、No.18ではソバ属が、No.33ではベニバナ属がわずかに産出している。さらに、いずれの試料においてもシダ植物胞子の産出が多い。

４．考察

まず、同一層準とされるNo.14とNo.19の花粉組成を見ると、両試料ともにクリ属が多く産出している。クリ花粉については広域に散布され難く、クリ林の林床に多く堆積する事例が報告されている（吉川，2011）。よって、ＳＲ３におけるクリ属花粉の多産は、試料採取地点のすぐそばにクリの木かクリ林が存在していた可能性を示唆していると考えられる。または、二次林要素のマツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ亜属のある程度の産出が見られるため、池周辺の山斜面や山麓は比較的明るい場所であり、クリやニヨウマツ類、コナラといった陽樹からなる二次林が広がっていたと考えられる。そうした二次林の林内や林縁部にウコギ科の植物が生育していたであろう。さらには、コナラ属アカガシ亜属やシイノキ属-マテバシイ属などからなる照葉樹も山の斜面の一部に存在していたと思われる。草本花粉ではソバ属の産出が見られるため、池周辺においてソバ栽培が行われていた可能性があるが、居館内での栽培は考え難く、居館の外部で栽培していたのであろうか。

No.33では、No.14とNo.19と同じくクリ属やマツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属などの産出が見られるものの、クリ属花粉の産出量はNo.14やNo.19ほど多くはなく、マツ属複維管束亜属の産出が多い。またNo.33では、No.14とNo.19では産出がほとんど見られなかったニレ属-ケヤキ属やサワグルミ属-クルミ属などが多く産出している。No.14やNo.19、No.33は同時期の堆積物と考えられているため、No.33とNo.14やNo.19に見られる花粉組成の相違は池周辺のごく近辺の植生の相違を反映している可能性がある。すなわち、ＳＲ２周辺の山斜面にもクリやニヨウマツ類、コナラなどからなる二次林が広がっていたが、クリはＳＲ３周辺に多く生育しており、ＳＲ２周辺にはニヨウマツ類が優占する二次林が広がっていたと思われる。また、ＳＲ２周辺には、ニレ属-ケヤキ属やサワグルミ属-クルミ属などからなる落葉広葉樹も存在していたと思われる。さらに、栽培植物のベニバナ属の産出が見られるため、ＳＲ２周辺ではベニバナ栽培が行われていた可能性が考えられるが、ソバと同様に居館内での栽培よりも、居館外での栽培が考えられる。

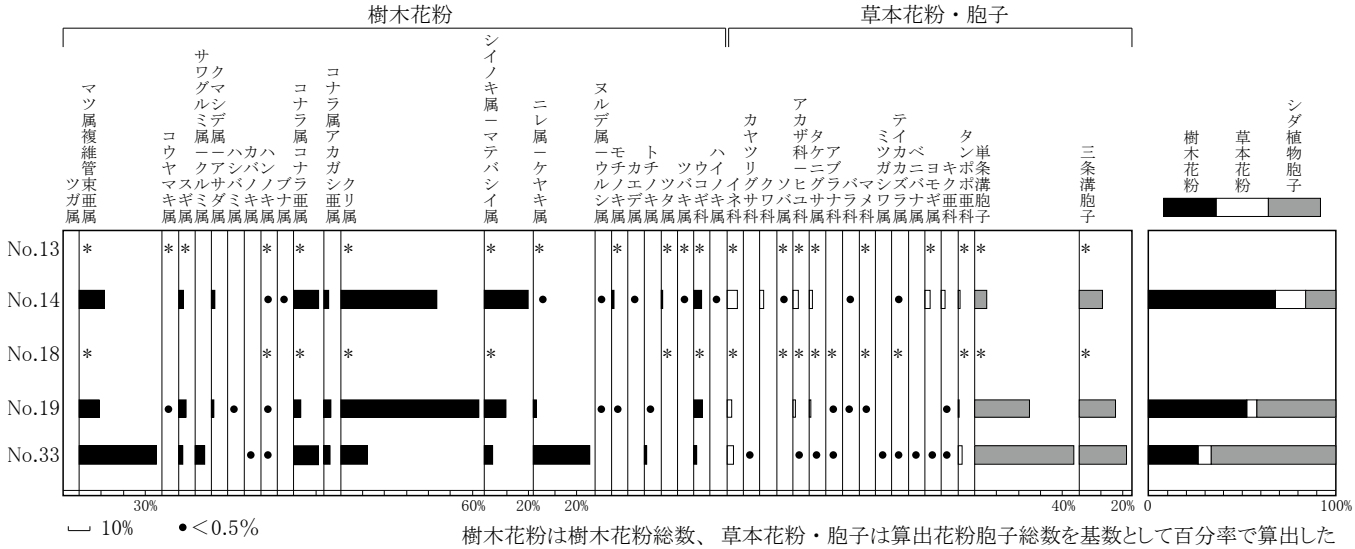
最後にシダ植物胞子について触れておきたい。今回の分析試料は、いずれもシダ植物胞子が多く産出する傾向がある。シダ植物胞子が多産する原因としては、当時の池周辺にシダ植物が多く生育していた可能性が考えられるが、別の見方もある。すなわち、今回の分析試料は全体的に花粉化石の保存状態が良好ではないため、堆積時やその後に風化作用を受けた可能性があり、多くの花粉は分解消失したが、一般的に腐食に対する抵抗力が強いとされる胞子は残存する数が多かった、という可能性である。このように、シダ植物胞子の多産については２つの可能性が考えられるが、可能性を絞り込むのは難しいため、ここではシダ植物胞子が多産したと指摘するに留めておく。

引用文献

吉川昌伸（2011）クリ花粉の散布と三内丸山遺跡周辺における縄文時代のクリ林の分布状況．植生史研究，18，65-76.

学名	和名	No. 13	No. 14	No. 18	No. 19	No. 33
樹木						
Tsuga	ツガ属	−	−	−	−	1
Pinus subgen. *Diploxylon*	マツ属複維管束亜属	8	23	5	18	75
Sciadopitys	コウヤマキ属	1	−	−	1	−
Cryptomeria	スギ属	1	5	−	7	4
Pterocarya−*Juglans*	サワグルミ属−クルミ属	−	−	−	−	9
Carpinus−*Ostrya*	クマシデ属−アサダ属	−	3	−	2	−
Corylus	ハシバミ属	−	−	−	1	−
Betula	カバノキ属	−	−	−	−	1
Alnus	ハンノキ属	1	1	1	1	1
Fagus	ブナ属	−	1	−	−	−
Quercus subgen. *Lepidobalanus*	コナラ属コナラ亜属	10	23	4	6	24
Quercus subgen. *Cyclobalanopsis*	コナラ属アカガシ亜属	−	4	−	6	6
Castanea	クリ属	30	89	13	129	26
Castanopsis−*Pasania*	シイノキ属−マテバシイ属	27	40	9	20	8
Ulmus−*Zelkova*	ニレ属−ケヤキ属	1	1	−	3	55
Rhus−*Toxicodendron*	ヌルデ属−ウルシ属	−	1	−	1	−
Ilex	モチノキ属	1	2	−	1	−
Acer	カエデ属	−	1	−	−	−
Aesculus	トチノキ属	−	−	−	1	2
Parthenocissus	ツタ属	1	2	2	−	−
Camellia	ツバキ属	1	1	−	−	−
Araliaceae	ウコギ科	6	7	8	8	2
Symplocos	ハイノキ属	−	1	−	−	−
草本						
Gramineae	イネ科	12	14	4	9	25
Cyperaceae	カヤツリグサ科	−	−	−	−	2
Moraceae	クワ科	−	5	−	−	−
Fagopyrum	ソバ属	1	1	1	−	−
Chenopodiaceae−Amaranthaceae	アカザ科−ヒユ科	4	8	3	5	1
Macleaya	タケニグサ属	7	4	2	2	3
Brassicaceae	アブラナ科	−	−	1	1	2
Rosaceae	バラ科	−	1	−	1	−
Leguminosae	マメ科	1	−	1	1	−
Menyanthes	ミツガシワ属	−	−	−	−	2
Trachelospermum	テイカカズラ属	−	1	1	−	1
Carthamus	ベニバナ属	−	−	−	−	1
Artemisia	ヨモギ属	2	7	−	−	4
Tubuliflorae	キク亜科	−	5	−	1	1
Liguliflorae	タンポポ亜科	2	3	3	2	16
シダ植物						
monolate type spore	単条溝胞子	67	17	308	99	368
trilate type spore	三条溝胞子	24	32	82	66	177
Arboreal pollen	樹木花粉	88	205	42	205	214
Nonarboreal pollen	草本花粉	29	49	16	22	58
Spores	シダ植物胞子	91	49	390	165	545
Total Pollen&Spores	花粉・胞子総数	208	303	448	392	817
Unknown pollen	不明花粉	−	10	−	−	−

第 13 表　産出花粉胞子一覧表



樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は算出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した
＊は樹木花粉 200 個未満の試料について、検出した分類群を示す

第 35 図　花粉分布図

産出した花粉化石

a. コナラ属コナラ亜属（No.14 PLC.900）
b. ニレ属－ケヤキ属（No.33 PLC.901）
c. ツタ属（No.18 PLC.902）
d. クリ属（No.14 PLC.903）
e. シイノキ属－マテバシイ属（No.14 PLC.904）
f. ソバ属（No.14 PLC.905）
g. バラ科（No.14 PLC.906）
h. ベニバナ属（No.33 PLC.907）

写真図版２　産出した花粉化石

第３節　池泉遺構ＳＲ３出土の炭化材樹種同定

小林克也（パレオ・ラボ）

１．試料と方法

試料は、ＳＲ３から出土した炭化材５点である。ＳＲ３の時期は、出土遺物より戦国時代である。炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面（木口）、接線断面（板目）、放射断面（柾目）について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパッタにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡（日本電子（株）製JSM-5900LV）にて検鏡および写真撮影を行なった。

２．結果

同定の結果、針葉樹のスギが３点と、サワラが２点産出した（第14表・写真図版３）。

試料No.	試料名	トレンチ	遺構	樹種	備考
1	C-Wo No.1	C8	SR3	サワラ	
2	C-Wo No.2			スギ	
3	C-Wo No.3			スギ	
4	AMS･C-Wo No.1			スギ	
5	AMS-2			サワラ	一部未炭化

第 14 表　炭化材の樹種同定結果一覧

（１）スギ　Cryptomeriajaponica(L.f.)D.Don　スギ科　写真図版３　1a-1c(No.2)、2a-2c(No.3)、3a-3c(No.4)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は厚く、早材から晩材への移行は緩やかである。放射組織は単列で、高さ１～10列となる。分野壁孔は大型のスギ型で、１分野に普通２個みられる。

スギは大高木へと成長する常緑針葉樹で、天然分布は東日本の日本海側に多い。比較的軽軟で、切削などの加工が容易な材である。

（２）サワラ　Chamaecyparispisifera(SieboldetZucc.)Endl.　ヒノキ科　写真図版３　4a-4c(No.1)、5a-5c(No.5)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部はやや厚く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、１～８列となる。分野壁孔は中型のトウヒ～ヒノキ型で、１分野に普通２個みられる。

サワラは岩手県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材は軽軟で加工しやすく、水湿によく耐える。

３．考察

試料はスギが３点とサワラが２点で、肉眼観察によれば、試料No.５のサワラは材の一部が未炭化であった。スギとサワラは木理通直で真っすぐに生育しやすく、加工性が良い樹種である（伊東ほか，2011）。なお、岐阜城千畳敷遺跡の３次調査で同時期の井戸遺構の底から出土した桶部材では、サワラやヒノキ属などの針葉樹が最も多くみられた（植田，2000）。また、鷺山仙道遺跡でも16世紀前葉の井戸遺構から出土した箸や桶部材などにサワラが多くみられ（植田，2002）、木製品や建築材などにはサワラを主体とした針葉樹が用いられていた。

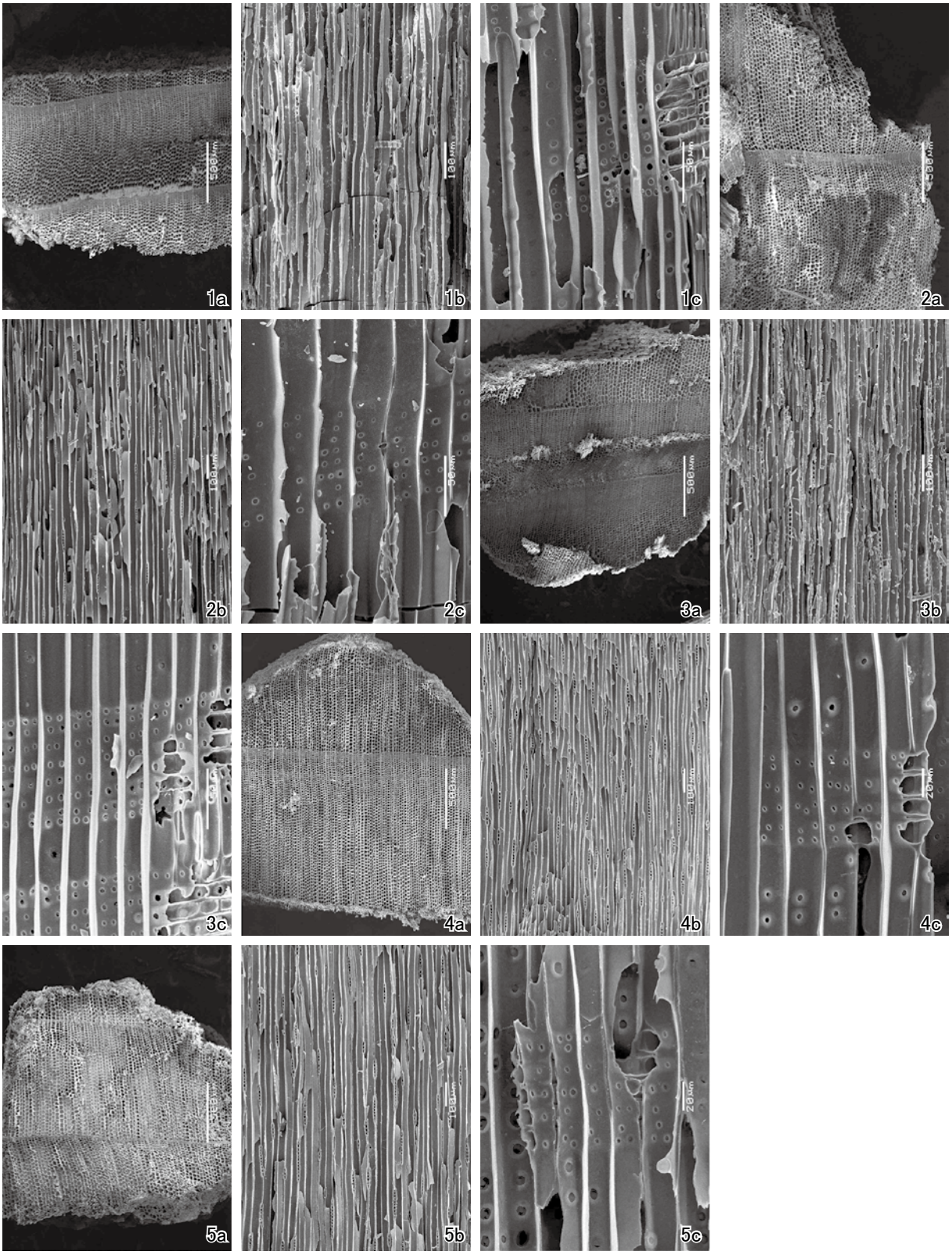
今回同定を行なった木材の用途はいずれも不明であるが、池遺構から出土した炭化材で、一部未炭化の木材もみられるため、試料は廃棄された焼けた建築材や木製品の残渣の可能性がある。

引用文献

伊東隆夫・佐野雄三・安部久・内海泰弘・山口和穂（2011）日本有用樹木誌．238p，青海社．

植田弥生（2000）岐阜城千畳敷遺跡井戸遺構の樹種同定．岐阜市教育文化振興事業団編「千畳敷Ⅲ」：189-193，岐阜市教育文化振興事業団．

植田弥生（2002）木製品の樹種同定．岐阜市教育文化振興事業団編「鷺山仙道遺跡」：135-141，岐阜市教育文化振興事業団．



SR3出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. スギ (No.2)、 2a-2c. スギ (No.3)、 3a-3c. スギ (No.4)、 4a-4c. サワラ (No.1)、 5a-5c. サワラ (No.5)

a: 横断面、 b: 接線断面、 c: 放射断面

写真図版３　炭化材の走査型顕微鏡写真

第４節　池泉遺構ＳＲ２・ＳＲ３出土の岩石同定

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

Ｃ８トレンチ池泉遺構ＳＲ３およびＢ20トレンチ池泉遺構ＳＲ２から出土した緑色系岩石について、偏光顕微鏡観察を行い、岩石同定を行った。

２．試料と方法

分析では、岩石薄片を作製し、偏光顕微鏡観察により岩石の特徴について調べた。

分析No.	トレンチ	遺構	特徴	岩石名
1	C8	SR3	暗オリーブ灰色～暗緑色～黒色、片理有	緑簾石アクチノ閃石片岩
2			暗緑色～黒色、片理有	角閃石片岩
3			暗オリーブ灰色～暗緑色、やや片理の有る塊状、石英脈有	緑簾石アクチノ閃石片岩
4	B20	SR2	緑色～緑灰色、片理が顕著(剥離性高い)	緑簾石片岩

第 15 表　岩石同定結果一覧

試料は、岩石カッターを用いて一部を採取した。岩石試料は、精密岩石薄片作製機を用いて、厚さ0.02mm前後の薄片に整形した。

３．岩石の偏光顕微鏡観察と岩石同定

［分析No.１：緑簾石アクチノ閃石片岩（写真図版４-1a･1b）］

暗オリーブ灰色～暗緑色～黒色の片理のある岩石である。薄片では、アクチノ閃石と柱状の角閃石または緑簾石が集合し、曹長石や石英とともに脈状に分布する。

［分析No.２：角閃石片岩（写真図版４-2a･2b）］

暗緑色～黒色のやや片理のある岩石である。薄片では、細かい柱状ないし針状の角閃石（開放ニコルにおいて淡緑色、直交ニコルにおいて黄色～赤色）およびアクチノ閃石（開放ニコルにおいて淡緑色、直交ニコルにおいて無色）の集合層が粗粒部と細粒部の互層状に分布する。その他の鉱物では、無色の曹長石や石英、緑色～無色の緑泥石、黒色の磁鉄鉱などを伴う。

［分析No.３：緑簾石アクチノ閃石片岩（写真図版４-3a･3b）］

暗オリーブ灰色～暗緑色のやや片理のある塊状岩石である。薄片では、アクチノ閃石と柱状の角閃石または緑簾石が集合し、曹長石や石英とともに部分的に脈状に分布する。

［分析No.４：緑簾石片岩（写真図版４-4a･4b）］

緑色～緑灰色の著しく片理のある岩石である。薄片では、針状のアクチノ閃石や粒状の曹長石や石英が縞状に分布し、緑色粒状の緑簾石が散在する。

４．考察

庭園から出土した緑色系岩石について岩石薄片を作製し、偏光顕微鏡で観察・同定した。

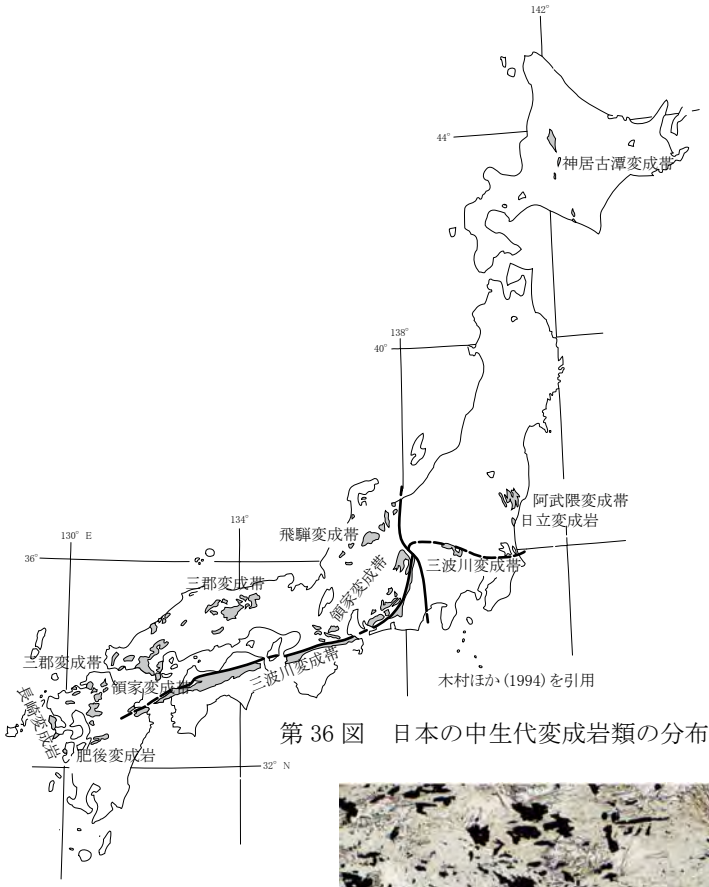
その結果、緑簾石アクチノ閃石片岩２点、角閃石片岩１点、緑簾石片岩１点であった。

これらの片岩は、広域変成帯に属する変成岩であり、主に中央構造線沿いに帯状に分布する三波川変成帯に見られる岩石である。三波川変成帯は、中央構造線沿いに九州～和歌山～伊勢～新城～伊那東側、そして群馬県下仁田～埼玉県越生に至る。

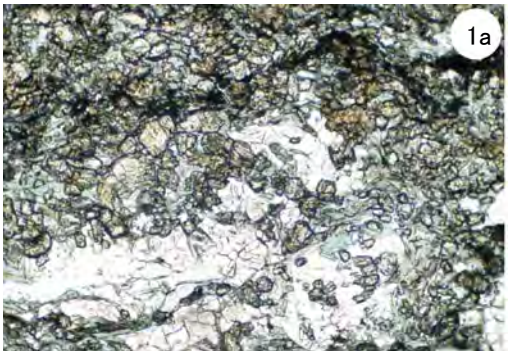
ＳＲ２及びＳＲ３から出土した緑色系片岩は、地理的に近い伊勢地域から運ばれてきた可能性が考えられる。

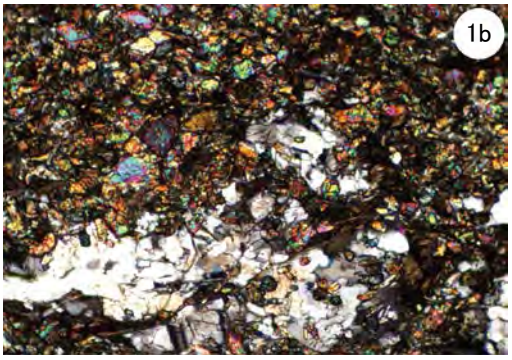
引用・参考文献

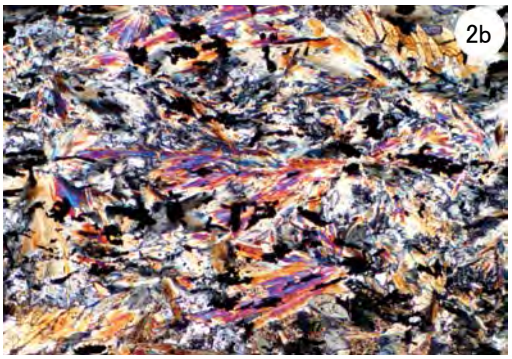
日本の地質「中部地方Ⅱ」編集委員会編（1988）日本の地質5「中部地方Ⅱ」，共立出版，310p.
木村敏雄・速水格・吉田鎮男（1994）日本の地質．東京大学出版会，362p.
黒田吉益・諏訪兼位（1989）偏光顕微鏡と岩石鉱物[第2版]．共立出版,343p
都城秋穂・久城育夫（1972）岩石学Ⅰ．偏光顕微鏡と造岩鉱物．共立出版，219p.

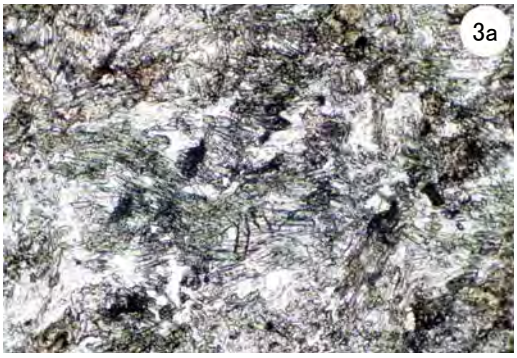


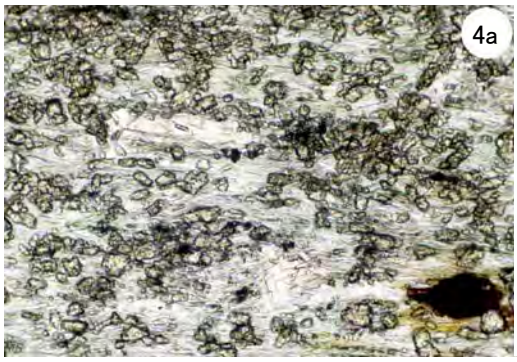
第 36 図　日本の中生代変成岩類の分布

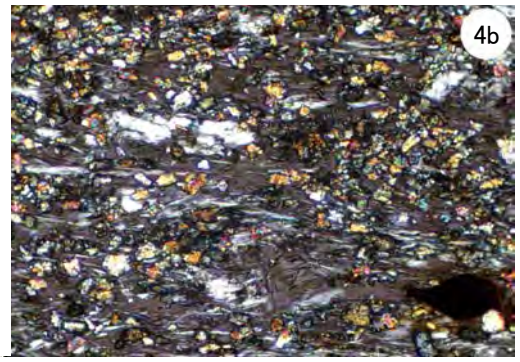












a: 開放ニコル
b: 直交ニコル
bar:200 μm

1a･1b. 分析 No.1
2a･2b. 分析 No.2
3a･3b. 分析 No.3
4a･4b. 分析 No.4

写真図版 4　岩石の顕微鏡写真

第５節　Ｃ地区出土瓦の蛍光Ｘ線分析

竹原弘展・藤根　久（パレオ・ラボ）

１.はじめに

岐阜城千畳敷遺跡Ｃ７トレンチより出土した飾り瓦について、元素マッピング分析を行い、金箔の分布状況を調査した。一部飾り瓦（分析No.1、No.6、No.7）については、黒色付着物の観察、分析を行っている（第６節参照）。

２.試料と方法

分析対象は、飾り瓦９点である（第16表）。

元素マッピング分析は、エネルギー分散型の蛍光X線分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡ（（株）堀場製作所製）を使用した。装置の仕様は、Ｘ線管が最大50kV、1.00mAのロジウム（Rh）ターゲット、Ｘ線ビーム径が100μmまたは10μm、検出器は高純度Si検出器（Xerophy）で、検出可能元素はナトリウム（Na）～ウラン（U）である。また本装置は、試料ステージの走査により元素マッピング分析が可能となる。

分析No.	遺物No.	器種	備考
1	919	飾り瓦	3ヶ所に分けてマッピング
2	920-1		
3	920-2		2ヶ所に分けてマッピング
4	920-3		3ヶ所に分けてマッピング
5	921		2ヶ所に分けてマッピング
6	922		2ヶ所に分けてマッピング
7	923		
8	924		
9	929		2ヶ所に分けてマッピング

第 16 表　元素マッピング分析試料一覧

測定は、瓦表面の元素マッピング分析を行った。なお、瓦の中には、サイズが大きく通常の試料台では測定不可能な試料もあり、その場合通常の試料台を外して自作の試料台をセットして測定した。また、面積が大きい瓦は、２～３分割（Ａ、Ｂ、Ｃ面）した。元素マッピング分析後、金のマッピング図を基に輝度が相対的に高い箇所を２ヶ所（ａ、ｂ）選び、ポイント分析を行った。測定条件は、元素マッピング分析が50kV、1.00mA、ビーム径100μm、測定時間10000s、ポイント分析が50kV、0.10～1.00mA（自動設定による）、ビーム径100μm、測定時間1000sに設定した。定量分析は、標準試料を用いないファンダメンタル･パラメータ法（FP法）による半定量分析を装置付属ソフトで行った。値は、金などの金属元素は単体で、それ以外の瓦胎土に由来すると考えられる元素は酸化物の形で算出した。

３.結果および考察

金（Au）とバックグラウンド（BG、金やケイ素などの蛍光Ｘ線を除いた散乱Ｘ線のこと）のマッピング図を写真図版５～10に、マッピング図中に示したａ、ｂポイントの半定量分析結果を第17表に示す。分析No.1のＡ面ｂポイント、分析No.6のＢ面ｂポイントのポイント分析では、少量ではあるが金が検出された。金が検出された２ヶ所のポイント分析で得られた蛍光Ｘ線スペクトルを、第37図-1～2に示す。マッピング図で輝度が高いだけでは、回折線などの金由来ではない妨害ピークが偶然一致している可能性も考えられるが、両スペクトルとも金マッピング図の測定に使用されている最も高く検出されるピーク以外の金のピークも確認されており、金由来のピークといえる。分析No.6については、実体顕微鏡観察においても金箔が観察された（写真図版10-2）。

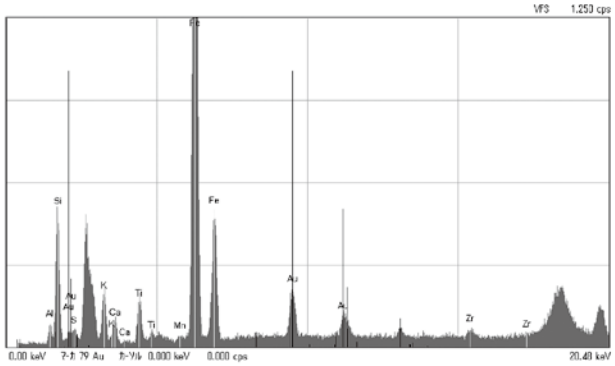
４．おわりに

飾り瓦の元素マッピング分析の結果、分析No.1と分析No.6から金の存在が確認された。金箔が使用されていたとみられる。いずれも金が少量しか残存していなかったため、金箔中の銀や銅の含有については不明であった。その他７点の飾り瓦からは、金は検出されなかった。

分析 No.	報告 No.	位置		Au	Ag	Cu	Zn	Al_2O_3	SiO_2	SO_3	K_2O	CaO	TiO_2	Mn_2O	Fe_2O_3	Rb_2O	SrO	Y_2O_3	ZrO_2	BaO
1	919	A	a	—	—	—	—	—	50.41	7.68	5.34	—	4.55	—	29.75	—	—	—	2.27	—
			b	2.25	—	—	—	13.51	60.12	1.38	4.31	1.52	1.84	0.14	14.81	—	—	—	0.13	—
		B	a	—	—	—	—	20.03	59.16	0.91	4.81	0.60	2.72	—	10.94	0.15	0.08	—	0.06	0.53
			b	—	—	—	—	10.47	48.51	1.32	4.04	0.43	3.31	—	29.84	0.13	0.10	—	0.48	1.34
		C	a	—	—	—	—	14.85	71.37	0.91	3.31	0.33	1.28	0.07	7.72	0.04	—	—	0.13	—
			b	—	—	—	—	16.33	73.53	0.79	3.18	0.21	1.35	—	4.57	—	—	—	0.04	—
2	920-1	a		—	—	—	0.04	23.43	62.44	0.74	3.34	0.35	1.46	0.49	7.59	0.05	—	—	0.08	—
		b		—	—	—	—	17.29	52.11	1.38	5.28	0.55	2.67	—	18.53	0.17	0.12	—	0.37	1.54
3	920-2	A	a	—	—	—	0.43	—	45.04	—	6.99	1.45	4.12	—	34.11	0.35	0.19	—	1.01	6.32
			b	—	—	—	—	22.53	67.73	—	2.85	0.31	1.13	—	5.40	—	—	—	0.04	—
		B	a	—	—	—	—	10.57	50.16	1.85	5.51	0.60	5.12	0.29	25.24	0.16	—	—	0.50	—
			b	—	—	—	—	16.24	61.56	0.61	7.08	0.56	2.94	0.09	10.62	0.07	0.04	—	0.19	—
4	920-3	A	a	—	—	—	—	—	42.82	4.25	4.60	—	6.23	0.57	39.70	0.36	—	—	1.47	—
			b	—	—	0.08	—	22.64	67.81	0.70	2.74	0.20	1.22	—	4.56	—	—	—	0.04	—
		B	a	—	—	—	—	14.38	66.47	0.85	2.14	1.25	2.29	—	11.32	0.11	0.06	—	0.18	0.95
			b	—	—	—	—	19.31	64.41	—	3.80	0.36	2.18	—	9.75	0.04	0.03	—	0.10	—
		C	a	—	—	—	—	—	45.94	4.18	8.18	0.95	6.32	—	32.83	0.34	0.26	—	1.01	—
			b	—	—	—	—	21.12	63.32	0.60	3.50	0.40	1.99	—	8.93	0.05	—	—	0.09	—
5	921	A	a	—	—	—	—	18.00	60.09	1.14	5.15	0.55	2.42	0.15	11.85	0.07	0.03	—	0.20	0.35
			b	—	—	—	—	19.37	69.59	0.36	2.48	0.22	1.53	—	6.40	—	—	—	0.05	—
		B	a	—	—	—	—	24.11	60.83	0.34	4.74	0.32	1.58	—	7.96	0.04	0.02	—	0.06	—
			b	—	—	—	—	16.87	77.06	—	1.24	0.18	1.13	—	3.48	—	—	—	0.04	—
6	922	A	a	—	—	—	—	6.97	78.14	2.01	3.52	0.44	2.21	—	6.60	—	—	—	0.11	—
			b	—	—	—	0.08	13.72	57.14	1.37	4.65	0.54	3.32	0.13	17.60	0.13	0.09	—	0.25	0.98
		B	a	—	—	—	0.03	18.94	68.20	—	3.54	0.27	1.59	0.07	7.24	0.04	—	—	0.08	—
			b	0.88	—	—	—	12.38	66.34	1.57	2.92	0.49	1.96	0.17	12.13	0.09	0.04	0.19	0.16	0.68
7	923	a		—	—	0.03	0.03	17.33	75.37	0.39	2.30	0.55	0.63	0.61	2.46	0.03	0.05	—	0.06	0.19
		b		—	—	—	—	14.19	67.20	—	3.44	—	2.50	0.25	12.20	—	—	—	0.22	—
8	924	a		—	—	—	—	14.95	72.33	0.29	2.95	0.44	1.41	0.05	7.46	0.03	—	—	0.09	—
		b		—	—	—	0.02	16.06	77.21	0.27	1.42	0.21	0.73	0.52	3.38	0.02	—	—	0.04	0.14
9	929	A	a	—	—	—	—	12.77	66.48	0.49	5.37	0.54	2.13	0.10	11.25	0.08	0.05	—	0.17	0.57
			b	—	—	—	—	14.81	62.19	0.55	4.24	0.40	2.74	0.21	14.09	0.07	0.05	—	0.66	—
		B	a	—	—	—	0.02	14.15	80.32	—	1.67	0.13	0.59	—	2.99	—	—	—	0.02	0.10
			b	—	—	—	—	20.53	62.41	—	3.24	0.28	1.74	0.08	10.90	0.08	0.04	—	0.14	0.56

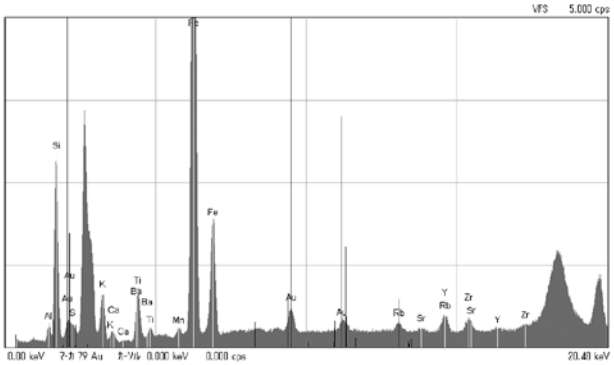
第 17 表　半定量分析結果

1



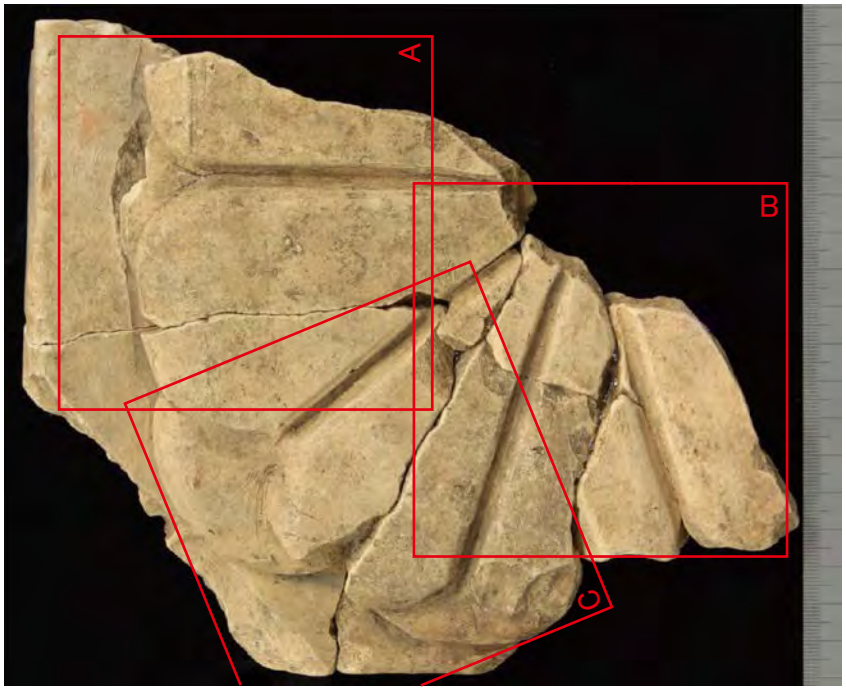
1. 分析 No.1A面bポイント

2

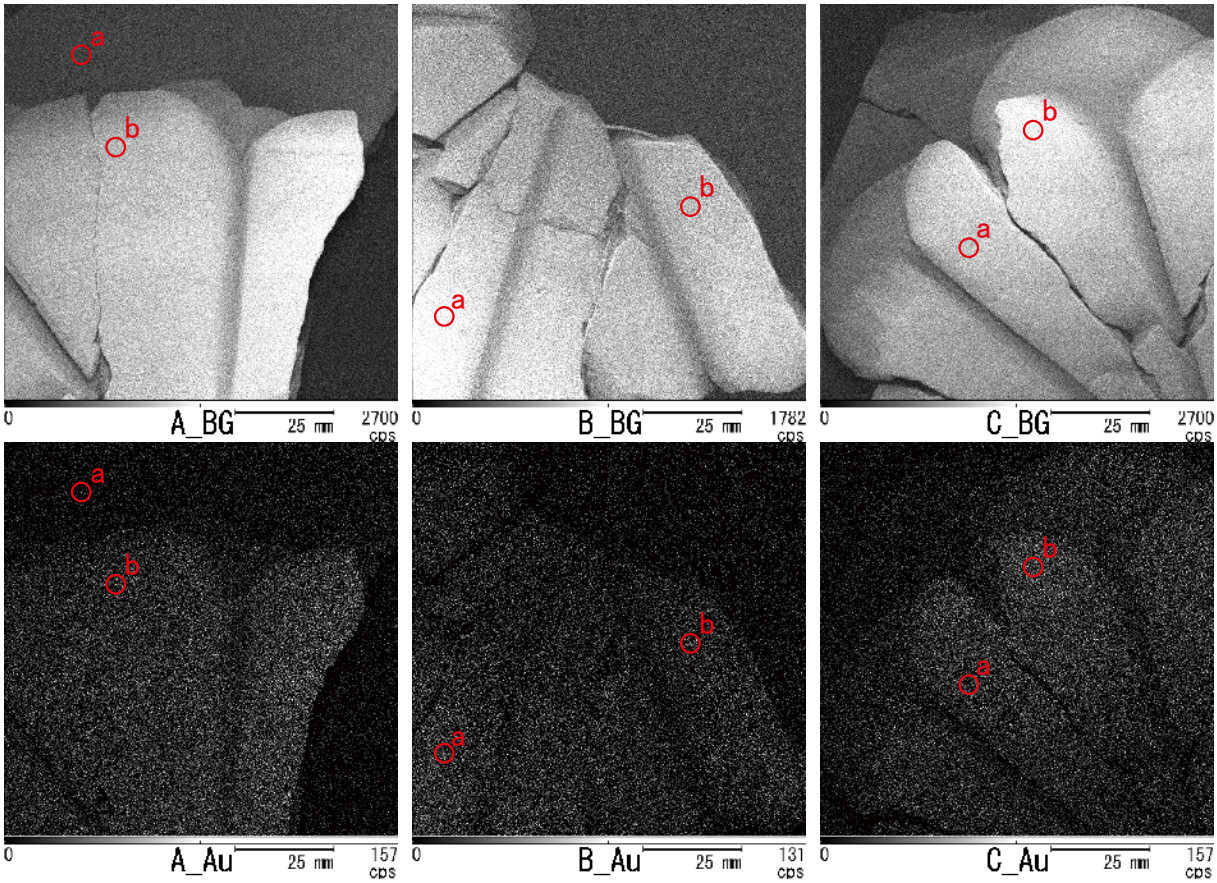


2. 分析 No.6B面bポイント

第 37 図　飾り瓦金検出箇所の蛍光X線スペクトル図

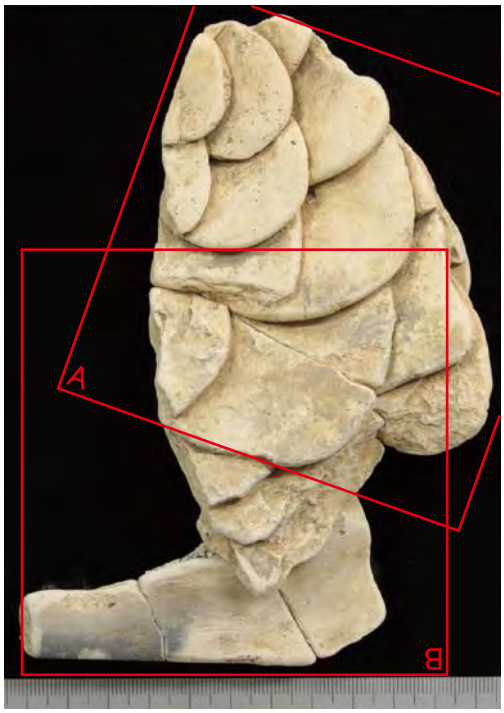


分析 No.1 のマッピング範囲

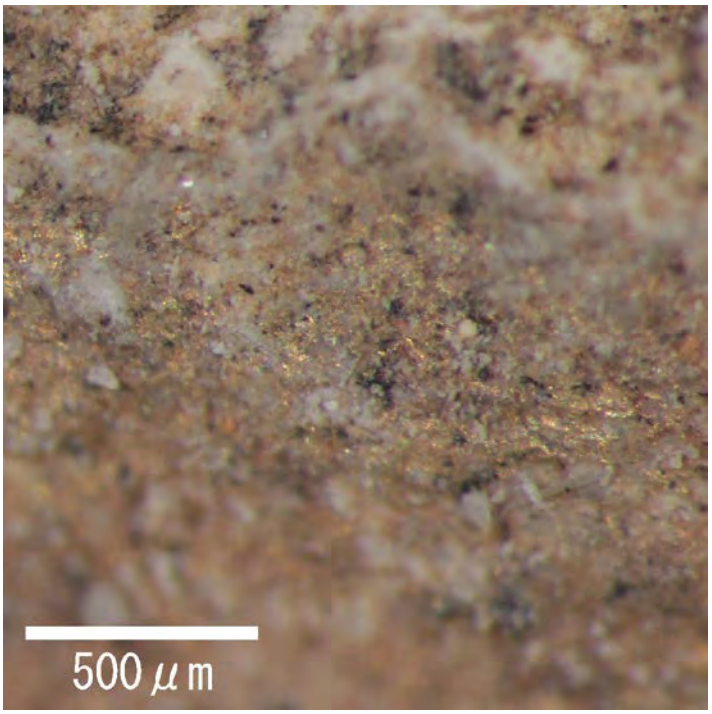


元素マッピング図（BG：バックグラウンド、 Au：金）

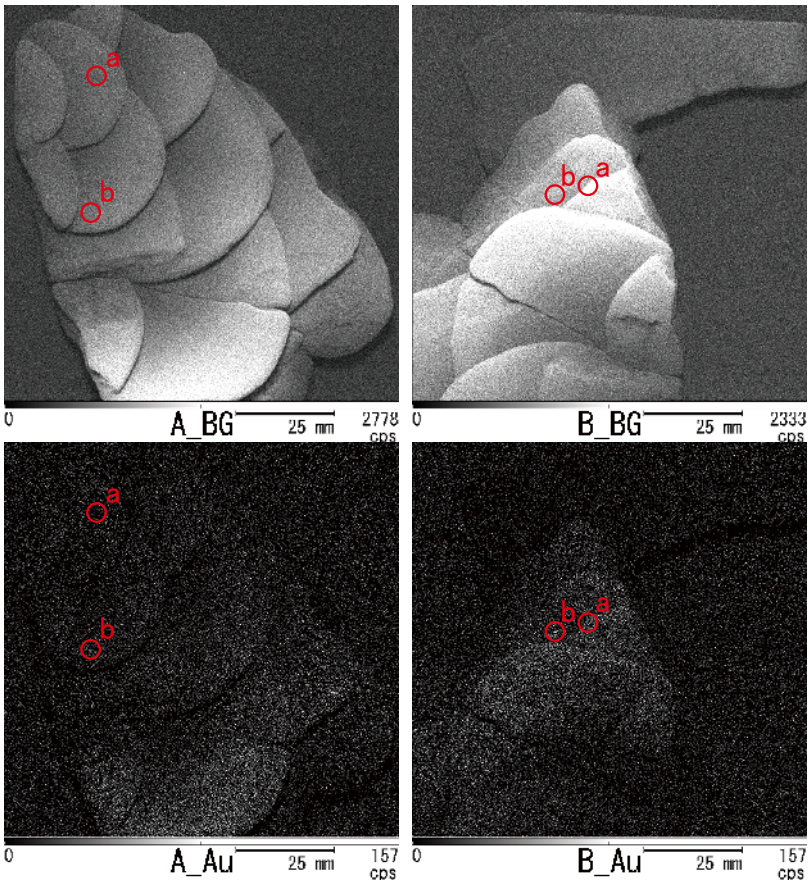
写真図版５　元素マッピング分析結果（１）



分析 No.6 のマッピング範囲



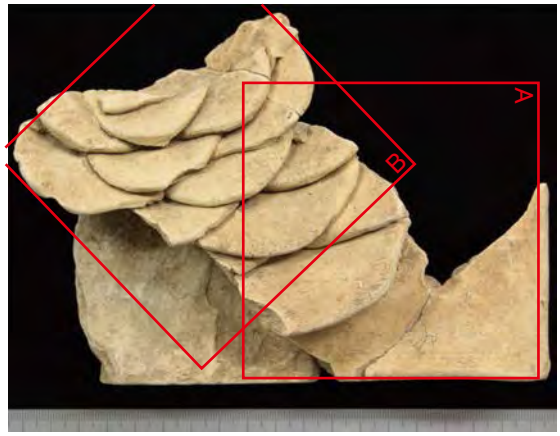
金箔の実体顕微鏡写真（B 面 b ポイント周辺）



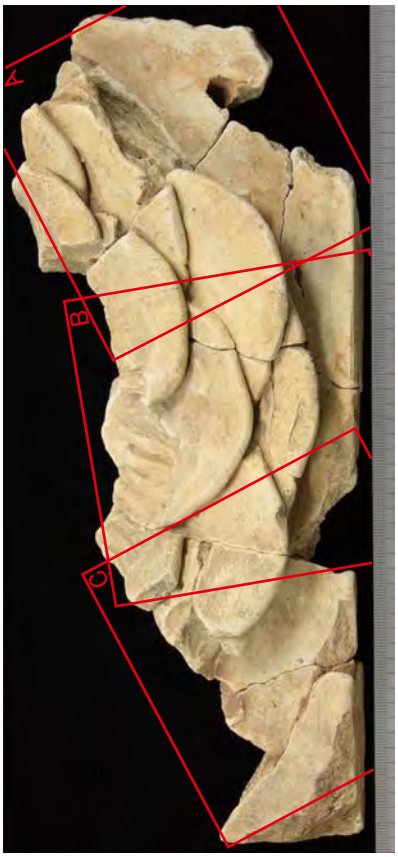
元素マッピング図（BG：バックグラウンド、 Au：金）

写真図版６　元素マッピング分析結果（２）

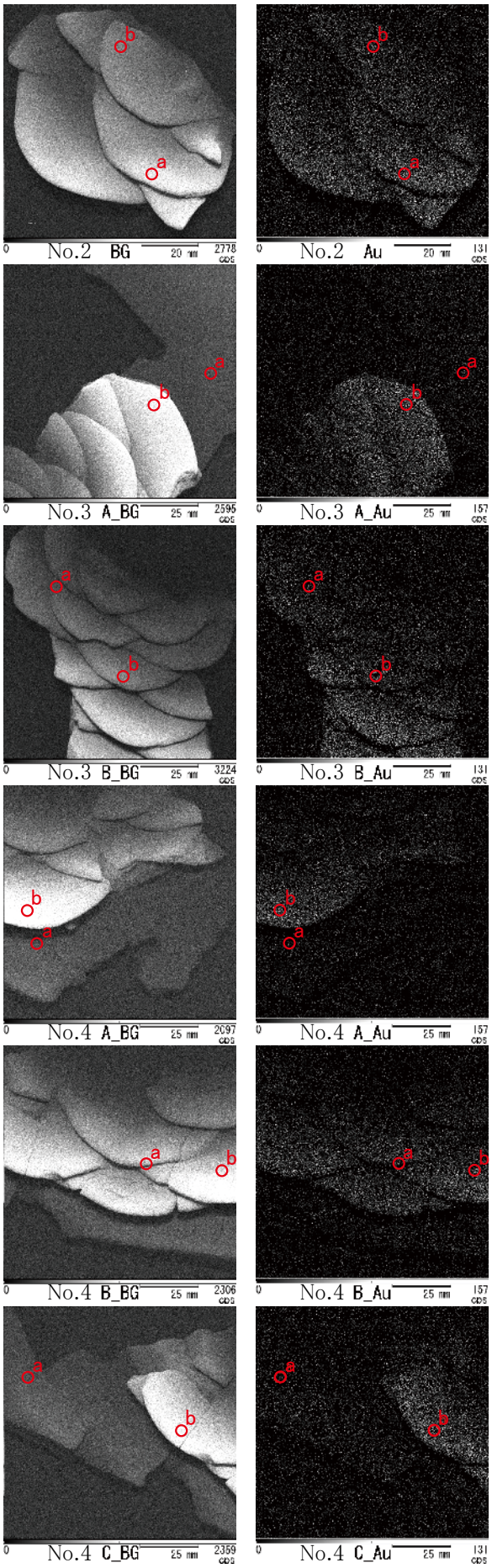
分析 No.2 のマッピング範囲



分析 No.3 のマッピング範囲

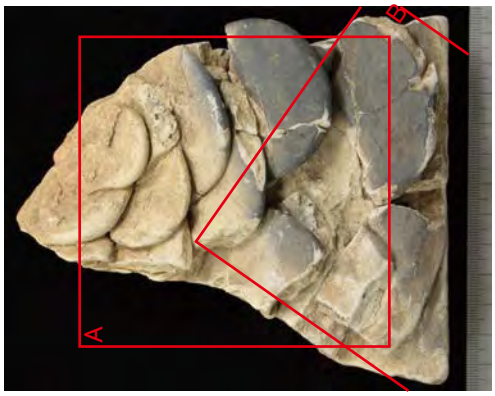


分析 No.4 のマッピング範囲



右；元素マッピング図（BG：バックグラウンド、Au：金）

写真図版７　元素マッピング分析結果（３）

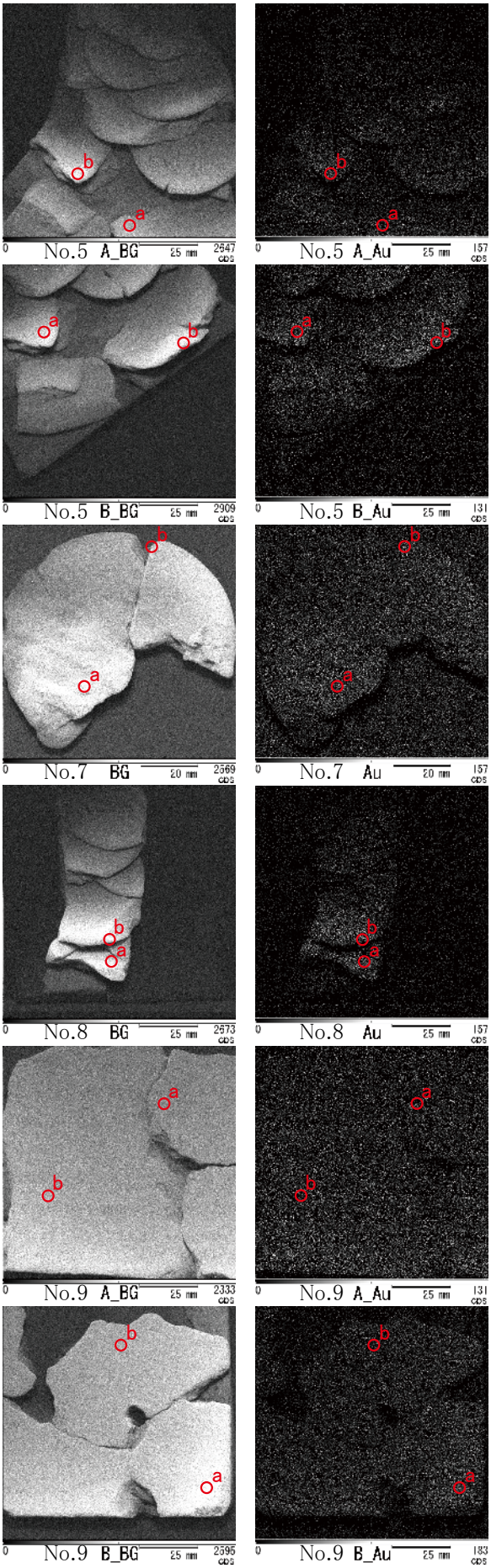


分析 No.5 のマッピング範囲

分析 No.7 のマッピング範囲

分析 No.8 のマッピング範囲

分析 No.9 のマッピング範囲



右；元素マッピング図（BG：バックグラウンド、 Au：金）

写真図版８　元素マッピング分析結果（４）

第６節　Ｃ地区出土瓦の漆分析

藤根　久（パレオ・ラボ）

１．はじめに

岐阜城千畳敷遺跡Ｃ７トレンチより金箔が見られる飾り瓦が出土した。ここでは、金箔が見られない飾り瓦について金箔の漆塗りの痕跡を調べるために赤外分光分析を行った。

２．試料と方法

試料は、飾り瓦３点である（第18表）。なお、金箔が見られた分析No.1は、漆質物が見られなかったことから、実体顕微鏡観察のみ行った。

分析No.	遺物	報告No.	付着物の特徴	備考
1	瓦	922	漆質物未検出	実体顕微鏡観察のみ
2		919	黒色光沢	鉛筆書き跡様
3		923	黒色光沢	鉛筆書き跡様

第 18 表　赤外分光分析試料一覧

赤外分光分析は、付着物から手術用メスを用いて少量削り取り、厚さ１mm程度に裁断した臭化カリウム（KBr）結晶板に押しつぶして、油圧プレス器を用いて約７トンで加圧整形した。

測定は、フーリエ変換型顕微赤外分光光度計（日本分光（株）製FT/IR-410、IRT-30-16）を用いて、透過法により赤外吸収スペクトルを測定し、生漆やアスファルトなどの吸収スペクトルと比較・検討した。

３．結果および考察

以下に、各付着物の赤外分光分析および蛍光Ｘ線分析結果について述べる。なお、赤外吸収スペクトル図は、縦軸が透過率（%R）、横軸が波数（Wavenumber(cm-1)；カイザー）を示す。また、各スペクトル図はノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は生漆の主な赤外吸収位置（第19表）を示す。

吸収No.	生漆		
	位置	強度	ウルシ成分
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	

第19表　生漆の赤外吸収位置とその強度

［分析No.1（試料No.922）］

この飾り瓦は、金箔が残存する瓦であるが、漆特有の光沢のある淡褐色等の漆質物は見られなかった（写真図版11-1）。

［分析No.2（試料No.919）］

この飾り瓦には金箔は見られなかった。付着物は、一定の幅をもつ黒色の光沢物であり、鉛筆で書いたような付着物である（写真図版11-2a）。

赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収No.1およびNo.2）が僅かに見られたが、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収（No.6～8）は確認されなかった（第38図-2b）。

［分析No.3（試料No.923）］

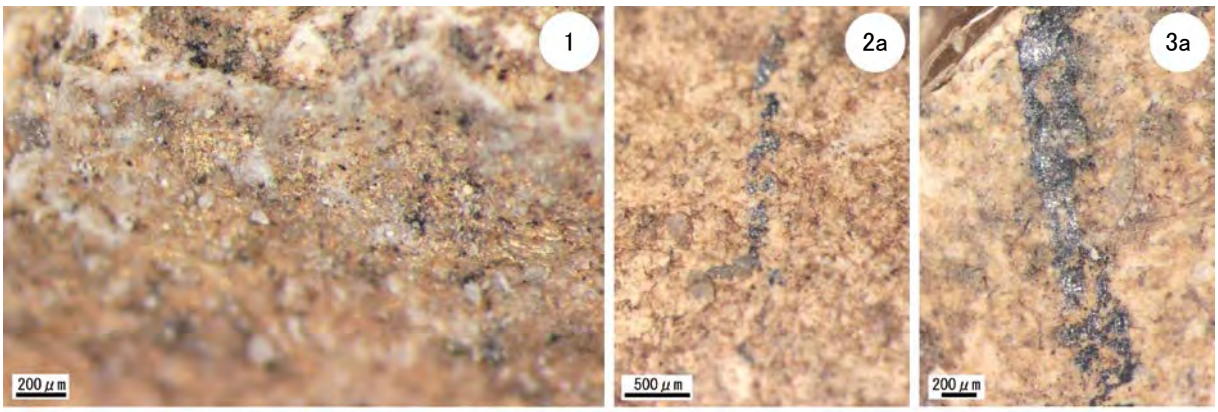
この飾り瓦には金箔は見られなかった。付着物は、試料No.919と同様、一定の幅をもつ黒色の光沢物であり、鉛筆で書いたような付着物である（写真図版11-3a）。

赤外分光分析では、漆などの有機物に見られる炭化水素の吸収（吸収No.1およびNo.2）が明瞭に見られたが、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収（No.6～8）は確認されなかった（第38図-3b）。

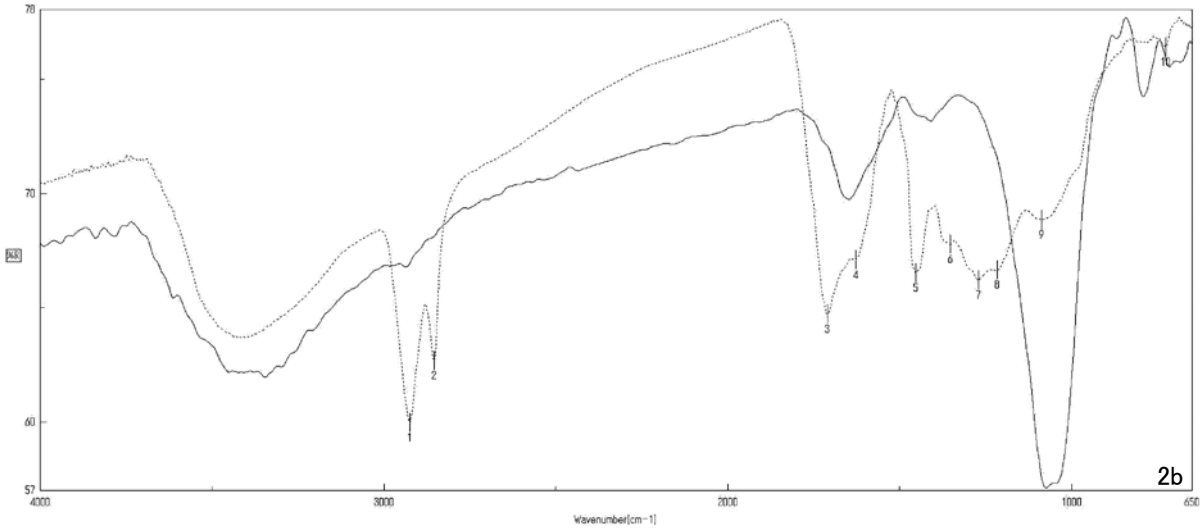
４．おわりに

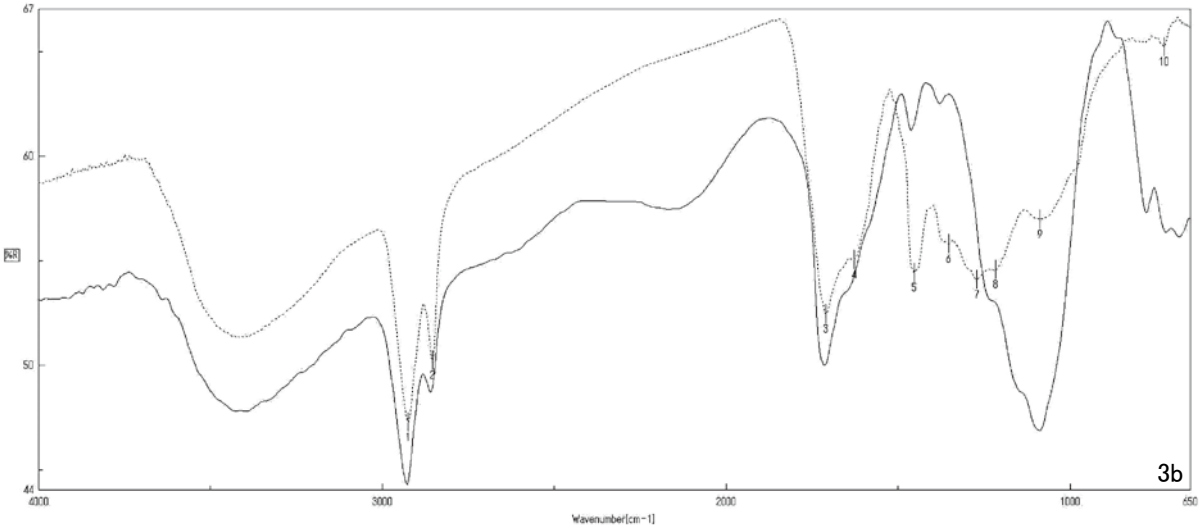
Ｃ７トレンチ出土の金箔が見られる飾り瓦について、金箔の漆塗りの痕跡を調べるために赤外分光分析を行った。

その結果、鉛筆書きのような黒色光沢部分について測定したところ、生漆の吸収は見られなかった。なお、金箔が見られた飾り瓦では、漆様物は見られなかった。



写真図版９　付着物の写真





実線：付着物、 点線：生漆、 数字：生漆の赤外吸収位置

1. 試料 No.922　2a-2b. 試料 No.919　3a-3b. 試料 No.923

第 38 図　赤外分光スペクトル図

池泉遺構SR2と岩盤（北西から）

池泉遺構SR2全景（北西から）

池泉遺構SR2全景（北西から）

池泉遺構SR2全景（北から）

池泉遺構SR2全景（北東から）

池泉遺構SR2全景（東から）

池泉遺構SR2全景（南東から）

池泉遺構SR2全景（南から）

池泉遺構SR2全景（南西から）

池泉遺構SR2全景（西から）

階段SX30・景石11検出状況（西から）

池泉遺構SR2砂堆積状況

池泉遺構SR2転落石検出状況

石組SV51・瓦集積SX56検出状況（北から）

石組SV51・瓦集積SX56検出状況（北西から）

石組SV51・瓦集積SX56検出状況（西から）

石組SV51・瓦集積SX56検出状況（南西から）

階段SX30検出状況（南東から）

階段SX30検出状況（東から）

階段SX30検出状況（北東から）

階段SX30・景石11検出状況（東から）

写真図版 13

階段SX30検出状況（西から）

階段SX30検出状況（西から）

石敷SX55検出状況（北西から）

B20トレンチ東半完掘状況（南から）

B20トレンチ東半完掘状況（西から）

B20トレンチ土層堆積状況（北西から）

登山道検出状況（北西から）

池泉遺構SR3全景（西から）

池泉遺構SR3埋没状況（西から）

池泉遺構SR3土層堆積状況（北から）

池泉遺構SR3炭検出状況（北東から）

池泉遺構SR3炭検出状況（南西から）

池泉遺構SR3北半完掘状況（南西から）

池泉遺構SR3北半完掘状況（東から）

池泉遺構SR3南半完掘状況（北西から）

池泉遺構SR3南半完掘状況（東から）

池泉遺構SR3池底検出状況（南東から）

池泉遺構SR3池底検出状況（南東から）

池泉遺構SR3池底検出状況（南西から）

池泉遺構SR3池底検出状況（北から）

池泉遺構SR3手水鉢出土状況（北東から）

池泉遺構SR3景石2検出状況（北から）

池泉遺構SR3手水鉢・転落石出土状況（南東から）

池泉遺構SR3転落石出土状況（南西から）

池泉遺構SR3景石1・炭堆積状況（西から）

池泉遺構SR3景石1・炭堆積状況（北西から）

池泉遺構SR3景石1・炭堆積状況（南西から）

池泉遺構SR3全景（西から）

C8トレンチ作業風景

C9－1，2，3トレンチ完掘状況（東から）

C9－1トレンチ南壁土層堆積状況（北から）

C9－1トレンチ深掘南壁土層堆積状況（北から）

C9－1トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

C9－2トレンチ南壁土層堆積状況（北から）

C9－2トレンチ東壁土層堆積状況（西から）

C9－2トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

C9－3トレンチ完掘状況（北から）

C9－3トレンチ完掘状況（南から）

C9－3トレンチ東壁土層堆積状況（西から）

C9－3トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

C9－4トレンチ東半北壁土層堆積状況（南から）

C9－6トレンチ南壁土層堆積状況（北から）

C9－6トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

C9－6トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

C10トレンチ全景（南西から）

C10トレンチⅢ層検出状況（西から）

石積SV47検出状況（南西から）

石積SV47検出状況（西から）

石積SV47検出状況（北から）

石積SV47検出状況（東から）

石積SV47検出状況（南から）

C11トレンチ全景（北から）

石垣(1次)SV5・石組SV50検出状況（北西から）

石垣(1次)SV5・石組状遺構SX52検出状況（北から）

石垣(1次)SV5・石組SV50検出状況（北から）

石垣(1次)SV5検出状況（東から）

石組SV49検出状況（北から）

石組SV49検出状況（東から）

写真図版 21

石組SV50・集石遺構SX53検出状況（北西から）

石組SV50・集石遺構SX53検出状況（南東から）

石組状遺構SX52検出状況（北東から）

平成26年度現地説明会風景（C11トレンチ）

F3トレンチ全景（南から）

F3トレンチ東壁土層堆積状況（南西から）

F4トレンチ全景（北東から）

F4トレンチ西壁土層堆積状況（東から）

158

199

117

118

157

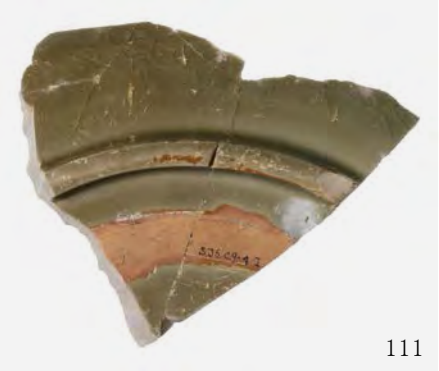
157

87

156

247

111


111

42

42

174

171

40

119

8

7

写真図版 23

137

142

130

10

10

151

151

46

46

64

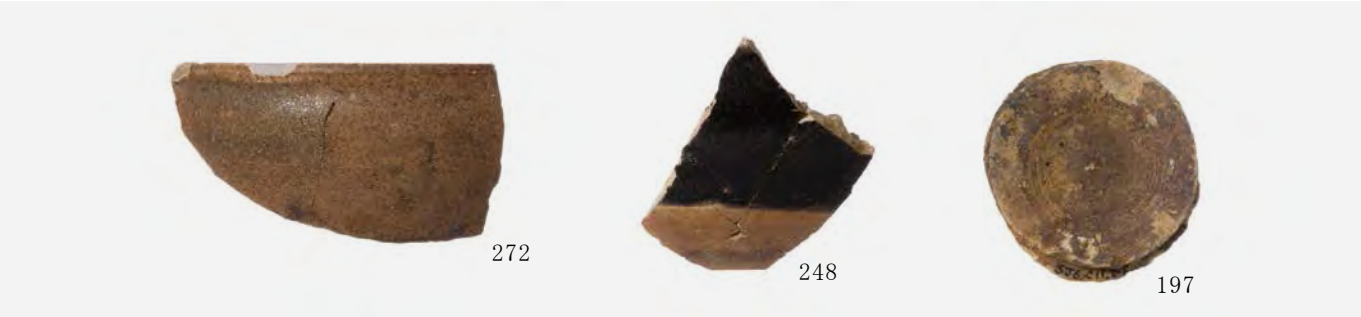
48

48

64

43

43


272
248
197

255
103
249
277
232
201
102
16
128
276
202
134

238
206
71
204
184
185

17
207
19
129
280

279
22
140
135
105
209
12

121
230
36

62
179
223
45
180
75

181
224
91
269

125
23
210
211
110
282
212
95
141
58
283
216

125
23
210
211
110
282
212
95
141
58
283
216

報告書抄録

フリガナ	ギフジョウアト
書名	岐阜城跡
副書名	織田信長居館伝承地の確認調査
巻次	4
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	恩田裕之・髙橋方紀・大下　永・(株)パレオ・ラボ
編集機関 所在地	岐阜市教育委員会（〒500-8720 岐阜市神田町1-11 058-214-2365） (公財)岐阜市教育文化振興事業団（〒500-8245 岐阜市上川手735-2 058-259-4646）
発行年月日	2016年3月24日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
岐阜城千畳敷遺跡	岐阜市千畳敷	21201	7195	35°26'5″	136°46'30″	20120604 ～ 20130314 20140718 ～ 20150130	407㎡	遺跡の 内容確認

所収遺跡名	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
岐阜城千畳敷遺跡 (国史跡岐阜城跡)	戦国時代	池泉遺構 石積遺構 礎石 階段 石組遺構 石敷遺構 集石遺構	瀬戸美濃産陶器 輸入陶磁器 土師器皿 瓦 石製品 金属製品	2箇所で池泉遺構を検出 1つは岩盤を背後にしたもので、石積による護岸、階段が設けられる もう1つは巨石列を背後にしたもので、緑色片岩の景石や円礫敷が伴う

岐　阜　城　跡　4

－織田信長居館伝承地の確認調査－

平成 28 年３月

発行　岐阜市神田町 1-11
岐阜市教育委員会